

西迎遺跡

1990

群馬県勢多郡柏川村教育委員会

西迎遺跡



昭和60年度調査遺跡　遺景（南より）



西迎遺跡　全景（北より）

昭和60年度調査遺跡

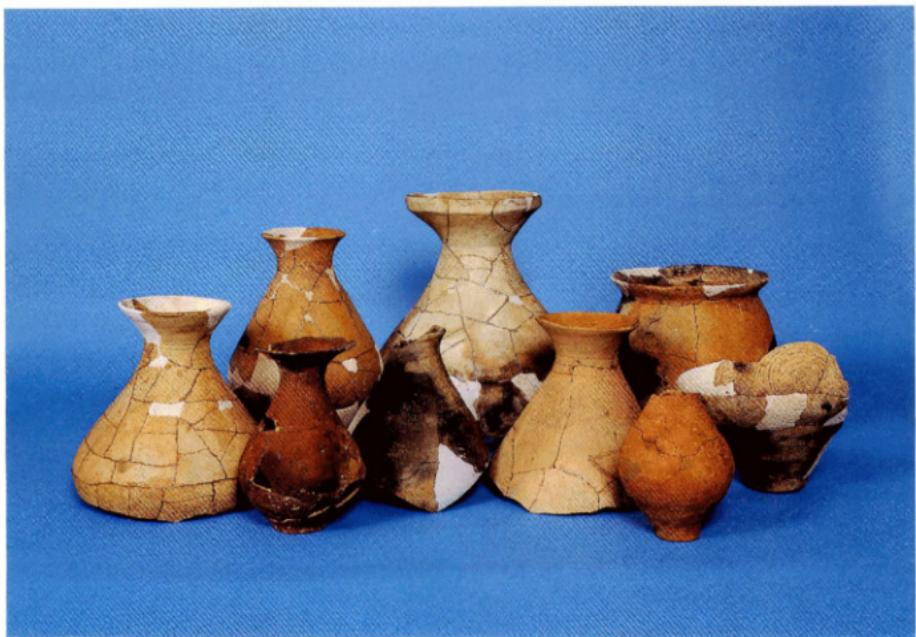
昭和60年度は、柏川村の南部にあたる深津地区が調査の対象となった。

深津は、仏教説話集『神道集』に収められる赤城神の由来を脱いた「赤城大明神の事」の舞台となった地とされている。

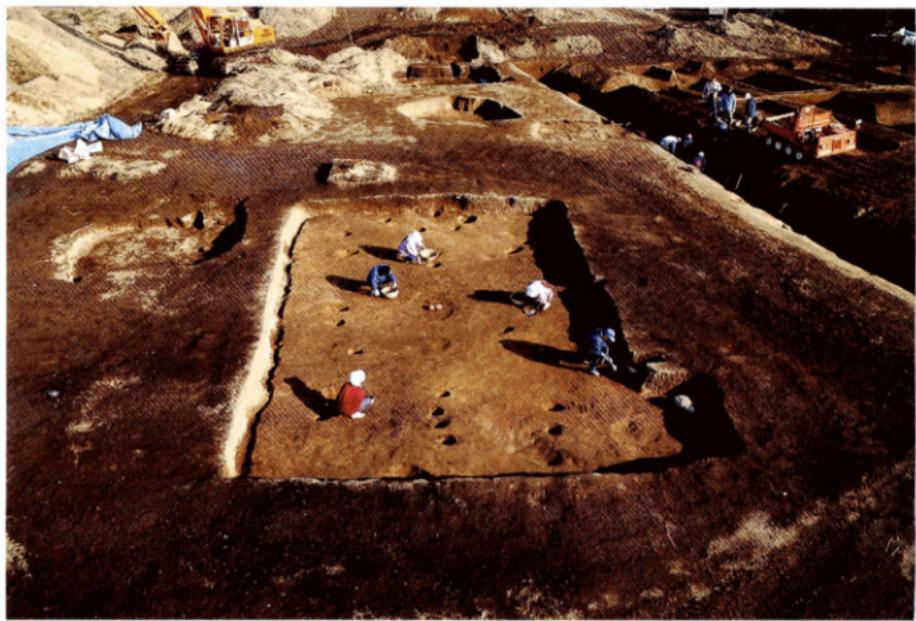
深津地区的地形は複雑である。洪積台地、柏川扇状地、そしてそれらを浸食する湧水を伴う谷地が入り組んでいる。この深津の地は、欠水性土壌の多い柏川扇状地の中あって、古代から農耕に適した地域であった。

西迎遺跡

西迎遺跡では、弥生時代中期後半から平安時代にかけての集落が発掘された。遺跡の南端部には古墳時代前期の方形周溝墓群がある。



13号住居出土遺物



13号住居全景（西より）

13号住居出土遺物

西迎遺跡からは弥生時代中期後半の遺物が多く出土した。これまで赤城山南麓地域では、弥生時代中期後半の土器については不明な部分が多くかった。今回の西迎遺跡出土の一括資料は当該期の土器の状況を知るうえで重要な資料となった。

13号住居全景

弥生時代中期後半の住居が15軒調査された。13号住居は東西11m、南北7mの大型住居である。弥生時代の集落でどのような役割をもっていたのだろうか。

序

柏川村は赤城山南麓に開けた村です。最近ではだいぶ様子が変わってきたが、米麦と養蚕を中心とした典型的な純農業地域と言えます。この農業の伝統はいつから生まれてきたのでしょうか。

ここに報告する『西迎遺跡』は弥生時代中期後半から平安時代にかけての集落遺跡です。特に、弥生時代中期の堅穴住居15軒がまとまって検出されました。そして、それらの住居から出土した土器の表面にはモミ殻の圧痕が認められるものもあります。群馬県にあっては、弥生時代は、まさにコメ作りの始まった時代といえます。そして、柏川村にとっても「農業柏川」の原点をこの『西迎遺跡』に見いだすことができると思います。

本報告書が多くのみなさんに活用されることを願ってやみません。

最後に、発掘調査に際し、ご尽力を頂いた地元土地改良の役員さん並びに土地所有者の皆さんに御礼申し上げると共に、酷寒の中、発掘調査に従事された皆さんへの心より感謝申し上げ、序といたします。

平成2年3月

柏川村教育委員会

教育長 中 嶋 茂 美

例　　言

1. 本書は昭和60年度柏川地区県営圃場整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査深津地区遺跡群の内「西迎遺跡」の発掘調査報告書である。
2. 「西迎遺跡」は群馬県勢多郡柏川村深津字西迎1303-1番地他に所在する。
3. 発掘調査は昭和60年10月21日から昭和60年12月20日まで行った。
また、整理作業及び本書の作成は平成元年4月5日から平成2年3月30日まで行った。
4. 発掘調査は昭和60年度の国宝重要文化財等保存整備費国庫補助金及び群馬用水土地改良事業所委託金の一部を使用して行った。
整理事業は平成元年度国宝重要文化財等保存整備費国庫補助金を使用して行った。
5. 調査組織は次のとおりである。

事務局

- 教育長 金井久雄 (62年9月退任)
事務局长 笠原 清 (61年6月転出)
係 長 坂本 実 (62年6月転出)
調査担当 文化財担当 小島純一
調査員 竹内 寛 (現 大間々町教育委員会)
笠原仁史 (現 玉村町教育委員会)

6. 本書の作成組織は次のとおりである。

事務局

- 教育長 中嶋茂美 (62年10月着任)
事務局长 梅沢 上 (平成元年4月着任)
局長補佐 横沢克明 県派遣社会教育主事 (昭和62年4月着任)
係 長 木島定幸 (平成元年4月着任)
文化財担当 小島純一

7. 本書の作成は小島が編集・執筆を担当し、遺構写真は竹内・笠原による。また、遺物写真は真下泰男 (柏川村サンフォト) による。なお、本書の作成には以下のものが参加した。

- 庶務担当 笠原嘉子 遺物接合復元 中嶋あぐり
遺物実測及びレイアウト 鈴木幸子 吉沢てい子
8. 発掘調査によって出土した遺物については總て柏川村教育委員会で保管管理している。
 9. 調査から整理にかけて、下記の方々からご指導、ご助言を賜った。記して感謝申し上げます。
- 井上唯雄 柿沼忠介 小島敦子 小山浩夫 坂爪久純 鹿田雄三 能登 健 林 幸彦
前原 豊 右島和夫

凡　　例

1. 本書の挿図の方位は座標化を示す。
2. 本書で使用した地形図は下記のとおりである。
 - 図1 國土地理院20万分の1「宇都宮」
 - 図2 國土地理院2.5万分の1「鼻毛石」
 - 図3 國土地理院5万分の1「前橋」
3. 本書の遺構図、遺物図の縮尺は下記のとおりである。

住居址平面図	1 / 80
竈平面図	1 / 40
古墳平面図	1 / 100
古墳土層断面図	1 / 40
土器及び土製品	1 / 4
石器及び石製品	1 / 4
4. 土器観察表及び挿図の番号は、遺物取り上げ番号をそのまま使用した。
一括取り上げの遺物については、遺構毎の通し番号とした。
5. 挿図の土層断面のアミ表記は下記のとおりである。

■■■■■ 浅間B軽石 (As-B)

||||||| 浅間C軽石 (As-C)

◆◆◆◆ 焼土

目 次

卷頭図版

序

例 言

凡 例

I 発掘調査の経緯	1
II 発掘調査の概要	2
1 西迎遺跡の位置	2
2 周辺の遺跡	2
3 調査の方法と概要	2
III 調査の記録	5
1 弥生時代の遺構と遺物	5
2 古墳時代前期の遺構と遺物	8
3 古墳時代中期の遺構と遺物	9
4 古墳時代後期の遺構と遺物	10
5 奈良・平安時代の遺構と遺物	11
6 時期不明の遺構	12
挿 図 遺構実測図	17
出土遺物実測図	17
遺物観察表 土器	59
IV 調査の成果と今後の課題	83
写真図版	
付 図	

挿図目次

図1 西迎遺跡の位置	1	図29 2号方形周溝墓実測図・遺物実測図	35
図2 昭和60年度調査遺跡	1	図30 3号方形周溝墓実測図	37
図3 西迎遺跡と周辺の遺跡	3	図31 4号方形周溝墓実測図・遺物実測図	39
図4 西迎遺跡調査図	4	図32 5号方形周溝墓実測図・遺物実測図	41
図5 7号住居実測図・遺物実測図(1)	17	図33 6号方形周溝墓実測図	41
図6 7号住居遺物実測図(2)	18	図34 7号方形周溝墓実測図	42
図7 21号住居実測図・遺物実測図	18	図35 5号住居実測図・遺物実測図	43
図8 9号住居実測図・遺物実測図	19	図36 8号住居実測図・遺物実測図	44
図9 10号住居実測図・遺物実測図	20	図37 34号住居実測図・遺物実測図	45
図10 11号住居実測図・遺物実測図	20	図38 1号住居実測図・遺物実測図	45
図11 13号住居実測図・遺物実測図(1)	21	図39 3号住居実測図・遺物実測図	45
図12 13号住居遺物実測図(2)	22	図40 2号住居実測図・遺物実測図	46
図13 13号住居遺物実測図(3)	23	図41 16号住居実測図・遺物実測図	47
図14 25号住居実測図・遺物実測図	23	図42 4号住居実測図・遺物実測図	48
図15 20号住居実測図・遺物実測図(1)	24	図43 18号住居実測図・遺物実測図	48
図16 20号住居遺物実測図(2)	25	図44 31号住居実測図・遺物実測図	49
図17 22号住居実測図・遺物実測図	26	図45 17号住居実測図・遺物実測図	49
図18 27号住居実測図・遺物実測図	26	図46 19号住居実測図・遺物実測図	50
図19 29号住居実測図・遺物実測図	27	図47 24号住居実測図・遺物実測図	50
図20 30号住居実測図・遺物実測図	27	図48 26号住居実測図・遺物実測図	50
図21 32号住居実測図・遺物実測図(1)	28	図49 12号住居実測図・遺物実測図	51
図22 32号住居遺物実測図(2)	29	図50 14号住居実測図・遺物実測図	51
図23 23号住居実測図・遺物実測図	29	図51 15号住居実測図・遺物実測図	51
図24 33号住居実測図・遺物実測図	30	図52 6号住居実測図	52
図25 各住居出土土器拓影図	31	図53 地割れ内出土遺物実測図	52
図26 各住居出土の南東北系土器拓影図	32	図54 墓窓実測図	52
図27 28号住居実測図・遺物実測図	33	図55 壺の組列	84
図28 1号方形周溝墓実測図	34	図56 壺の組列	85

写 真 日 次

P L. 1	1 赤城山と深津地区遺跡群（南より）	2 13号住居炉址
	2 昭和60年度調査遺跡（南西より）	3 13号住居遺物出土状況
P L. 2	1 西迎遺跡全景（南より）	4 13号住居壁周溝
	2 西迎遺跡南区全景（東より）	5 13号住居遺物出土状況
P L. 3	1 西迎遺跡と東側の低地	6 13号住居遺物出土状況
	2 西の低地から望む西迎遺跡	7 13号住居遺物出土状況
	3 大型重機による表土剥ぎ	8 13号住居遺物（459）出土状況
	4 精査作業	P L. 9 1 13号住居遺物出土状況
	5 ブーム方式（計測用カメラ）による住居の写真測量	2 13号住居遺物（185・196）出土状況
	6 進む発掘調査	3 13号住居遺物（360・298）出土状況
	7 電子野儀による遺物の取り上げ	4 13号住居遺物（94）出土状況
	8 ケーブル方式（35mm一般カメラ）による写真測量	5 13号住居内埋め廻（487・488）確認状況
P L. 4	1 方形周溝墓群と住居（東より）	6 13号住居内埋め廻断ち割り状況
	2 方形周溝墓と住居の発掘調査	7 13号住居内埋め廻断ち割り状況
	3 大溝の調査	8 13号住居内埋め廻被覆の壺（487）除去後
	4 大溝と方形周溝墓	P L. 10 1 20号住居全景
	5 繩文時代の6号陥し穴（23号住居内）	2 20号住居遺物出土状況
	6 1・2・3号陥し穴	3 20号住居土層堆積状況
	7 4号陥し穴（2号方形周溝墓内）	4 20号住居遺物出土状況
	8 7号陥し穴（4号方形周溝墓内）	5 20号住居土層堆積状況
P L. 5	1 7号住居全景	P L. 11 1 20号住居磨製石斧出土状況
	2 7号住居土層堆積状況	2 20号住居磨製石斧出土状況
	3 7号住居遺物出土状況	3 20号住居遺物（154・183）出土状況
	4 7号住居遺物出土状況	4 20号住居遺物（154・183）出土状況
	5 7号住居遺物出土状況	5 20号住居遺物（326・348）出土状況
	6 7号住居遺物出土状況	6 20号住居遺物（326・348）出土状況
	7 10号住居全景	7 20号住居遺物出土状況
	8 10号住居遺物出土状況	8 20号住居遺物（13・29）出土状況
P L. 6	1 9号住居全景	P L. 12 1 22号住居遺物出土状況
	2 9号住居遺物出土状況	2 22号住居土層堆積状況
	3 9号住居遺物出土状況	3 22号住居遺物（27）出土状況
	4 9号住居P1内遺物出土状況	4 22号住居遺物（2）出土状況
	5 11号住居全景	5 23号住居全景
	6 11号住居遺物出土状況	6 23号住居遺物出土状況
	7 11号住居遺物出土状況	7 21号住居全景
	8 11号住居遺物出土状況	8 25号住居全景
P L. 7	1 13号住居全景	P L. 13 1 29号住居遺物出土状況
	2 13号住居遺物出土状況	2 29号住居全景
P L. 8	1 13号住居土層堆積状況	3 29号住居遺物出土状況

4	29号住居土層堆積状況	5	6号方形周溝墓土層堆積状況
5	29号住居遺物（12・13）出土状況	6	7号方形周溝墓全景
6	27号住居全景	7	7号方形周溝墓土層堆積状況（浅間C 壁石）
7	27号住居遺物出土状況	P L. 21	1 5号住居遺物出土状況
8	27号住居遺物出土状況		2 5号住居全景
P L. 14	1 30・31号住居全景		3 5号住居遺物（132・170・172）出土状況
	2 30号住居土層堆積状況		4 5号住居遺物（2・3・4・5）出土状況
	3 30号住居遺物（4）出土状況		5 5号住居遺物（8・9・10）出土状況
	4 30号住居（88）出土状況	P L. 22	1 8号住居全景
	5 30号住居遺物出土状況		2 8号住居遺物（11）出土状況
P L. 15	1 32号住居全景		3 8号住居遺物（1・2・3・4・5）出土状況
	2 32号住居遺物出土状況		4 8号住居遺物（2・3・4・5）出土状況
	3 32号住居遺物出土状況		5 8号住居遺物（1・2・3・4・5）出土状況
	4 32号住居遺物出土状況		6 8号住居遺物（11・12）出土状況
	5 32号住居遺物（37）出土状況		7 8号住居遺物（6）出土状況
	6 32号住居遺物出土状況	P L. 23	1 2号住居全景
	7 33号住居全景		2 2号住居電部
	8 33号住居P2内遺物（88）出土状況		3 2号住居遺物（1・3）出土状況
P L. 16	1 方形周溝墓群全景（北より）		4 3号住居全景
	2 28号住居全景		5 3号住居遺物出土状況
	3 28号住居遺物出土状況	P L. 24	1 4号住居全景
	4 28号住居遺物（1・2・4・5・7）出土状況		2 4号住居遺物出土状況
	5 28号住居遺物出土状況		3 4号住居電部周辺遺物出土状況
P L. 17	1 1号方形周溝墓全景		4 4号住居土層堆積状況
	2 1号方形周溝墓土層堆積状況		5 4号住居遺物（4・3）出土状況
	3 1号方形周溝墓土層堆積状況		6 18号住居全景
	4 1号方形周溝墓土層堆積状況		7 18号住居土層堆積状況
	5 3号方形周溝墓全景		8 18号住居電部周辺遺物出土状況
P L. 18	1 2号方形周溝墓全景	P L. 25	1 16号住居全景
	2 2号方形周溝墓土層堆積状況		2 16号住居土層堆積状況
	3 2号方形周溝墓出土状況		3 16号住居電部遺物出土状況
	4 2号方形周溝墓遺物（36）出土状況		4 16号住居遺物（4）出土状況
	5 2号方形周溝墓遺物（48）出土状況		5 31号住居土層堆積状況
P L. 19	1 4号方形周溝墓全景		6 31号住居電部遺物出土状況
	2 4号方形周溝墓調査状況		7 31号住居遺物（18）出土状況
	3 4号方形周溝墓土層堆積状況		8 31号住居貯蔵穴内遺物出土状況
	4 4号方形周溝墓遺物（4）出土状況	P L. 26	1 19号住居全景
	5 4号方形周溝墓遺物（1）出土状況		2 19号住居遺物出土状況
P L. 20	1 5号方形周溝墓全景		
	2 5号方形周溝墓遺物（1）出土状況		
	3 5号方形周溝墓遺物（2）出土状況		
	4 6号方形周溝墓全景		

	3 26号住居全景	P L. 39 23号住居出土遺物
	4 26号住居遺物出土状況	29号住居出土遺物
	5 24号住居遺物出土状況	30号住居出土遺物
	6 24号住居土層堆積状況	P L. 40 28号住居出土遺物
	7 24号住居遺物出土状況	P L. 41 32号住居出土遺物
P L. 27	1 12号住居全景	33号住居出土遺物
	2 12号住居遺物（石製紡錘車）出土状況	各住居出土土器（拓影図掲載遺物）
	3 14号住居全景	各住居出土東北系土器（拓影図掲載遺物）
	4 14号住居土層堆積状況	P L. 42 2号方形周溝墓出土遺物
	5 14号住居遺物出土状況	4号方形周溝墓出土遺物
	6 17号住居全景	5号方形周溝墓出土遺物
	7 6号住居全景	P L. 43 5号住居出土遺物
	8 15号住居全景	P L. 44 8号住居出土遺物
P L. 28	1 中央大溝全景（東より）	34号住居出土遺物
	2 中央大溝土層堆積状況	3号住居出土遺物
	3 中央大溝西コーナー部	P L. 45 2号住居出土遺物
	4 近世炭窯全景	P L. 46 4号住居出土遺物
	5 炭窯炊口部	16号住居出土遺物
	6 炭窯炊口部近景	31号住居出土遺物
	7 炭窯煙道部	P L. 47 18号住居出土遺物
P L. 29	1 7号住居出土遺物	19号住居出土遺物
	2 9号住居出土遺物	24号住居出土遺物
	3 22号住居出土遺物	26号住居出土遺物
P L. 30	1 13号住居出土遺物	P L. 48 12号住居出土遺物
	2 20号住居出土遺物	14号住居出土遺物
	3 28号住居出土遺物	15号住居出土遺物
P L. 31	1 5号住居出土遺物	地割れ内出土遺物
	2 8号住居出土遺物	P L. 49 7号住居出土石器
	3 3号住居出土遺物	33号住居出土石器
P L. 32	7号住居出土遺物	13号住居出土石器
	9号住居出土遺物	20号住居出土石器
P L. 33	10号住居出土遺物	10号住居出土石器
	11号住居出土遺物	9号住居出土石器
	22号住居出土遺物	33号住居出土磨製石斧
P L. 34	13号住居出土遺物（1）	33号住居出土特種磨石
P L. 35	13号住居出土遺物（2）	20号住居出土磨製石斧
P L. 36	13号住居出土遺物（3）	P L. 50 各住居出土横長削器・撫器
P L. 37	20号住居出土遺物（1）	33号住居・32号住居出土石核撫器
P L. 38	20号住居出土遺物（2）	7号住居・23号住居・32号住居出土石核

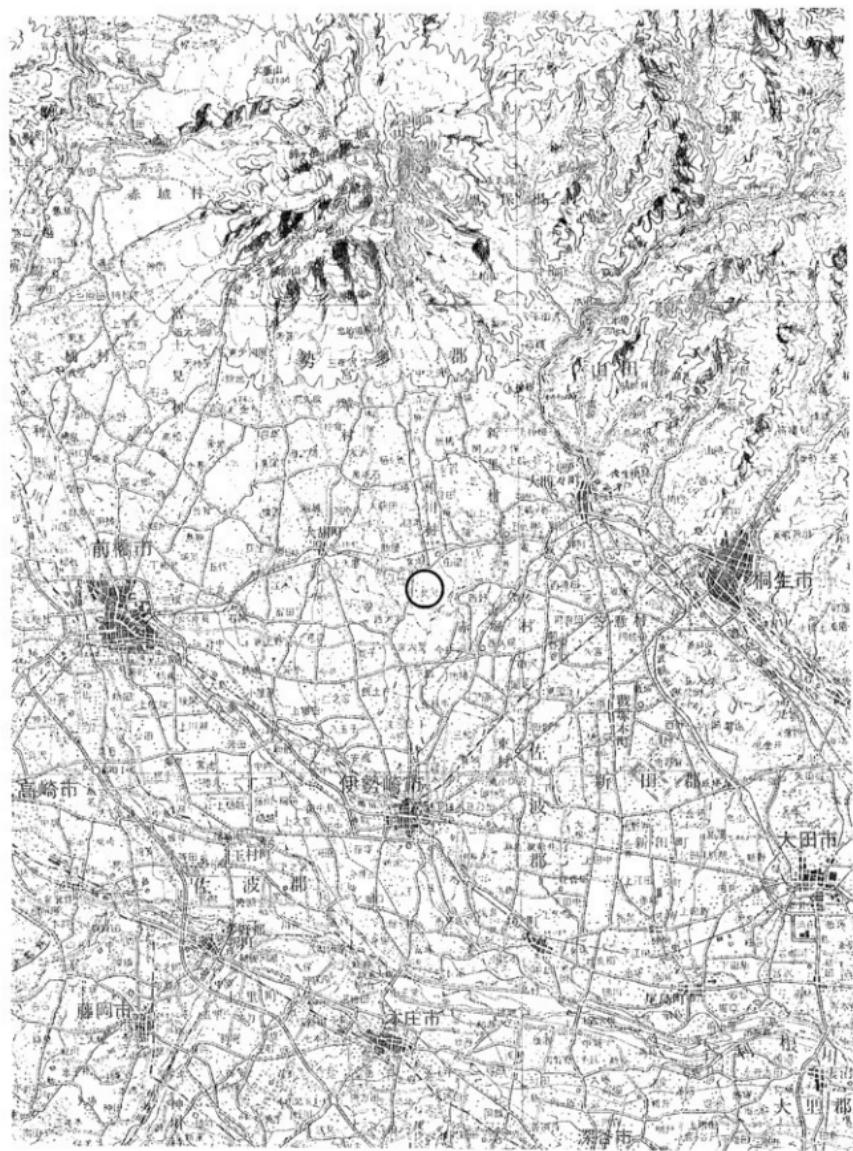


図1 西迎追跡の位置

I

発掘調査の経緯

柏川村は昭和53年度より県営圃場整備事業をほぼ全村にわたって実施することになった。柏川村教育委員会では、それに伴って、直接破壊を受ける埋蔵文化財の記録保存を目的として発掘調査を昭和54年度より開始した。

本書で報告する昭和60年度は、深津三ヶ尻・西迎地区及び女淵八幡地区が圃場整備事業該当区とされた。当初、両地区には7カ所の埋蔵文化財包蔵地と1カ所の古墳の存在が予想されていた。教育委員会ではこれらの遺跡の取り扱いについて、工事施工者である群馬用水土地改良事業所と数度にわたり調整を行った。その結果、これらの周知の遺跡については、圃場整備工事着手前に詳細な試掘調査を行い、その結果に基づいて現状保存あるいは記録保存かを判断することとなった。

試掘調査は昭和60年9月21日より開始した。これに

より当該7遺跡の内、深津西迎遺跡、深津三ヶ尻遺跡、深津西原遺跡、女淵松原田遺跡の4遺跡について、工事変更等による現状保存が不可能と判断され、記録保存を目的とした発掘調査を実施することとなった。また、圃場整備工事中に深津西原遺跡に近接する土塁状遺構が古墳であることが判明したため急速調査を行うこととなった。

発掘調査は昭和60年10月14日より開始し、昭和61年1月14日まで行った。調査期間は延べ85日、調査面積は延べ16,280m²、調査参加人員は延べ3,476名であった。

本書の『西迎遺跡』については、昭和60年10月21日から同年12月19日まで調査を実施した。

調査期間は延べ52日、調査面積は8,400m²、調査参加人員は延べ1,572名であった。

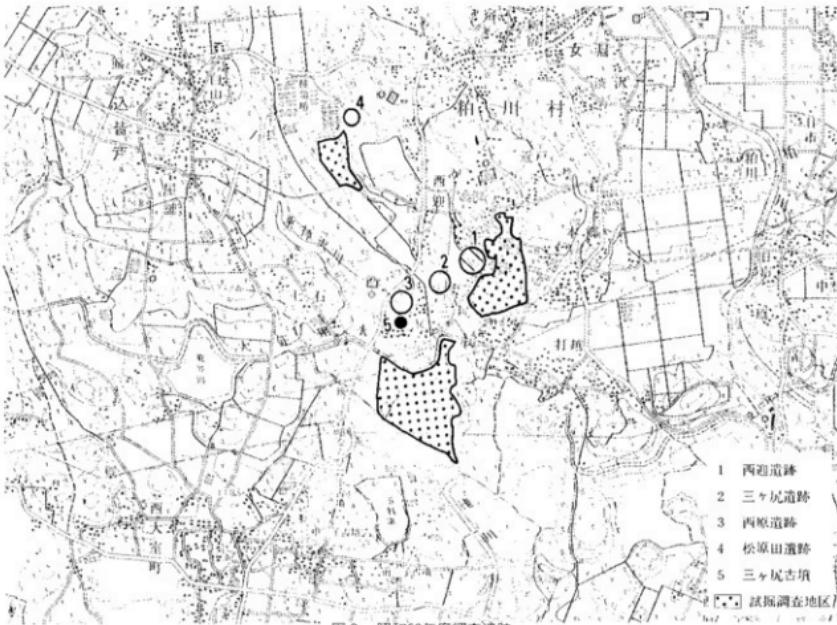


図2 昭和60年度調査遺跡

1 西迎遺跡の位置

西迎遺跡は、柏川村の南西部の大字深津にある。上毛電鉄新屋駅より南に約2kmの距離に当たる。小字「西迎」の集落の南端に位置する。

遺跡は柏川・荒砥川扇状地によって侵食され、独立丘陵状をなす洪積台地南端にある。遺跡地はなだらかな幅の広い舌状台地である。西は赤城山山麓の染み出し水による潤滑な開析谷が南北に延びる。この開析谷の谷底には「頭無沼」と呼ばれる大きな溜め池がある。東も洪積台地から扇状地面を開析する浅い谷があり込む。南は桂川に向かって、一見なだらかな段丘状の地形が続くが、試掘調査を行うと北からの細かい開析谷が何本もあり込み複雑な状況を見せていている。現在でも、これらの開析谷は良好な水田として利用されている。

遺跡の標高は遺跡中央で147.6mである。西の谷地との比高差は約5m、東の谷地との比高差は約1.5m程度である。

2 周辺の遺跡

西迎遺跡の周辺は遺跡の密集地域である。西迎遺跡の位置する洪積台地や洪積台地縁辺の扇状地面には弥生時代から奈良・平安時代にかけての遺跡が切れ目無く分布する。

西迎遺跡の西の谷地を挟んで東側の台地上には方形周溝墓2基と古墳時代前期から奈良・平安時代にかけての集落である三ヶ尻遺跡、古墳時代前期の環濠集落である西原遺跡、縄文時代中期の集落と古墳時代中期の集落から成る後原遺跡が続き、さらにその北には古墳時代後期の横穴式石室を主体とする古墳20基前後と平安時代の小集落及び炭窯跡からなる西原古墳群が続く。

西迎遺跡の北には、10基前後の中・後期の古墳からなる近戸・聖天古墳群がある。

東には古墳時代後期から奈良・平安時代の集落遺跡である友成遺跡が、その北には古墳時代前期から古墳時代後期前半の近戸遺跡へと続いている。友成遺跡の南には方形に源のめぐる坂田城跡と呼ばれる時期不明

の城館跡がある。

これらの遺跡が成立する背景については、すでに『柏川村の遺跡』のなかで指摘されている。

欠水性の地域である柏川扇状地内にあって、本遺跡のある残丘状の洪積台地が比較的自然湧水を多く持ち、それに伴う潤滑な谷地が多く形成されるという条件によるものである。また、周辺の時期別の遺跡の分布を見ると、弥生時代の遺跡は明らかに自然河川や自然湧水などによる潤滑な谷地に近接して分布する。その例として西迎遺跡や前原遺跡が挙げられる。また、古墳時代前期以降、特に古墳時代中期以降には柏川扇状地内への遺跡の積極的な進出が見られる。それらの遺跡の分布はやはり扇状地内の自然河川や自然湧水を作り出す谷地を目指して進出し、その後に集落は谷地に沿って拡大していくことが伺える。渋沢遺跡、友成遺跡、下池皆戸遺跡等がその例として挙げられよう。

3 調査の方法と概要

調査は圃場整備事業によって直接破壊される部分全域を対象として実施した。調査は当初、表土等の残土を調査区域内で処理しなければならないことからトレント調査を実施し、調査対象区画内の遺構のある部分と無い部分の確認を行ってから開始した。大型機械を導入し遺跡全面の表土を剥ぎ、北から順次精査していく。

調査にあたっては、遺構図面の作成に写真測量を遺物の取り上げに電子野帳を導入するなど極力迅速化を図った。

遺跡内の基本土層は赤城山南麓地域の洪積台地の一般的な堆積状況であった。

調査遺構は以下のとおりである。

縄文時代 陥し穴8基が調査された。遺物の出土は無く、他の遺構も検出されなかった。

弥生時代 弥生時代中期後半の住居1軒が調査された。15軒の内5軒は焼失家屋である可能性が高い。

古墳時代 方形周溝墓7基、古墳時代前期の住居2軒、中期の住居3軒、後期の住居5軒が調査された。

奈良・平安時代 住居8軒が調査された。

他に時期不明の遺構として、住居1軒、炭窯1基、溝4条が検出された。

II 発掘調査の概要

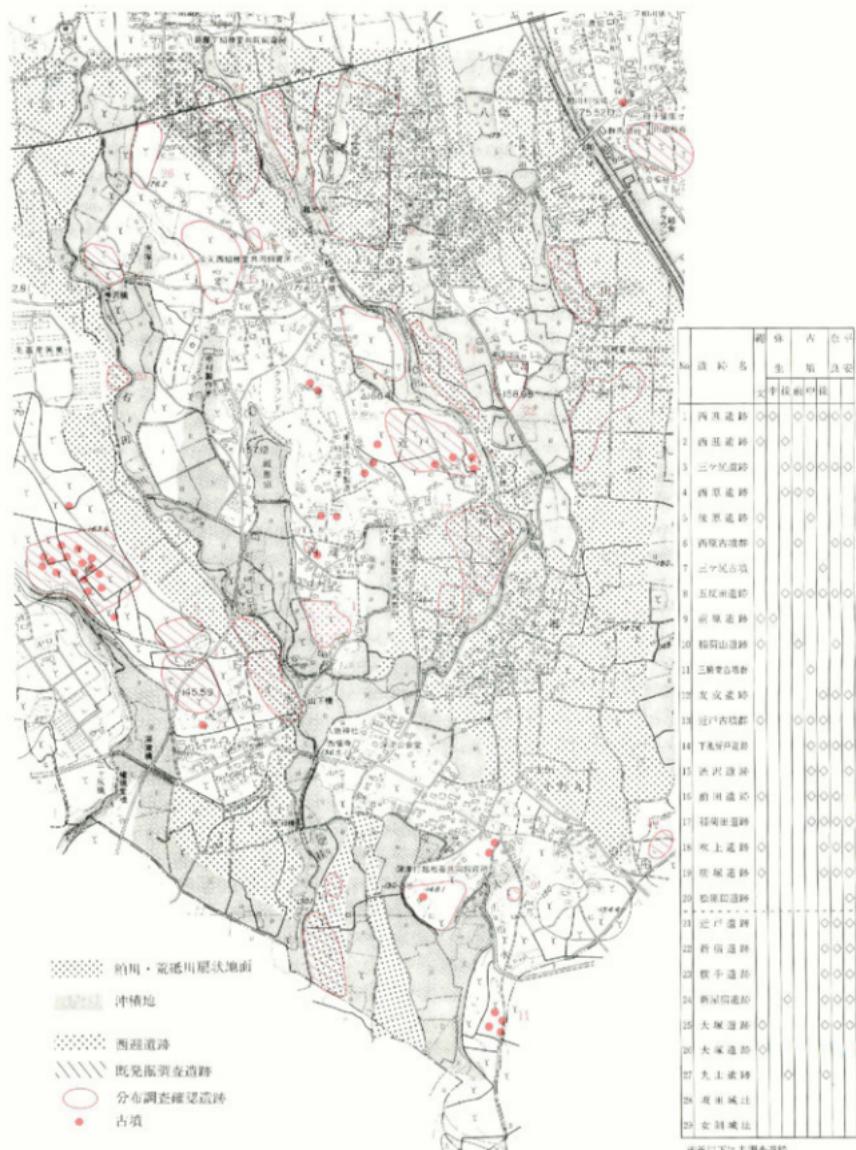


図3 西郷遺跡と周辺の遺跡

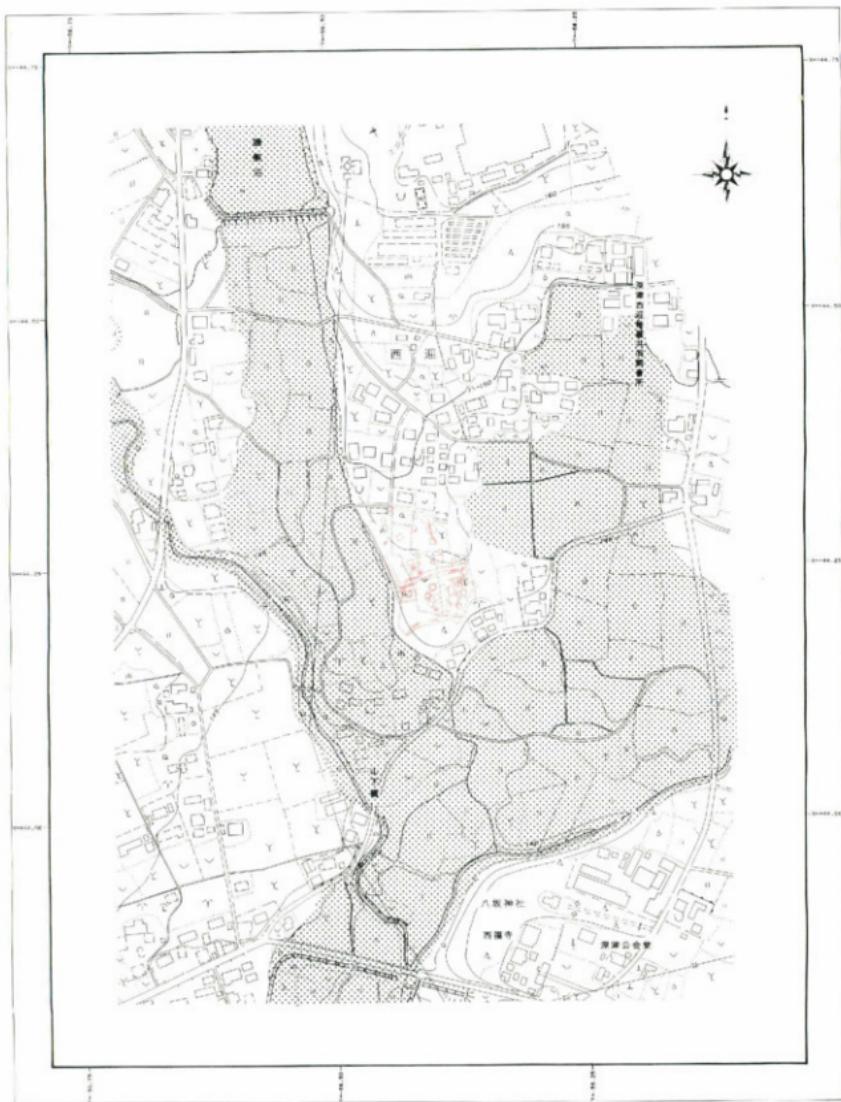


図4 西邑遺跡調査図

III

調査の記録

1 弥生時代の遺構と遺物

7号住居（図5・6、P.L. 5・29・32・49・50）

形状 平面形はやや隅の丸い長方形で、各辺はやや中央部が張る。長辺6.08、短辺3.8mである。確認面からの掘り込みは浅く、住居の残りは比較的悪い。壁高は、最も残りの良い部分で30%である。

床面積 26.02m²

方位 N-5.5°-W

床面 軟らかく、張り床等は確認できなかった。

炉址 円窓使用の炉石2石を持つ地床炉が中央やや北よりに検出された。炉面は良く焼けて赤化していた。

柱穴 明瞭な柱穴は検出できなかった。P₁長径52×短径20×深さ37.8%・P₂32×32×36.4・P₃30×26×10.1・P₄32×28×28.7・P₅28×20×16.0・P₆36×30×17.9・P₇68×48×16.4

遺物 床面直上から比較的多くの遺物が出土したが完形のものは少ない。壺38のみ完形であった。壺38はがれ壺の周辺から出土した。図上復元ができるものでそれぞれ壺7・壺3・高杯？1・鉢1・台付き鉢1固体が出土した。また、磨り石類の出土が多い。石1は砂岩の砥石、石123・11は安山岩の磨り石、石5・4は片岩系の円窓である。他に安山岩の石核9、削器13、黒色頁岩製の削器？が出土した。石核9は円窓を分割し自然面を打面として概ね求心的な剝片剝離を行っている。作成される剥片は不整形な小型のものである。

備考 住居埋め土中第4層中には焼土や炭化物が含まれ、焼土のブロックも確認できた。焼土ブロックは住居の壁より多く検出された。但し、明瞭な炭化材の出土はなかった。貯蔵穴と考えられるものは検出できなかった。住居の一部は時期不明の井戸によって切られている。

9号住居（図8、P.L. 6・29・32・49）

形状 平面形は長方形で長辺6.48、短辺4.72mである。確認面からの住居の掘り込みは浅く、壁高は最も残りの良い部分で23%である。

床面積 29.97m²

方位 N-6.5°-W

床面 軟らかく張り床状のものは確認できなかった。

また、床面は中央部に向かって僅かに傾斜を持ちくぼむ。

炉址 地床炉で、拳大の円窓を用いたが石を2個持つ。焼土はあまり残っていないかった。

柱穴 明瞭な柱穴は検出できなかった。P₁長径36×短径38×深さ60.1%遺物 完形の遺物の出土はなかった。壺3・壺2が出土した。壺81は、貯蔵穴と考えられるP₁内から出土した。他に、磨り石3・削器2が出土した。磨り石6・61は安山岩製、58は砂岩製である。削器55は安山岩製、29は頁岩製でいずれも周縁加工のものである。

備考 埋め土第4層中には焼土や炭化物を含んでいた。貯蔵穴は円形で長径52×短径50×深さ30%である。一部を時期不明の溝で切られている。

10号住居（図9、P.L. 5・33・49）

形状 やや隅の丸い長方形で長辺5.3、短辺3.5mである。確認面からの掘り込みは浅く住居の残りは悪い。壁高は最も残りの良い部分で13%であった。

床面積 19.45m²

方位 N-23.5°-W

床面 軟らかく不明瞭である。張り床状のものは検出されなかった。

炉址 住居中央に検出された。焼土の残りは極めて悪い。

柱穴 明瞭な柱穴は検出できなかった。P₁長径24×短径24×深さ11%・P₂34×32×25.7・P₃36×32×31.4・P₄62×30×39.4・P₅28×28×25.5・P₆44×42×41.9。

遺物 壺1、壺1、磨り石1、削器1が出土した。壺1はほぼ完形である。磨り石は安山岩製で炉の周辺から出土した。削器は黒色頁岩製の周縁加工のものである。

備考 埋め土中には焼土や炭化物を含み、焼土ブロックが住居の壁周辺で検出された。貯蔵穴は検出されなかった。

11号住居（図10、P.L. 6・33）

形状 やや隅の丸い長方形で長辺6.9、短辺4.8mである。住居の残りは極めて悪く、壁高は最も残りの良い部分で14%である。

床面積 34.07m²

方位 N-43.5°-W

床面 軟らかく不明瞭で、張り床は検出されなかった。

炉址 地床炉で拳大の円礫4個からなる炉石を持つ。焼土の残りは悪い。

柱穴 明瞭な柱穴は検出できなかった。 P_1 長径56×短径40×深さ26.1 \pm 、 P_2 44×36×50.8・ P_3 38×24×16.5・ P_4 68×38×45.7・ P_5 40×32×24.6・ P_6 26×24×32.3・ P_7 46×42×60.1・ P_8 36×30×38.3・ P_9 32×24×38.8・ P_{10} 36×32×28.9・ P_{11} 32×18×33。

遺物 図上復元は壺1、壺1、台付き鉢1が可能であった。石器は削器2が出土した。削器69は頁岩製の巻型の削器である。削器2は硅岩質の薄い石材を用いた周辺加工の削器である。

備考 埋め土中には焼土粒子、焼土ブロックや炭化物が多く含まれていた。貯蔵穴は検出されなかった。

13号住居 (図11・12・13、P.L. 7・8・9・30・34・35・36・49)

形状 長方形の大型住居で長辺11.68、短辺7.4 \pm である。住居の残りは極めて良好で、確認面からの壁高は43%である。また、壁下には壁溝が巡らされる。周溝幅は上幅56~18、下幅18~6%、床面からの深さは3.2~8.9%である。

床面積 73.6m²

方位 N-87°-E

床面 軟らかく、張り床状の床は確認されなかった。中央に向かって緩やかな傾斜を持ち、中央部が僅かにくぼむ。

炉址 住居中央にある地床炉で、拳大の円礫の炉石2個を持つ。焼土、灰がよく残っていた。

柱穴 明瞭な柱穴は検出できなかった。 P_1 長径26×短径24×深さ31.1 \pm 、 P_2 38×26×24.8・ P_3 26×22×19.4・ P_4 40×24×23.6・ P_5 22×20×14.6・ P_6 52×44×25.4・ P_7 40×22×29.5・ P_8 32×24×23.6・ P_9 34×32×25.7・ P_{10} 72×72×17.3。 P_6 については貯蔵穴と考えられる。

遺物 遺物の残りは良好で床面直上から完形土器が多く出土した。図上復元遺物を含めて壺17、壺5、壺1、鉢1、土製品1が出土した。

壺185と壺196は住居中央北壁よりの床面直上から、近接して出土した。壺360・298は住居北東よりからまとまって出土した。壺459は P_9 内から出土した。壺94は住居西壁より中央部から出土した。

他に磨り石と搔器が出土した。228・227・216・486一括1が安山岩の磨り石である。一括2は片岩の自然円礫である。搔器は黒色安山岩製で剥片の端部に僅か

に二次加工を施したものである。

備考 床面からは炭化材が出土した。しかし、明瞭な焼土等は確認できなかった。

20号住居 (図15・16、P.L. 10・11・30・37・38・49)

形状 長辺5.7、短辺4.9 \pm のやや隅の丸い長方形である。住居の残りは非常に良好で確認面からの壁高は47%である。

床面積 27.4m²

方位 N-65°-E

床面 やや硬く明瞭である。ただし、張り床状のものは検出されなかった。

炉址 地床炉で住居のほぼ中央に位置する。炉石を持たない、焼土、灰層は不明瞭である。

柱穴 規則的に並ぶ柱穴は確認できなかった。 P_1 長径38×短径24×深さ21%・ P_2 24×20×29・ P_3 48×40×22・ P_4 24×24×27・ P_5 28×22×20・ P_6 28×20×29・ P_7 32×20×31・ P_8 36×20×41.6・ P_9 20×16×22.9

遺物 遺物の残りは良好で床面直上から多くの遺物が出土した。図化できたもので壺8・壺4・壺1が出土した。また、大型磨製蛤刃石斧1、削器1、磨り石3が出土した。9の大型磨製蛤刃石斧は蛇紋岩製で刃部を欠失している。残存長16.9・最大幅8.3・最大厚5.8%、重さ1409gである。一括1は頁岩製の削器で刃部には細かな二次調整が見られる。磨り石3は砂岩製、7は安山岩製のものである。一括2は軽石製で両面に幅の広い磨り溝がある。

備考 床面直上から炭化材や焼土がおおく検出された。

21号住居 (図7、P.L. 12)

形状 平面形は不整形な長方形で長辺2.1、短辺2.0 \pm である。壁高は確認面からの深さ49%である。

床面積 3.6m²

方位 N-87.5°-E

床面 明瞭であるがやや軟質である。

炉址 柱穴は検出されなかった。

遺物 完形品の出土はなかった。

備考 他の住居と比べかなり小型であり、土壤としてとられたほうが良いかもしれない。

22号住居 (図17、P.L. 12・29・33)

形状 2号方形周溝墓、中央大溝によって切られ、住居の北端の一隅しか残っていないかった。残存する東西辺の長さは5.3mであり、20号住居とほぼ同規模の住居と推定できる。壁高は残存する北側の確認面からの高

さで50°である。

方位 N-70°-E

床面 やや軟質であるが明瞭である。

炉址 検出されなかった。

柱穴 主柱穴2本が検出された。P₁長径34×短径20×深さ41.7cm・P₂40×32.0×46.4

遺物 床面直上から壺3、削器1が出土した。また、住居埋め土中上層から小型広口壺1、台付き壺の脚部1が出土している。

23号住居(図23、P.L. 12・39・50)

形状 北側と南側を大溝によって切られている。また、住居西辺より中央では縄文期の階し穴を切る。残存する東西辺は5.58mである。確認面からの壁高は最も残りの良い部分で34°である。住居壁下には壁周溝が巡る。周溝は上幅32~14×下幅18~4×深さ10~15cmである。

方位 N-19°-W

床面 やや軟質。張り床状の部分はなかった。

炉址 住居中央部やや南にある地床炉である。炉石は持たない。また、焼土等も少ない。

柱穴 規則的に並ぶ柱穴の検出はなかった。

遺物 床面直上から櫛1、匙形土製品1、黒色安山岩製の石核1、砂岩製の磨石1が出土した。また、埋め土中からは壺1が出土している。

25号住居(図14、P.L. 12)

形状 遺構の残りは極めて悪く南側は一部不明である。平面形は隅の丸い長方形と推定される。残存する東西辺の長さ3.7mである。壁高は最も残りの良い部分で20°である。

方位 N-19.5°-W

床面 柔らかく不明瞭である。

炉址 地床炉で住居中央やや南にある。2個の炉石を持つ。焼土は極めて薄い。

柱穴 柱穴は検出できなかった。

遺物 床面よりやや浮いた状態で壺1、櫛1が出土した。

27号住居(図18、P.L. 13)

形状 平安期の26号住居によって一部を切られている。東西辺3.62、南北辺4.1m、壁高は36°である。

床面積 11.49m²

方位 N-13.5°-W

床面 比較的軟らかい。叩き絞め状や張り床は検出されなかった。

炉址 検出されなかった。

柱穴 明瞭な柱穴は検出されなかった。

遺物 土器片数点と石斧1が出土した。出土した土器は復元化できるものはなかった。いずれも、無文土器片であった。

備考 貯蔵穴は検出されなかった。

29号住居(図19、P.L. 13・39)

形状 4号方形周溝墓によって南東隅の一部を切られている。平面形は南北に長い長方形で北壁の中央がやや外に張り出す。長辺6.7、短辺4.7m、壁高は北側の最も残りの良い部分で48°である。

床面積 (24.7) m²

方位 N-39°-E

床面 明瞭だがやや軟質。

炉址 住居中央やや南にある。地床炉で炉石を持たない。焼土は極めて薄い。

柱穴 規則的に並ぶ柱穴は検出できなかった。P₁長径84×短径72×深さ118cm・P₂28×26×32・P₃38×28×48.8・P₄26×20×25。

遺物 床面直上から壺3、片岩の自然礫1が出土した。また、埋め土中に住居に流れ込むような状態で大型の甕1が出土した。

備考 床面直上からは炭化材が多く出土した。しかし、焼土は検出されなかった。

30号住居(図20、P.L. 14・39)

形状 一部を7号円形周溝墓及び古墳時代の住居31号住居によって切られている。平面形は南北に長い長方形で長辺5.8、短辺4.6mである。壁高は最も残りの良い部分で確認面から深さ46°である。

床面積 27.5m²

方位 N-21°-E

床面 明瞭だがやや軟質である。

炉址 検出されなかった。

柱穴 4本が検出された。P₁長径28×短径26×深さ20cm・P₂44×38×44.7・P₃20×18×28・P₄26×24×24

遺物 図化できる遺物として、床面直上から壺2、甕2が出土した。また、床面直上からやや浮いた状態で、埋め土中から壺1、甕1が出土している。

32号住居(図21・22、P.L. 15・41・50)

形状 7号円形周溝墓に一部を切られている。平面形は南北に長い長方形で長辺9、短辺5.8mである。ただし、東西辺については一部のみの確認である。壁高は北壁の最も残りの良い部分で30°である。

床面積 (46.7) m²

方位 N-2°-W

床面 やや軟質で張り床状のものは検出できなかった。

炉址 住居は中央にある地床炉で、多孔質安山岩の炉石を1石持つ。焼土は僅かにみとめられた。

柱穴 不規則に並ぶ4本が検出できた。P₁長径52×短径48×深さ36.7°・P₂76×50×36.4・P₃28×20×18.1・P₄44×36×26.3

遺物 壺7、土製錘車2が出土している。壺4の肩部は7号周溝墓の周溝底から出土した。高環は埋め土上層からの出土である。また、石器類の出土が多い。削器・搔器4、石核2が出土した。安山岩製の76を除き総て黒色頁岩製のものである。

33号住居 (図24、P L. 15・41・49・50)

形状 平面形は不整形な長方形である。南隅が不明瞭であった。長辺6.0、短辺5.2m、壁高は最も残りの良い部分で30%である。

床面積 28.79m²

方位 N-62.5°-W

床面 やや軟質で不明瞭。

炉址 地床炉で、ほぼ住居中央にある。焼土は極めて薄く、炉石を持たない。

柱穴 明瞭な柱穴は検出できなかった。P₁長径80×短径48×深さ36.4°・P₂72×52×37.1

遺物 完形品の出土は無かった。壺88はP₂内から出土した。他に土製錘車1、石鐵1、磨製石斧1、搔器2、特種磨石1、片岩自然偏円凹面4が出土した。安山岩製の特種磨石と頁岩製の片面加口の石核搔器についてはその所蔵時期に問題があり、本住居に伴うものかどうかについては今後の課題としておきたい。

2 古墳時代前期の遺構と遺物

28号住居 (図27、P L. 16・30・40)

形状 南辺を4号方形周溝墓によって切られている。東西辺は5.56mで、南北辺は不明である。壁高は最も残りの良い部分で、確認面から50%である。

床面積 (26.30) m²

方位 N-33.5°-W

床面 壁よりがやや凹き絞め状であったが貼り床はなかった。

炉址 検出されなかった。

柱穴 規則的に並ぶ4本の主柱穴を検出できた。P₁長

径32×短径30×深さ64.7°・P₂90×76×44.4・P₃52×44×60.2・P₄36×32×34.5・P₅30×24×39.1・P₆26×20×20.7・P₇64×44×54.7・P₈68×44×28.5・P₉40×32×41.6・P₁₀34×30×38.

遺物 壺2、壺1、台付き壺1、小型壺1、片口1、蓋1、小型器台2が出土した。遺物は殆どが床面直上からの出土である。住居南東隅からまとまって出土した。

備考 住居床面からは炭化材や焼土が多く検出された。

34号住居 (図37、P L. 44)

形状 平面形は南北に長い鶴の丸い長方形である。住居の残りは極めて悪い。長辺4.68、短辺3.96mである。壁高は最も残りの良い部分で18.5%であった。

床面積 18.21m²

方位 N-31°-W

床面 欲らかく不明瞭である。

炉址 検出されなかった。

柱穴 明瞭な柱穴の検出はなかった。P₁長径70×短径36×深さ45.1°・P₂52×32×36.2・P₃28×24×40.9・P₄44×36×24.6・P₅68×64×14.7

遺物 壺1、碗1、高环2の出土があったが、いずれも住居上層の出土であった。

1号方形周溝墓 (図28、P L. 17)

墳丘 平面形は方形で、周囲の各一边が膨らみを持ち外に張り出す。4隅も丸い。周囲の外側まで含む東西長11.56、南北長11.96mである。墳丘は一辺約7mの方形である。墳丘には盛り土は認められず、主体部も検出されなかった。周囲の一部は大溝によって切られている。主軸方向はN-21°-Eである。

周囲 上幅2.9~1.9m、下幅0.95~0.6m、深さ0.49~0.98mで、断面は箱築形である。

遺物 出土しなかった。

2号方形周溝墓 (図29、P L. 18・42)

墳丘 周囲の外側までを含む東西長15.4、南北長15.24mの方形周溝墓で、時期不明の溝等による擾乱が著しい。墳丘の南東部の一部の残りが比較的良好であった。墳丘上には旧表土が確認できることから、盛り土の存在も予想される。主体部は検出されなかった。主軸方向N-9.5°-Wである。

周囲 上幅4.4~3.31m、下幅3.3~1.5m、深さ0.54~0.98mで断面は逆台形状である。周囲の立ち上がりは外側はなだらかに、墳丘よりは垂直に立ち上がる。

III 調査の記録

遺物 周堀内より壺4、甕1の出土があった。

備考 周堀内で縄文時代の陥ち穴1基が検出された。

3号方形周溝墓 (図30、P L. 17)

墳丘 時期不明の溝によって切られ、遺構の残りは極めて悪い。東西長13.7、南北長13.6mで主軸方向はN-11°-Wである。盛り土はみとめられなかった。主体部は検出されなかった。

周堀 上幅2.08~3.72、下幅0.8~2.3、深さ0.51~0.64mで、断面形は逆台形状である。

遺物 出土しなかった。

4号方形周溝墓 (図31、P L. 19・42)

墳丘 平面形は周堀の各辺に膨らみを持ち、外側に張り出す。周堀を含めた南北長15.88、東西長17.32mである。墳丘部は南北長9.0m、東西長9.6mの方形である。現況で1m前後の僅かな高まりがみとめられ、墳丘断ち割りの結果でも旧表土上に僅かに盛り土が確認できた。主体部は検出されなかった。主軸方向はN-36.5°-Wである。

周堀 上幅4.40~2.6、下幅1.9~0.8、深さ0.80~1.53mで、断面は逆台形状で、墳丘側の立ち上がりはほぼ垂直に近い。

遺物 周堀内から大型高壙1、壺1、甕1、壙1が出土した。

備考 周堀には縄文時代の陥ち穴が2基が検出された。

5号方形周溝墓 (図32、P L. 20・42)

墳丘 東西長5.92、南北長6.64mの方形である。

周堀 上幅1.5~0.9、下幅0.5~0.15、深さ0.43~0.65mで、断面形は箱築研状である。

遺物 壺1、小型高壙1が周堀内より出土した。

6号方形周溝墓 (図33、P L. 20)

墳丘 北辺を時期不明の溝によって切られている。東西長7.2、南北長7.6mである。

周堀 上幅1.8~0.7、下幅1.0~0.2、深さ0.33~0.62mで断面形は箱築研状である。中央がやや張り出し丸みを帯びる。

遺物 出土しなかった。

7号方形周溝墓 (図34、P L. 20)

墳丘 4号方形周溝墓に一部を切られている。周堀を含めた東西長11.92、南北長11.20mである。墳丘には盛り土はみとめられなかった。主体部も検出されなかった。

周堀 上幅2.1~1.2、下幅1.4~0.5、深さ0.1~0.37mで、断面形は浅い逆台形状である。周堀の各辺は中央部が張り、丸みを帯びる。埋め土内にはA s-Cの純層が検出された。

遺物 出土しなかった。

3 古墳時代中期の遺構と遺物

5号住居 (図35、P L. 21・31・43)

形状 平面形はやや隅の丸い長方形で、長辺4.7、短辺3.5mである。壁高は確認面から31.9%である。

床面積 15.68m²

方位 N-79°-E

床面 明瞭であるがやや歓らかく、貼り床や叩き絞め状の床は検出されなかった。

炉址 地床炉で住居のほぼ中央にある。焼土が僅かにみとめられた。

柱穴 主柱穴は検出されなかった。

遺物 猥々の遺物が床面直上からの出土であった。甕3、高壙3、小型壙8、双口扇形壙1、小型甕2、壙1が出土した。

備考 貯蔵穴は住居南東隅に検出された。平面形は不整円形で、長辺96×短辺92×深さ44.7%であった。貯蔵穴内からは完形遺物の出土は無かった。

8号住居 (図36、P L. 22・31・44)

形状 住居の中央を南北に走る時期不明の溝によって切られる。平面形はほぼ正方形で、東西辺8.8、南北辺8.4mである。壁高は床面から垂直に立ち上がり、確認面からの高さは37.5%である。壁下には壁周溝が巡らされる。壁周溝は上幅40~18、下幅16~2、深さ7.9~6.4%である。

床面積 63.86m²

方位 N-31°-W

床面 明瞭で、一部で叩き絞め状の部分がみとめられた。貼り床は無い。

炉址 検出されなかった。

柱穴 規則的に並ぶ4本の主柱穴が検出された。P₁長径32×短径30×深さ77.1%、P₂42×34×73.4・P₃36×28×68.9・P₄28×26×68.5

遺物 壙10、甕1、高壙2が出土した。遺物の出土は壁よりに偏っていた。

備考 貯蔵穴は住居南東隅に検出された。平面形は不整円形で、長辺90×短辺88×深さ48%であった。貯蔵穴内からは完形遺物の出土は無かった。

1号住居 (図38、P L. 22)

形状 発掘区の都合で、住居の北側の一部が調査できなかつた。また、南壁の一部を2号住居によって切られてい。平面形は正方形が予想される。東西辺は4.08mである。壁高は確認面から54.6%であった。壁下には壁周溝が巡る。周溝の上幅40~18、下幅22~6、深さ7.9%であった。

床面積 (71.90) m²

方位 N-106.5°-E

床面 明瞭で一部で叩き絞め状であった。

竈 住居西壁中央に付設される。僅かに焼土がみとめられたが灰層や粘土はみとめられなかつた。

柱穴 検出されなかつた。

遺物 高环2が出土したのみである。

備考 貯蔵穴は住居南西隅に検出された。平面形は円形で、長径76×短径70×深さ55.2%であった。

4 古墳時代後期の遺構と遺物

2号住居 (図40、P.L. 23・45)

形状 1号住居の一部を切る。ほぼ正方形で、東西辺4.04、南北辺3.76mである。住居の残りは良好で、確認面からの壁高は51.2%である。

床面積 14.02m²

方位 N-80°-E

床面 堅く、叩き絞め状であった。しかし、張り床は検出されなかつた。

竈 東辺中央やや南に付設される。袖及び炊口部に心材として長胴甕を用い、灰白色粘土で被覆している。

柱穴 検出されなかつた。

遺物 長胴甕5、环3、大型环1、小型甕2が出土した。

備考 貯蔵穴は住居南東隅に検出された。平面形は長楕円形で長径84×短径56×深さ27.2%である。

3号住居 (図39、P.L. 23・31・44)

形状 平面形はやや隅の丸い方形で、東西辺3.24、南北辺4.12mである。住居の残りは良好で壁高は64.4%である。

床面積 13.58m²

方位 N-84°-E

床面 堅く、一部に張り床がみとめられた。

竈 東辺中央やや南に付設される。袖部は褐色粘土のみで作られていた。土器、石等は用いられていない。

柱穴 検出されなかつた。

遺物 环5、甕1、鉢1、甕2が出土したが床面上に

からの遺物の出土は少なかつた。

備考 貯蔵穴は住居南東隅に検出された。平面形は不整円形で、長径56×短径26×深さ53.9%であった。

4号住居 (図42、P.L. 24・46)

形状 平面形はほぼ正方形で、東西辺3.76、南北辺4.12mである。住居の残りは良好で、確認面からの壁高は53.3%である。

床面積 15.75m²

方位 N-1°-W

床面 堅く、叩き絞め状であったが張り床はみとめられなかつた。

竈 北辺中央やや東よりと東辺中央とに1基づつ2基の竈を持つ。北辺の竈を1号竈、東辺のものを2号竈とする。2号竈は、焼土も殆ど無く、袖も検出されなかつた。また、周辺から遺物の出土も無かつた。1号竈は褐色粘土で袖を作り、先端に石を置く。

柱穴 検出されなかつた。

遺物 环9、甕2、須恵器高环1、須恵器甕1が出土した。

備考 貯蔵穴は1号竈脇の住居北東隅に検出された。貯蔵穴の周りには僅かに土壌状に高い部分がある。長径92×短径80×深さ61.3%である。

16号住居 (図41、P.L. 25・46)

形状 平面形はほぼ正方形で、東西辺3.72、南北辺4.20mである。住居の残りは良好で、確認面の壁高は66.3%である。

床面積 13.24m²

方位 N-78°-E

床面 堅く、叩き絞め状であった。張り床は検出されなかつた。

竈 東辺中央に付設される。袖の先端に石を継位置に据えるが、袖部については検出できなかつた。遺物の出土状態からは炊口部の用材として長胴甕を用いていたことが考えられる。

柱穴 検出されなかつた。

遺物 長胴甕2、环4、鉢2、甕1、小型甕1が出土した。竈部周辺からの遺物の出土が多かつた。

備考 貯蔵穴は検出されなかつた。

31号住居 (図44、P.L. 14・25・46)

形状 弥生時代中期後半の30号住居の一部を切り、時期不明の溝によって切られている。平面形はほぼ正方形で、一辺が5.24mである。最も残りの良い部分で確認面からの壁高は69.1%である。壁下には、西辺を除

き壇周溝が巡らされる。上幅40~18、下幅14~4.0、深さ5.3~7.5である。

床面積 21.95m²

方位 N-110.5°-W

床面 堅く、叩き絞め状であり、一部で張り床が認められた。

竈 西辺中央に付設される。竈は灰白色粘土を用いて作られ、袖部先端に長胴塵を心材として用いている。

柱穴 主柱穴は規則的に並ぶ4本が検出できた。P₁長径20×短径18×深さ63.1%・P₂32×26×56.9%・P₃20×12×85.7%・P₄48×40×42.6%・P₅28×24×58%。

遺物 环7、長胴塵2、台付き甕1、須恵器甕1が出土した。环は貯蔵穴底面からの出土が多く、甕は床面密着の状態で出土した。

備考 貯蔵穴は住居南西隅で検出された。平面形は鵝卵の長方形で、長径76×短径56×深さ54.8%であった。

5 奈良・平安時代の遺構と遺物

18号住居 (図43、P.L., 24・47)

形状 平面形はやや楕の丸い長方形で、東西辺3.48、南北辺2.92mである。壁高は最も深い部分で93.6%である。

床面積 6.42m²

方位 N-81°-E

床面 本住居は平面図では、壁ぎわに一段犬走り状に床面を持ち更にその内側に一段下がる床面を持つという特異な形状となっている。調査中においては張り床等が確認できなかったため床面の二段になる特異な住居と判断したが、その後の土層断面の検討や遺物の出土状況から張り床が存在したものと考えたい。

竈 炊口部分に安山岩を用いている。焼土は余り顕著でない。

柱穴 明瞭な柱穴は検出されなかった。

遺物 环7、鉢1、甕1が出土している。須恵器蓋1及び須恵器高台付き甕は上層からの一括出土である。鉢は竈にかけられた状態で出土した。

備考 貯蔵穴は検出されなかった。

17号住居 (図45、P.L., 27)

形状 住居の上面は時期不明の溝等によって攢乱され、床面のみの検出であった。東西辺4.3、南北辺4.5mである。

床面積 (17.89) m²

方位 N-72°-E

床面 堅く、叩き絞め状であった。

竈 東壁に僅かに竈の痕跡のみ確認できた。

柱穴 検出されなかった。

遺物 甕1のみ出土した。

19号住居 (図46、P.L., 26・47)

形状 平面形は隅の丸い東西に長い長方形で、長辺6.24、短辺3.06mである。壁高は確認面からの深さ52%である。

床面積 7.34m²

方位 N-98°-E

床面 張り床を施すが、あまり堅敏ではない。

竈 袖部に拳大の円窓を用いている。

柱穴 明瞭な主柱穴は検出されなかった。P₁長径32×短径24×深さ33.2%・P₂56×32×42.3%

遺物 环3、高台付き甕2、甕3（内、甕22は弥生土器）が出土しているが、甕一括3を除いて埋め土内からの出土が多い。甕一括3は竈内からの出土である。

備考 貯蔵穴は検出されなかった。

24号住居 (図47、P.L., 26・47)

形状 調査区の都合で住居の約1/2のみの調査であった。東西辺3.66mである。壁高は1.25mであった。

床面積 (5.31) m²

方位 N-74°-E

床面 堅く、叩き絞め状であった。

竈 袖部の先端に拳大の石を置く。竈内面は良く焼けていた。

柱穴 検出されなかった。

遺物 床面直上から須恵器環2が出土した。甕は竈部分からの一括出土である。

備考 貯蔵穴は検出されなかった。本住居は818年に起きたとされる大地震によってできたと考えられる地割れによって住居の床面に亀裂が生じていた。

26号住居 (図48、P.L., 26・47)

形状 3号方形周溝竈と弥生時代の27号住居を切って作られている。平面形は南北に長い長方形で東西辺2.66、南北辺3.22mである。確認面からの壁高は39.0%である。

床面積 8.35m²

方位 N-85°-E

床面 不明瞭で柔らかい。

竈 東辺の南よりに付設される。焼土が僅かに認められた。

柱穴 検出されなかった。

遺物 环1、高台付き椀1、灰釉椀1、壺1が出土した。壺は窓内から出土である。

備考 貯蔵穴は検出されなかった。平面図のピットは床下土壌と考えられる。長径64×短径60×深さ32.4%。12号住居（図49、P L. 27・48）

形状 一部を時期不明の溝によって切られている。住居の残りは悪い。東西辺3.03、南北辺3.6m、壁高は確認面から35.8%である。

床面積 11.09m²

方位 N-85°-E

床面 柔らかいが、張り床がみとめられた。

竪穴 東辺やや南により付設される。焼土は殆どみとめられなかった。

柱穴 検出されなかった。

遺物 环1、高台付き椀3、皿1、石製紡錘車1が出土した。高台付き椀の1個を除き全て床面直上から出土した。

備考 貯蔵穴は南東隅に検出された。平面形は不整円形で、長径60×短径52×深さ43.4%である。

14号住居（図50、P L. 27・48）

形状 弥生時代の13号住居を切って作られている。13号住居を調査中に確認されたもので、ほぼ床面のみでの検出であった。平面形は南北に長い長方形で、東西辺2.4、南北辺3.72mである。壁高は南辺で35.7%であった。

床面積 7.7m²

方位 N-89.5°-E

床面 明瞭な張り床は検出されなかった。

竪穴 東辺中央に付設されるが、下底面での確認であったため詳細は不明である。

柱穴 明瞭な柱穴は検出されなかった。浅い不整形なピットが検出されているが、いずれも住居の掘り方面的のピットと考えられる。P₁長径42×短径40×深さ17.5%・P₂64×34×15.7・P₃28×26×23・P₄36×24×16・P₅24×22×10である。

遺物 高台付き椀6、壺5、台付き壺？1が出土したが、埋め土上層からの出土が多い。壺17のみ竪部周辺の床面直上から出土した。

備考 貯蔵穴は検出されなかった。

15号住居（図51、P L. 27・48）

形状 大溝によって住居の一部を切られている。住居の残りは極めて悪い。東西辺2.7、南北辺4.24mである。壁高は確認面から21.4%である。

床面積 (10.58) m²

方位 N-93°-E

床面 繋いが不整地で凹凸がある。

竪穴 僅かに焼土がみとめられた。壁は殆ど焼けていない。

柱穴 検出されなかった。

遺物 壺2、高台付き椀1、滑石製剣形模造品1が出土した。

備考 貯蔵穴は検出されなかった。

6 時期不明の遺構

6号住居（図52、P L. 27）

形状 平面形は一辺5.3mのほぼ正方形である。住居の残りは極めて悪く、確認面からの壁高は19%であった。

床面積 27.8m²

方位 N-27.5°-E

床面 明瞭な叩き綾め状や張り床は検出されなかった。

炉址 住居のほぼ中央に検出された。僅かに焼土がみとめられた。

柱穴 明瞭な柱穴は検出されなかった。P₁長径60×短径58×深さ32%

遺物 出土しなかった。

備考 所属時期については出土遺物が無いことから不明としておきたい。住居形態からは古墳時代中期以前弥生中期以降の可能性が強い。

炭窯（図54、P L. 28）

形状 2号方形周溝窯の一部を廃し、時期不明の溝の上に作られている。平面形は長楕円形の燃焼部と方形の搔き出し部からなる。炊口部や煙道部には自然円錐を用いている。全長5.96、燃焼部長2.62、燃焼部中央幅1.52、炊口部幅0.54、搔き出し部幅3.01mである。

主軸方向はN-26°-Eである。

遺物 出土しなかった。

備考 大型のスサ入り焼け粘土塊の出土が多い。

1号溝（付図1、『西迎遺跡』全体図参照）

1号溝は西迎の台地の西端を南北に走り、遺跡の中央で東西方向へと曲がり、遺跡を東西に横切り東の低地に至る。上幅4.8m、下幅0.54m、深さは遺跡の中央部分で1.74mである。断面形は箱築研形である。弥生時代中期後半の住居や平安時代の住居を切っている。

出土遺物は無かった。溝の埋め土中にはA₅-C、A₅-B等のテフラはみとめられない。中世以降のもの

III 調査の記録

と考えたい。

2号溝（付図1、「西迎遺跡」全体図参照）

遺跡の中央を東西方向に横切り、西迎の台地の西端で南に折れる。遺跡の中央部では1号溝と平行して走る。2号溝は1号溝に比べ浅い。2号方形周溝墓と3号方形周溝墓がこの2号溝によって切られている。

3号方形周溝墓を切っている部分では3本以上の溝の重なりがみとめられる。埋め土中にはテフラ層を含

まない。遺物の出土も無い。溝の埋め土の状態からは1号溝より新しいものと思われる。

遺跡の南は宅地となっているが、僅かに土壘と堀が残る。村の文化財目録には「御蔵屋敷」跡としている。寛政3年の『深津村銘細帳控』には「御蔵御座候」とあるが場所が特定できない。詳細は不明である。あるいは、2号溝は現在残る土壘跡等と共に何等かの近世の遺構の一部を成すもの可能性もある。

挿図

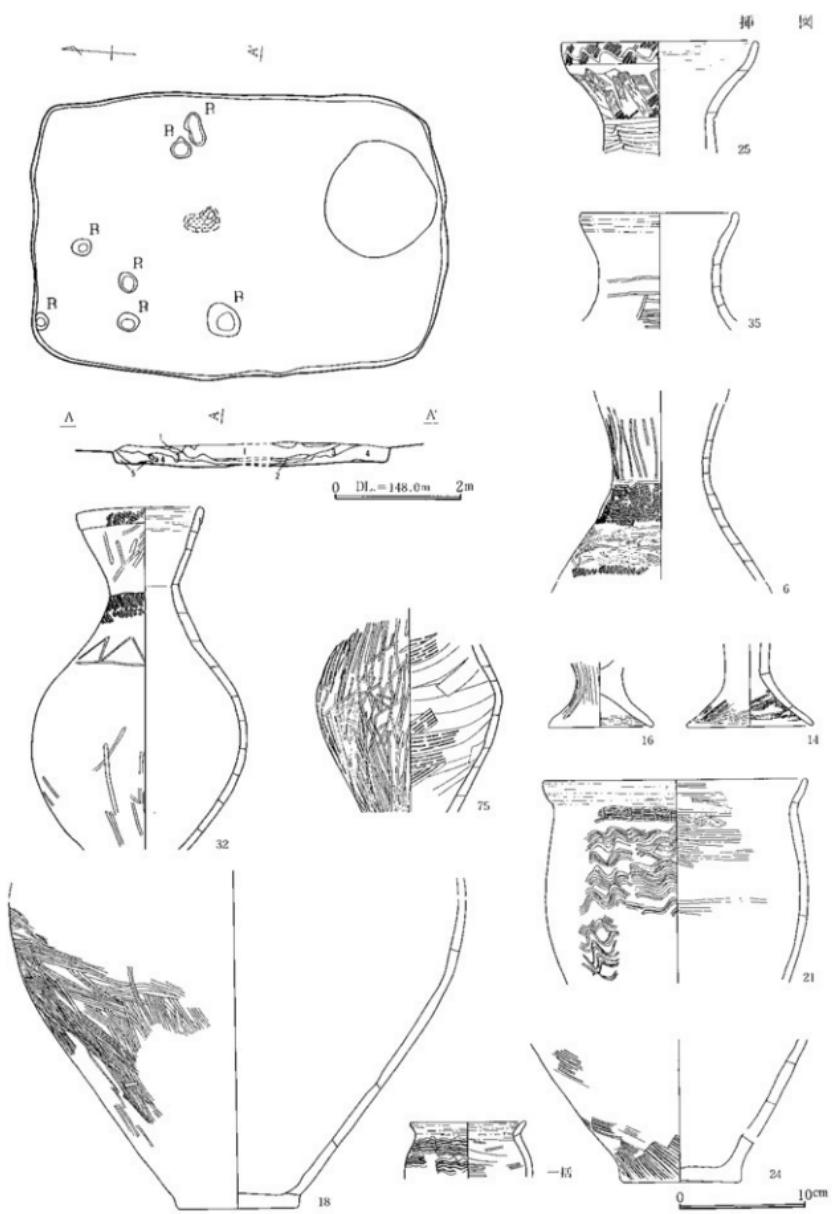


図5 7号住居実測図・遺物実測図(1)

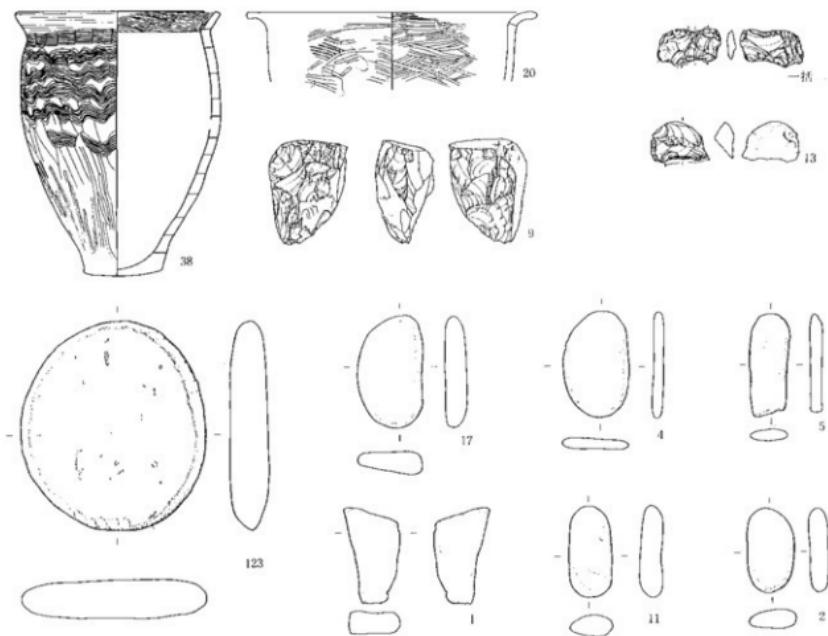


图6 7号住居遺物実測図(2)

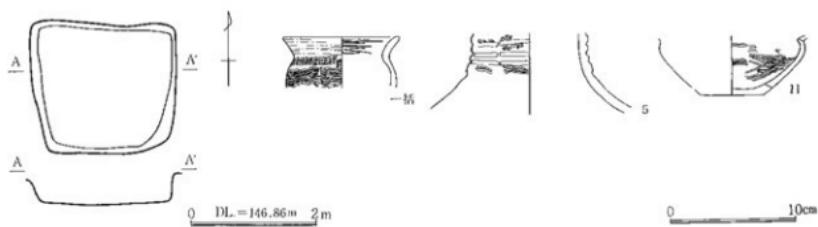


图7 21号住居実測図・遺物実測図

拵 図

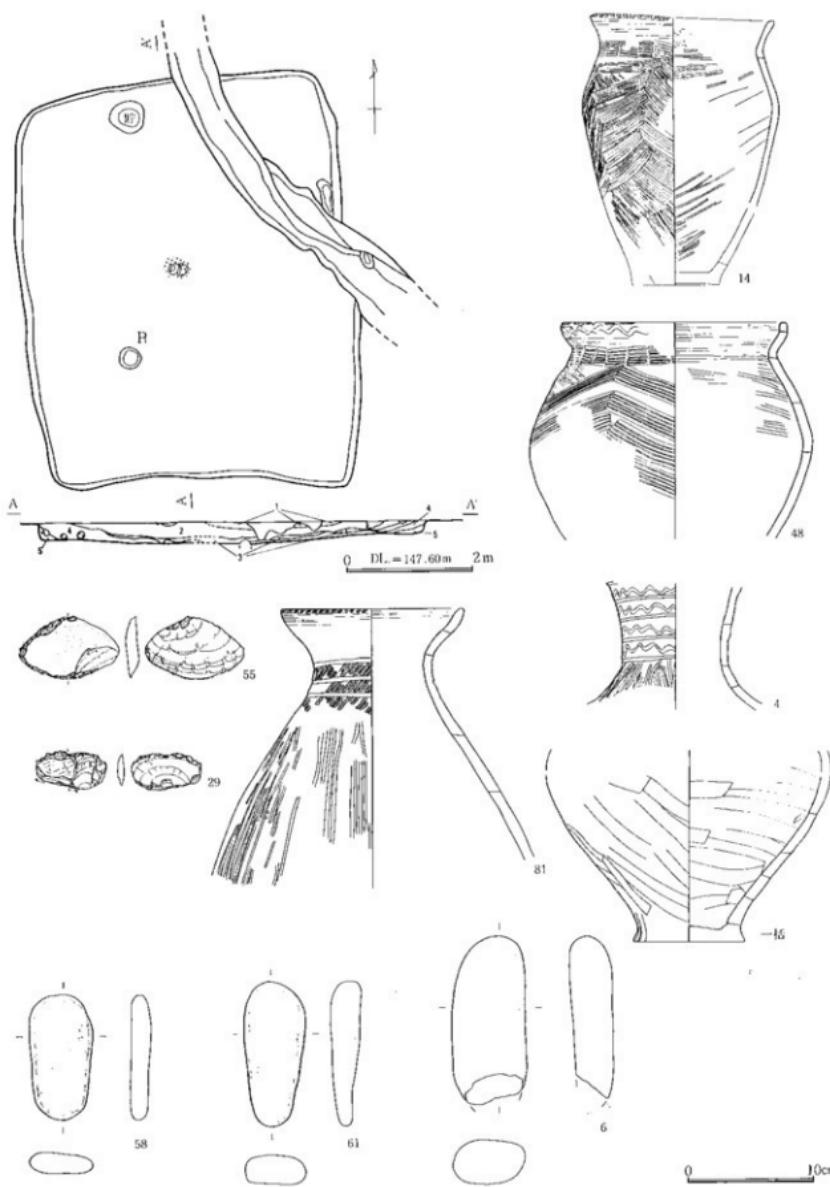


図8 9号住居実測図・遺物実測図

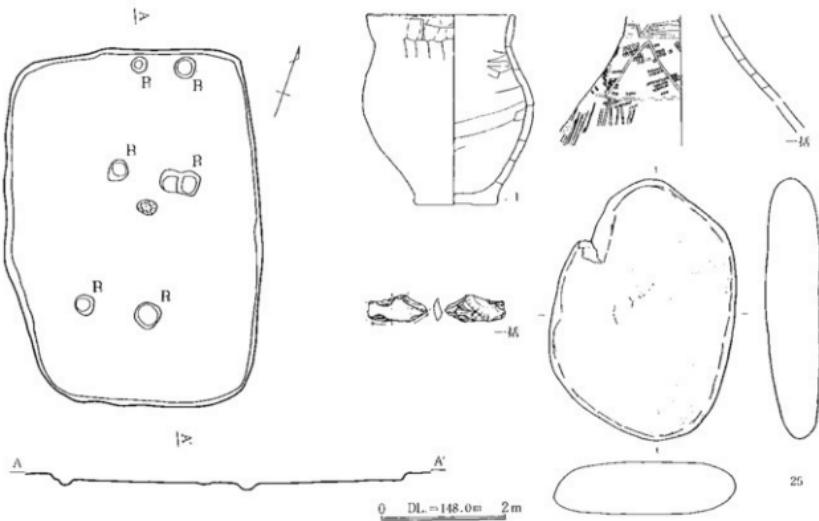


図9 10号住居実測図・遺物実測図

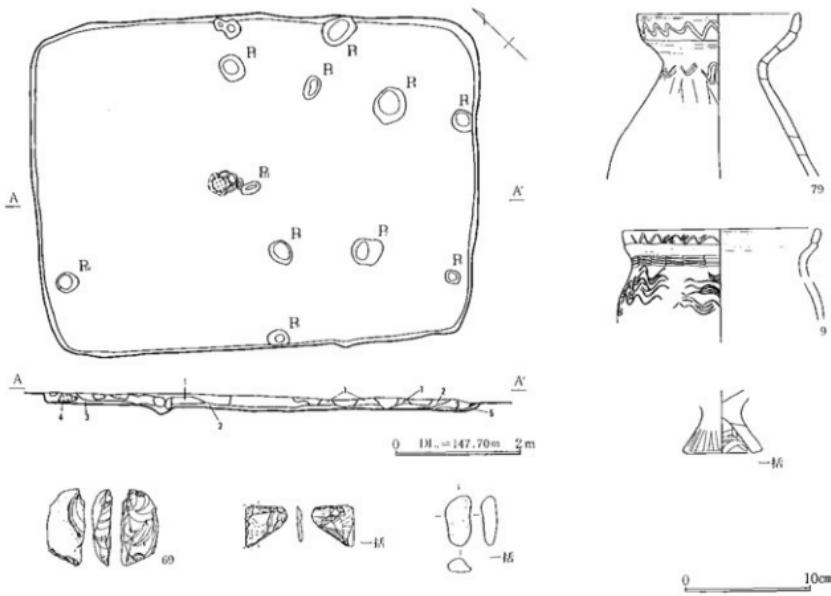


図10 11号住居実測図・遺物実測図

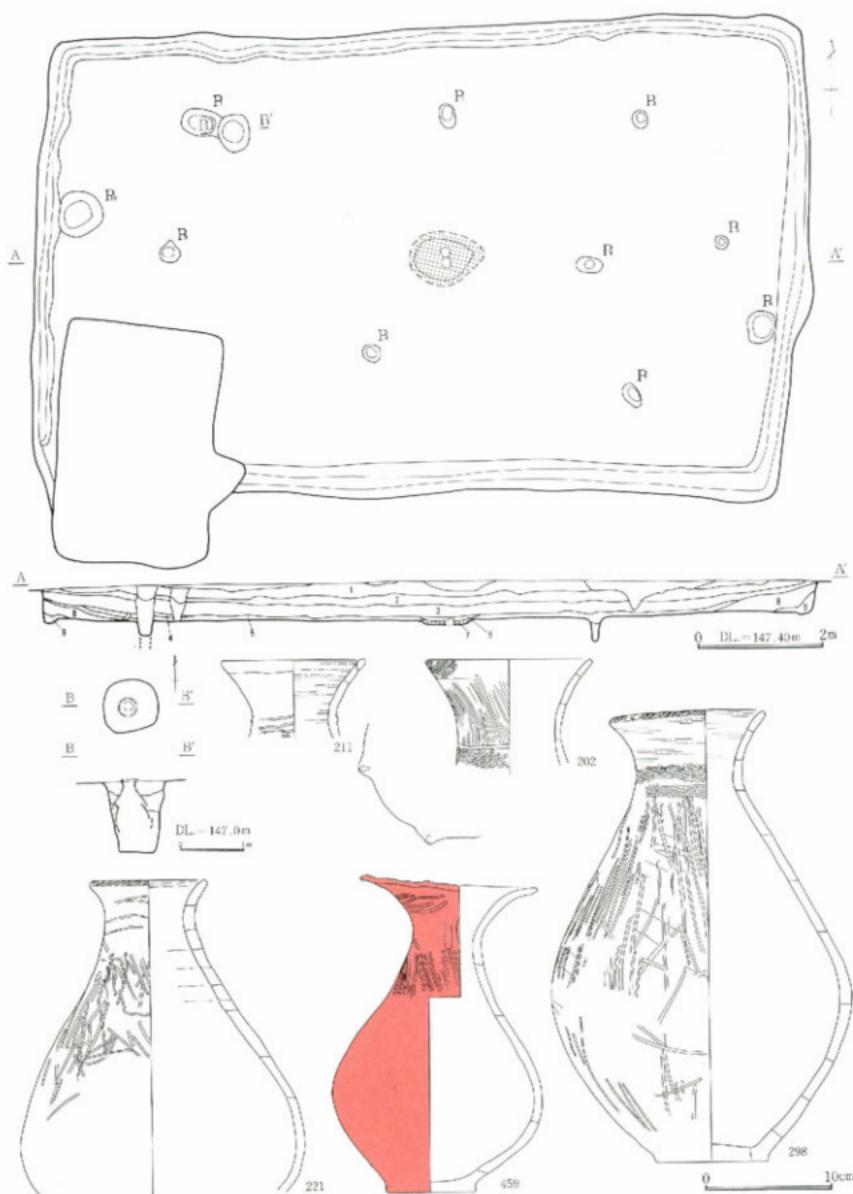


図11 13号住居実測区・遺物実測図（1）

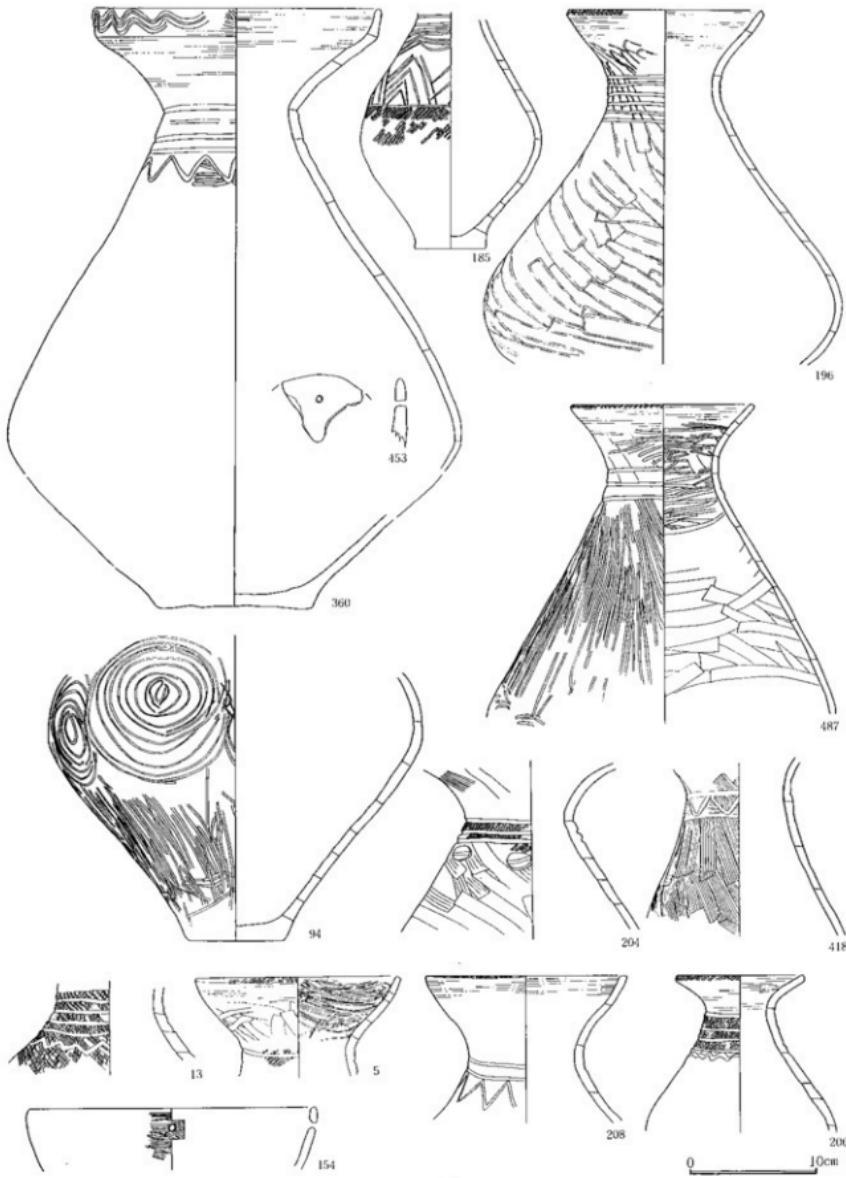


図12 13号住居遺物実測図(2)

插 国

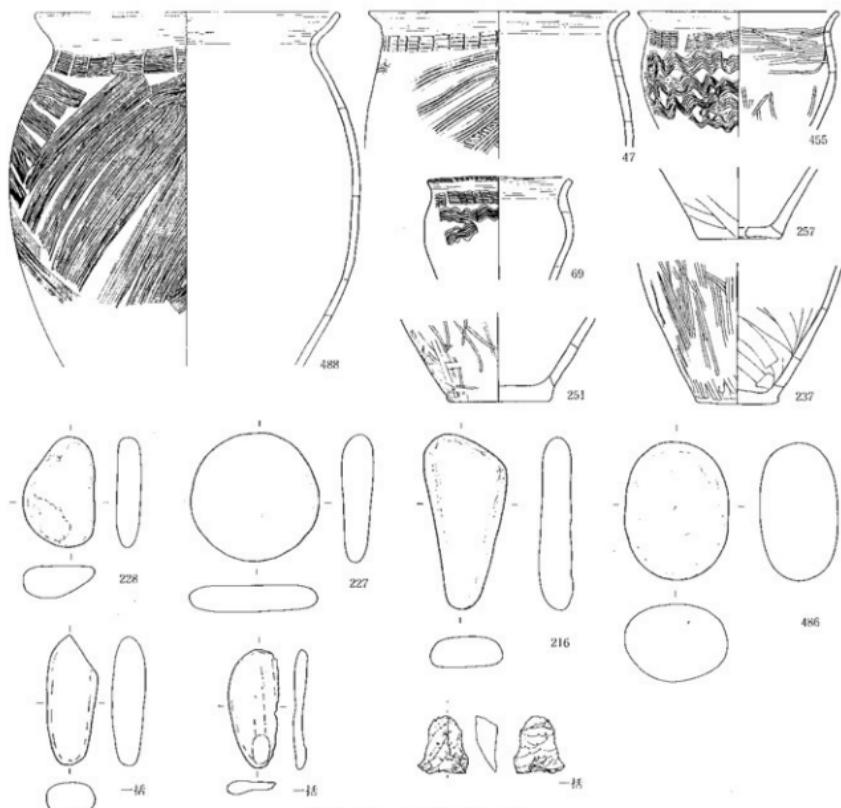


図13 13号住居遺物実測図(3)

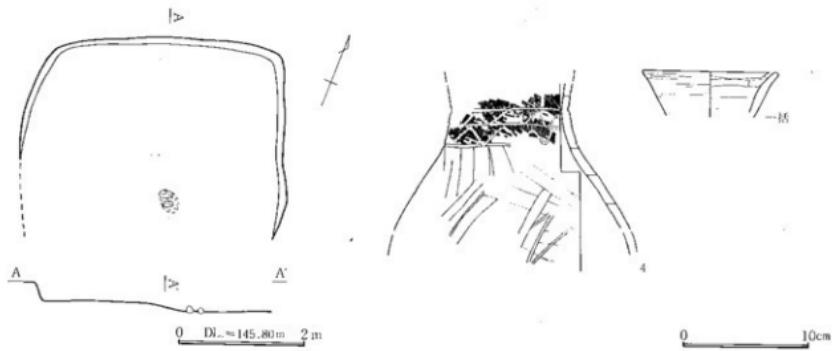


図14 25号住居実測図・遺物実測図

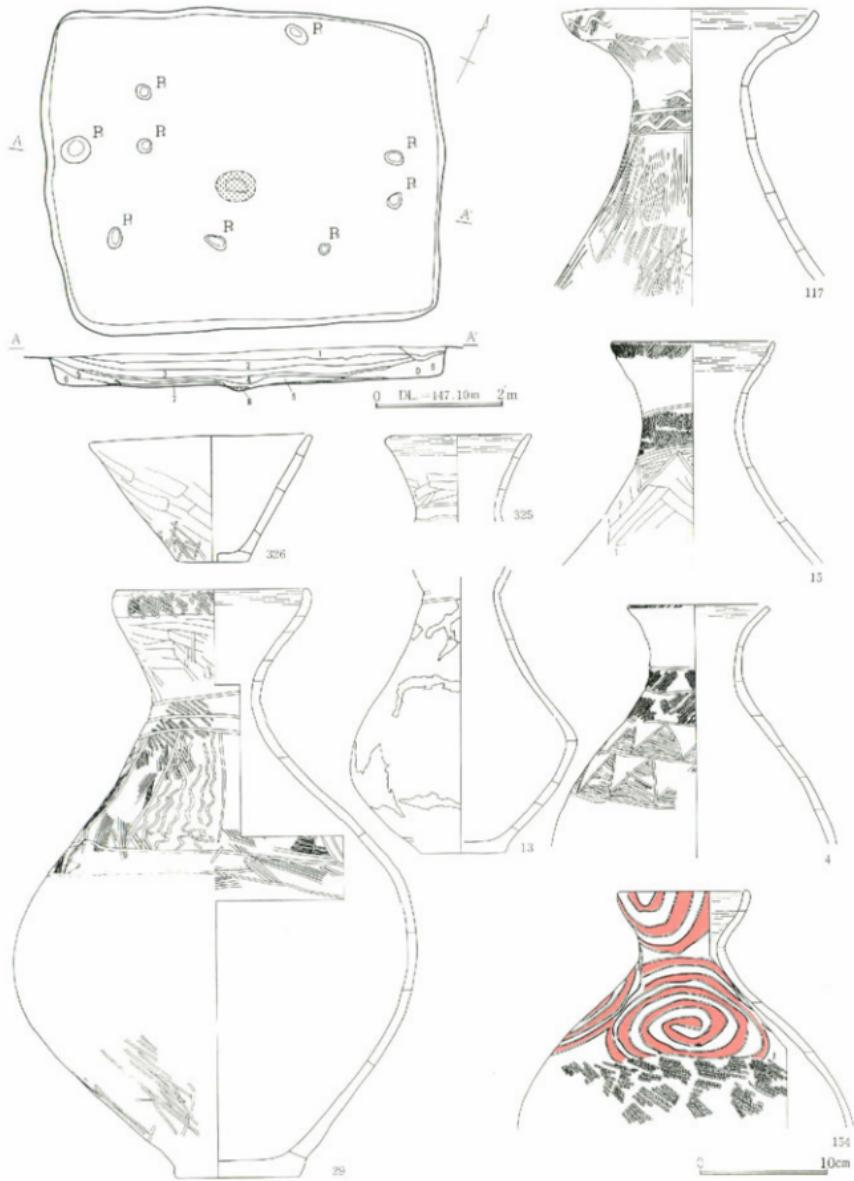


図15 20号住居実測団・遺物実測区（1）

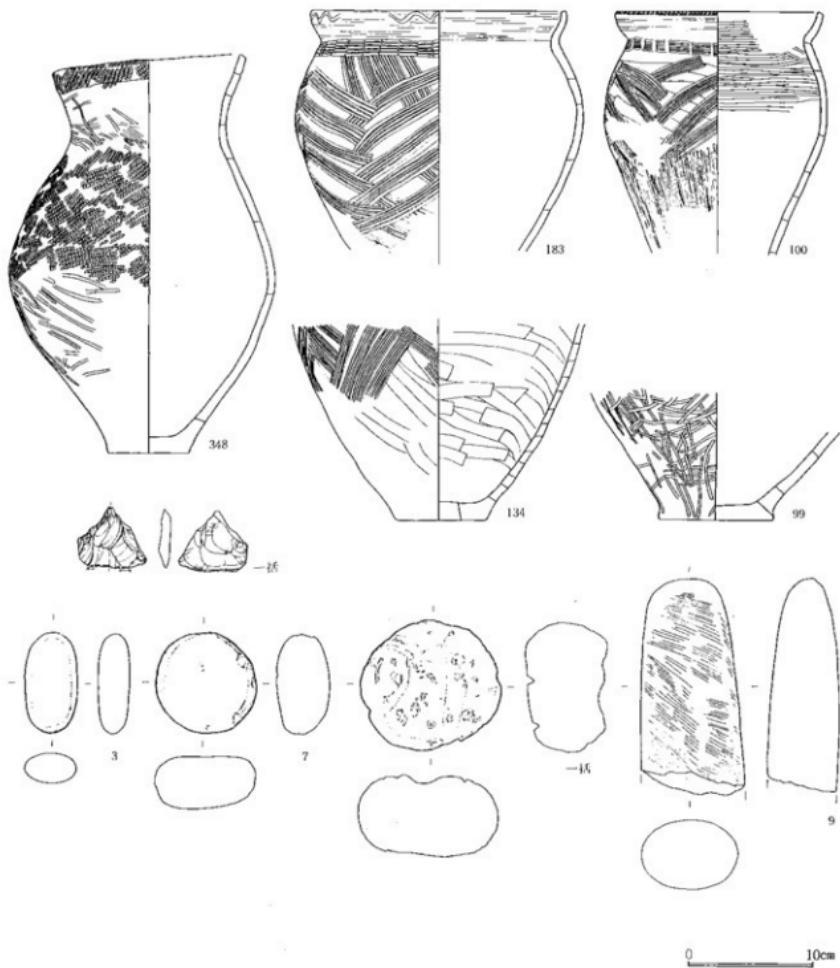


图16 20号住居遺物実測図(2)

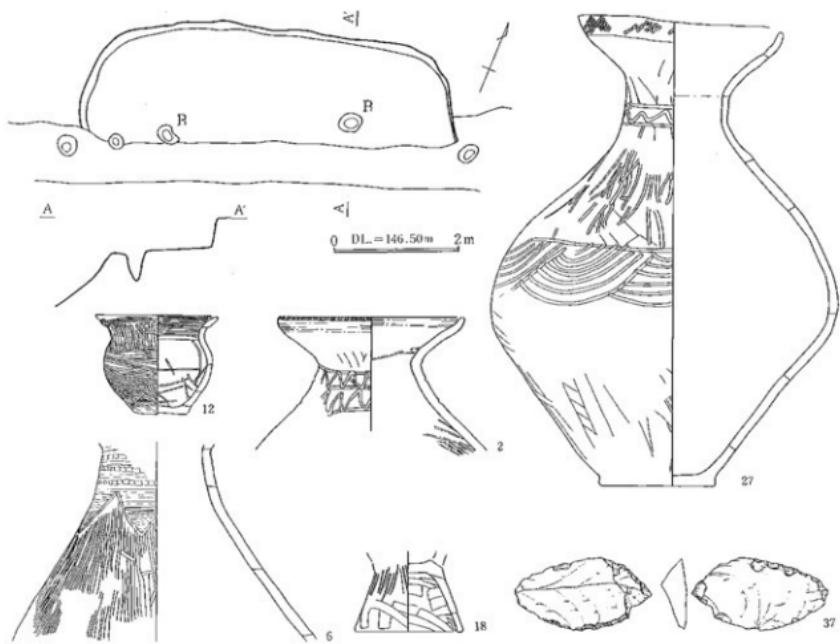


图17 22号住居実測図・遺物実測図

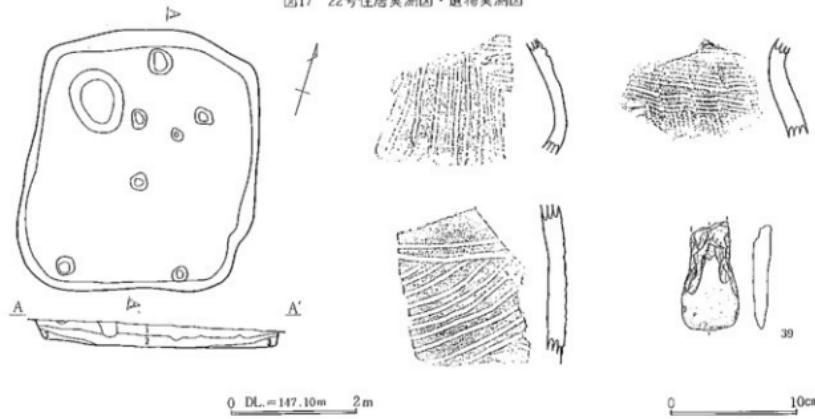


图18 27号住居実測図・遺物実測図

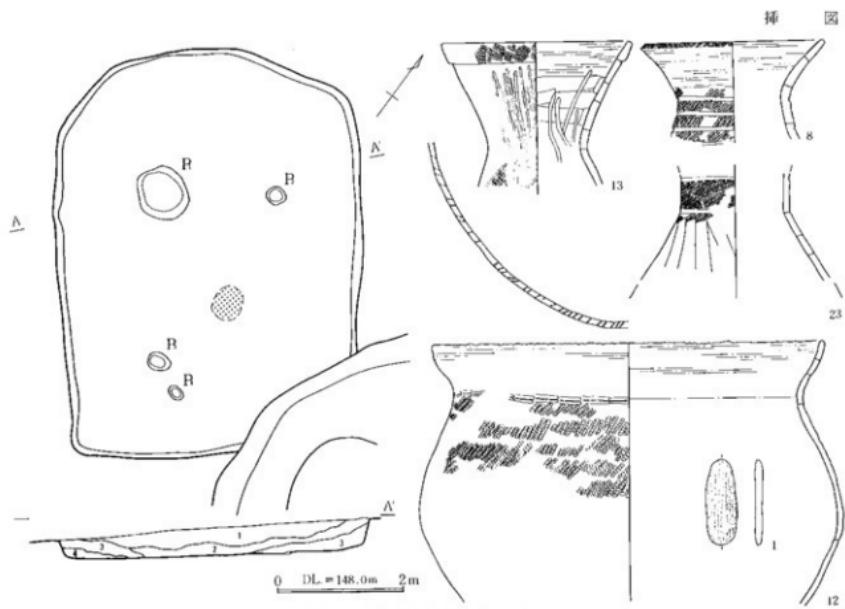


图19 29号住居実測図・遺物実測図

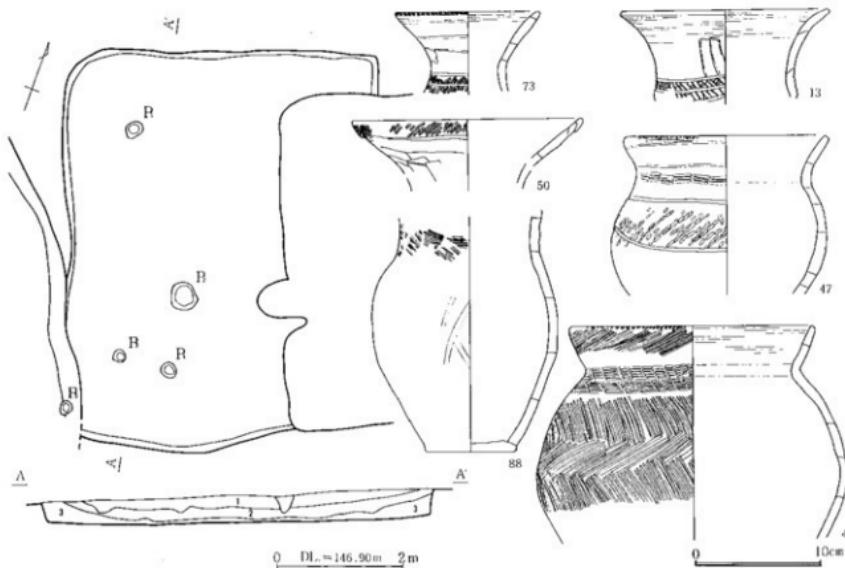


图20 30号住居実測図・遺物実測図

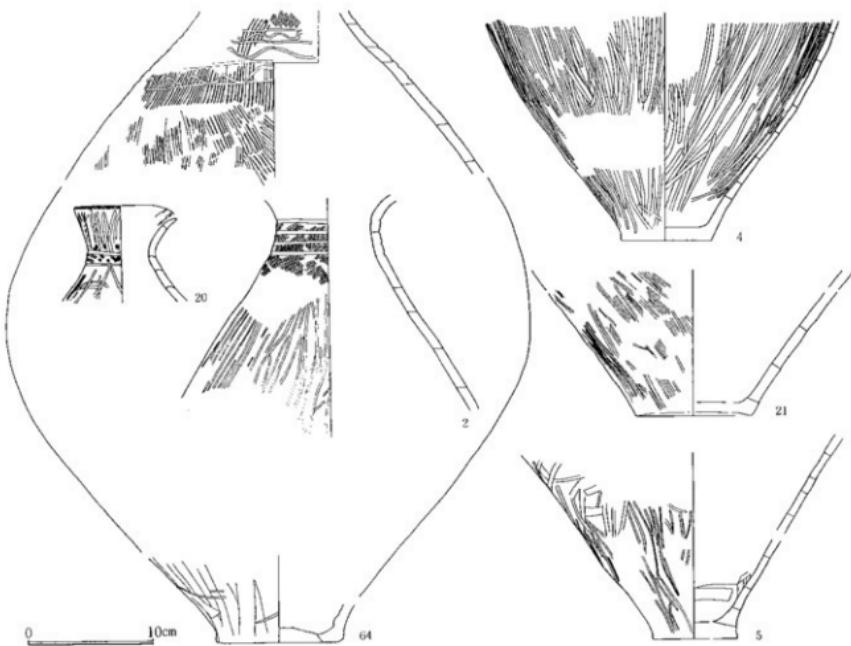
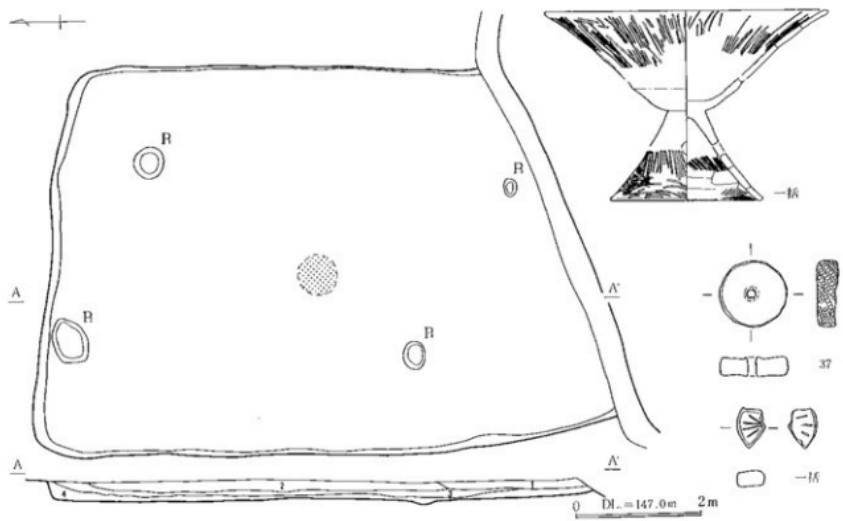


图21 32号住居実測図・遺物実測図(1)

拓圖

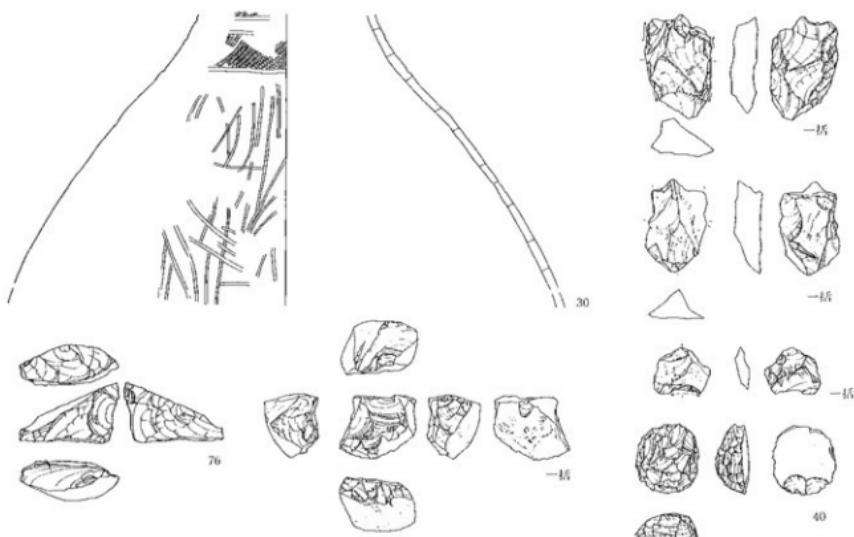


图22 32号住居遺物実測図(2)

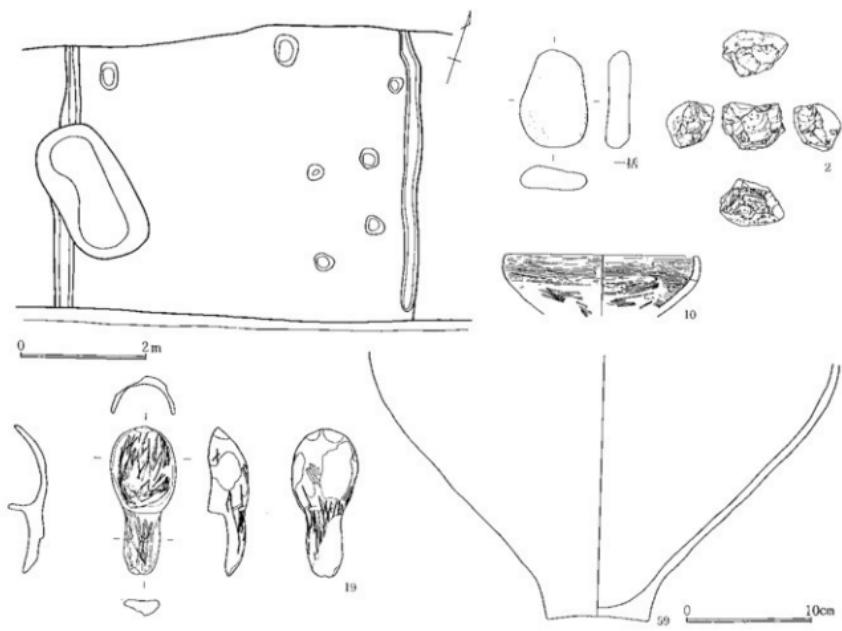


图23 23号住居実測図・遺物実測図

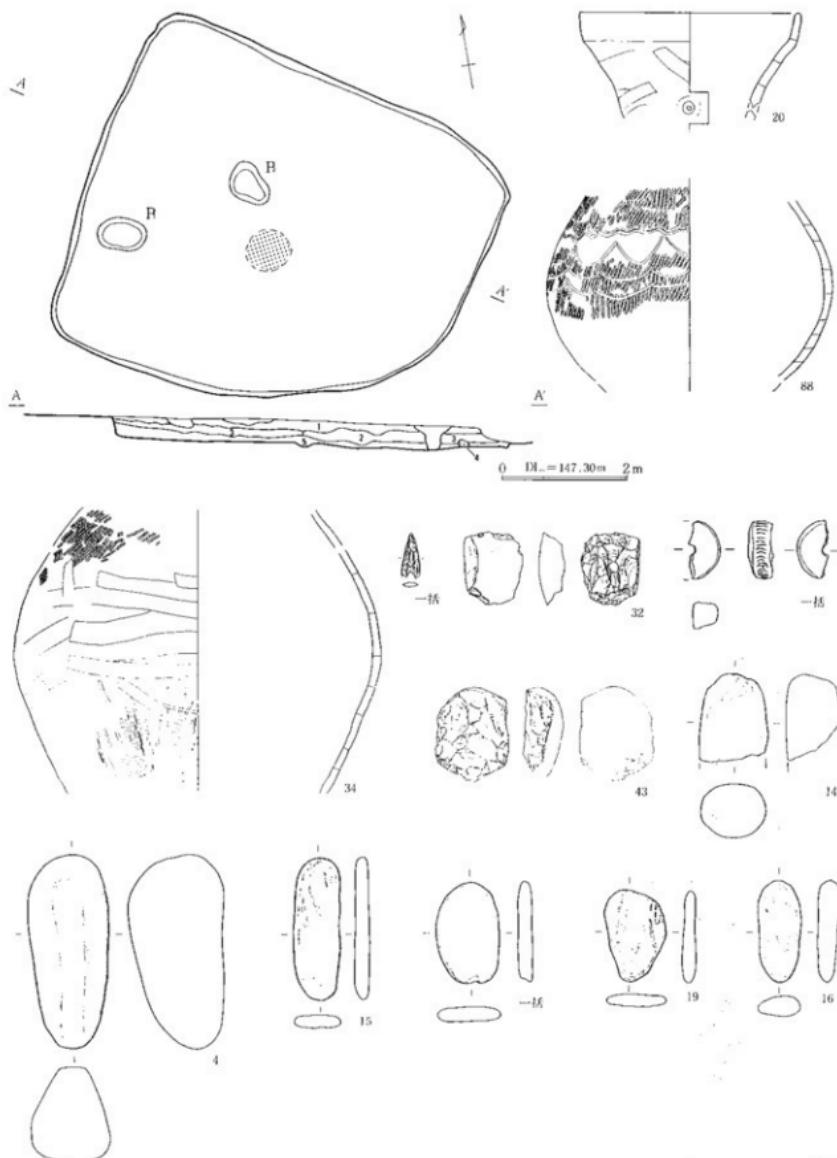


图24 33号住居実測図・遺物実測図

擗 図

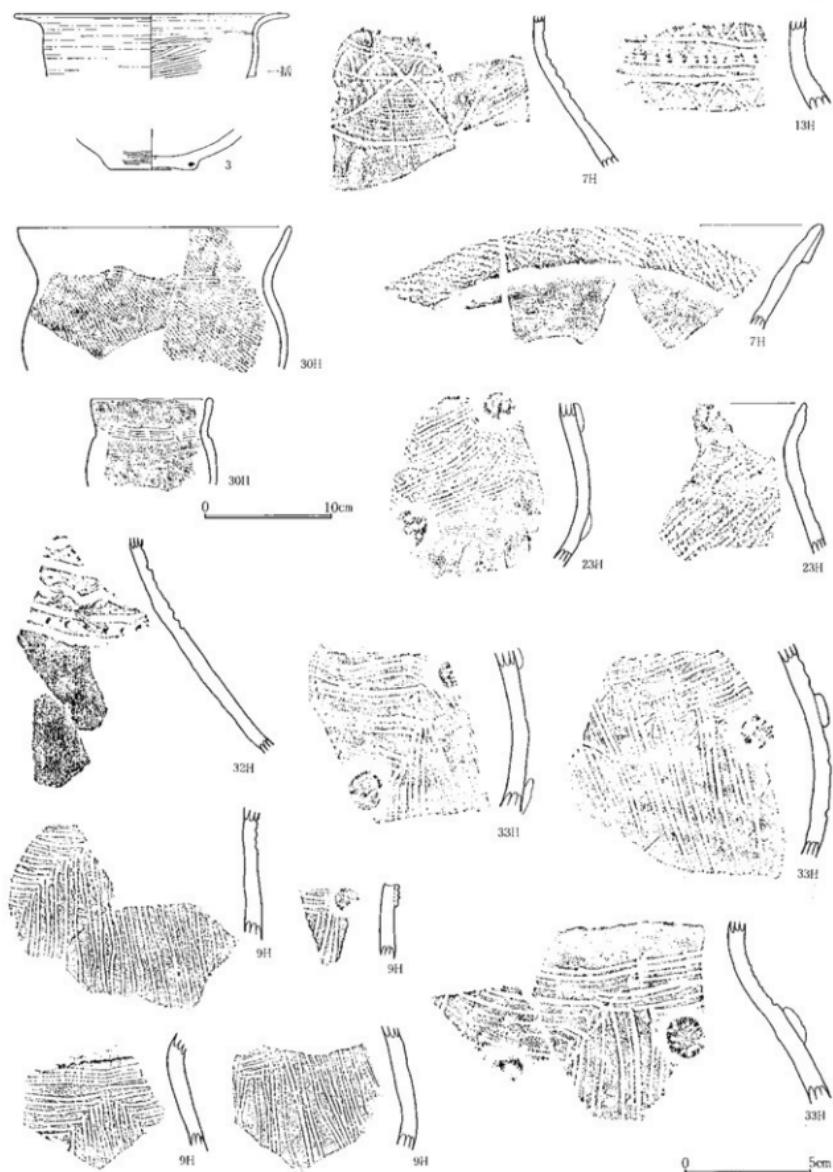


図25 各住居出土土器拓影図

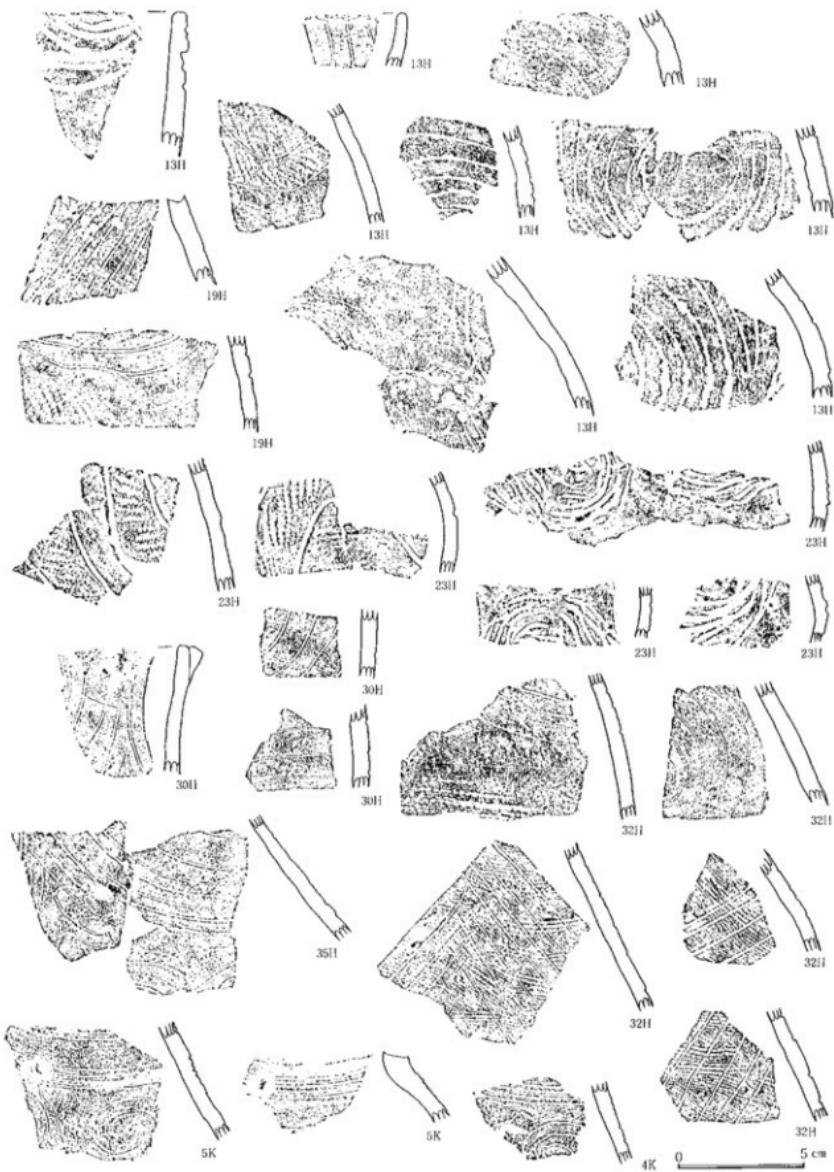


図26 各住居出土の南東北系土器拓影図

插 図

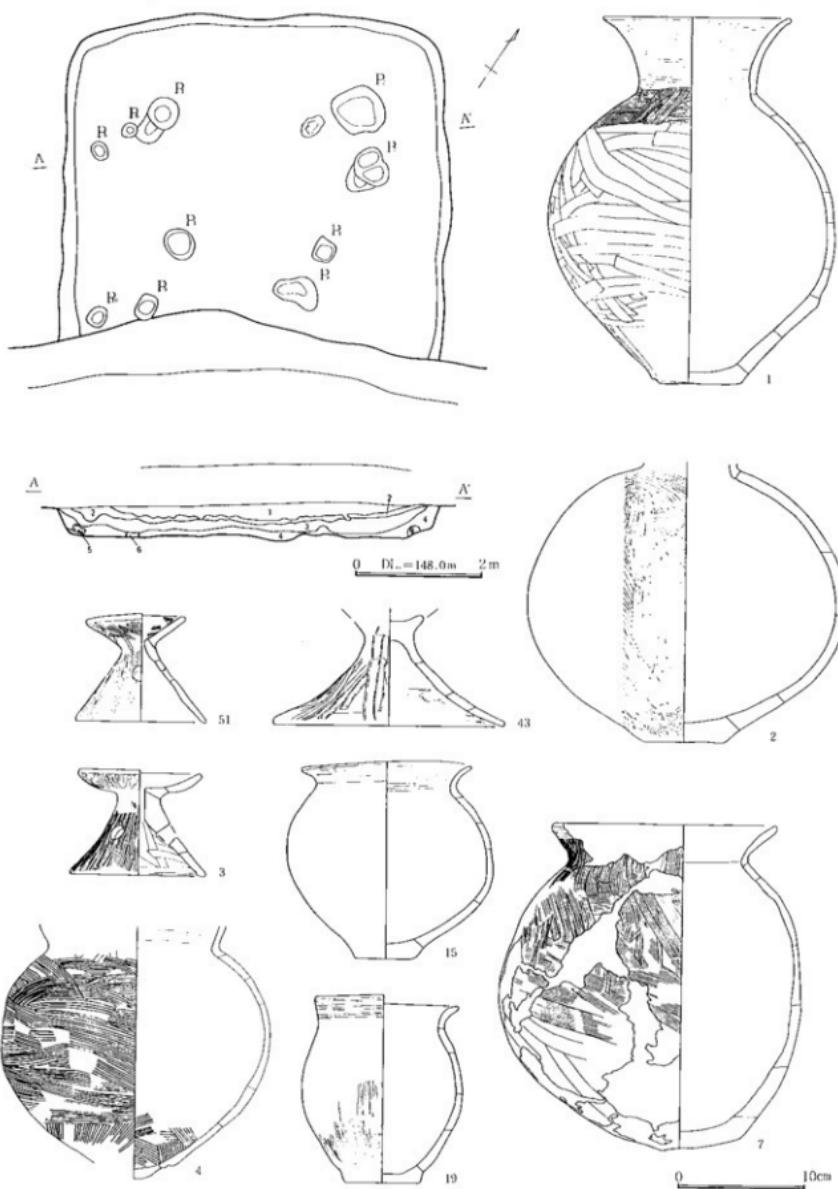


図27 28号住居実測図・遺物実測図

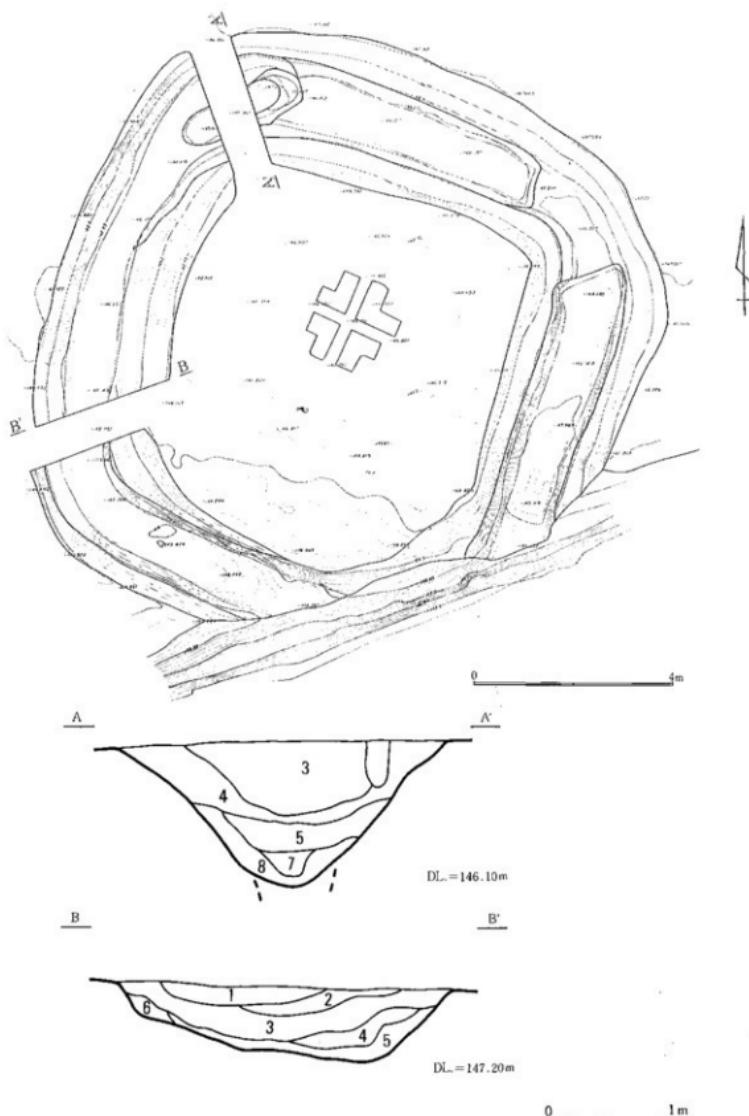


图28 1号方形周溝墓实测图

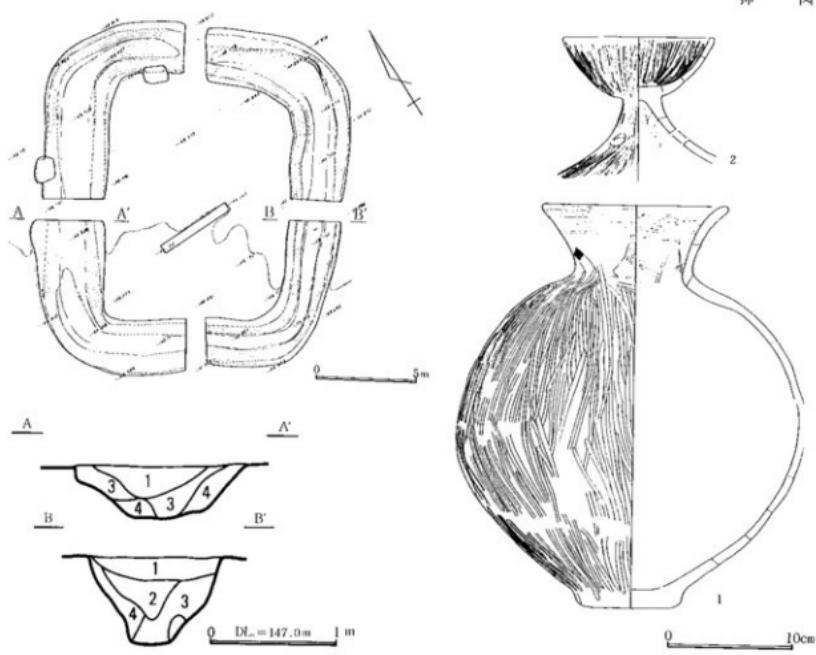


図32 5号方形周溝墓実測図・遺物実測図

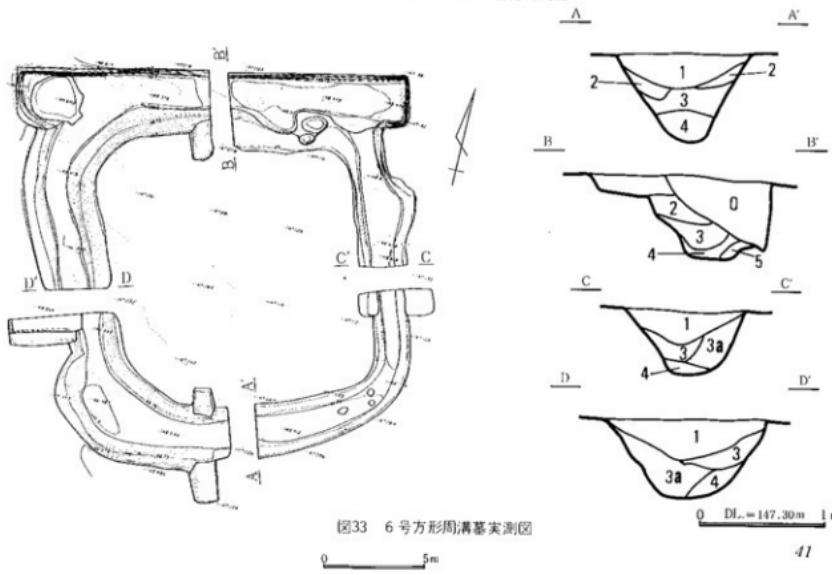


図33 6号方形周溝墓実測図

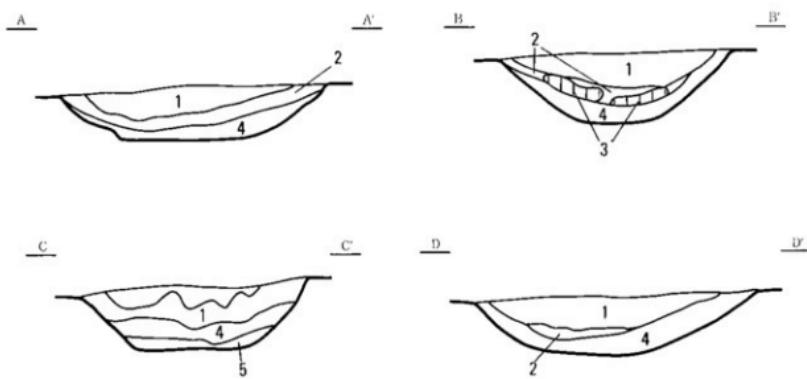
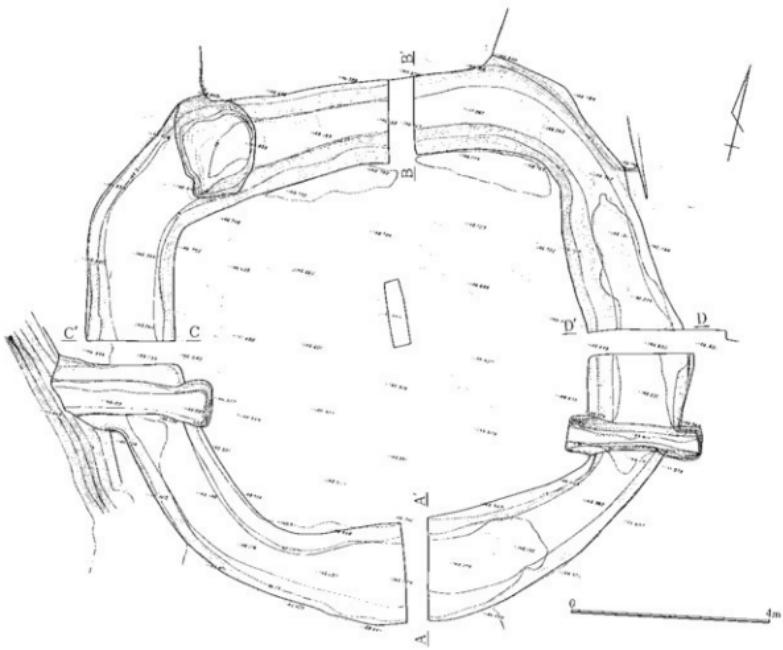


图34 7号方形周溝墓实测图

0 DL=147.0m 1m

插圖

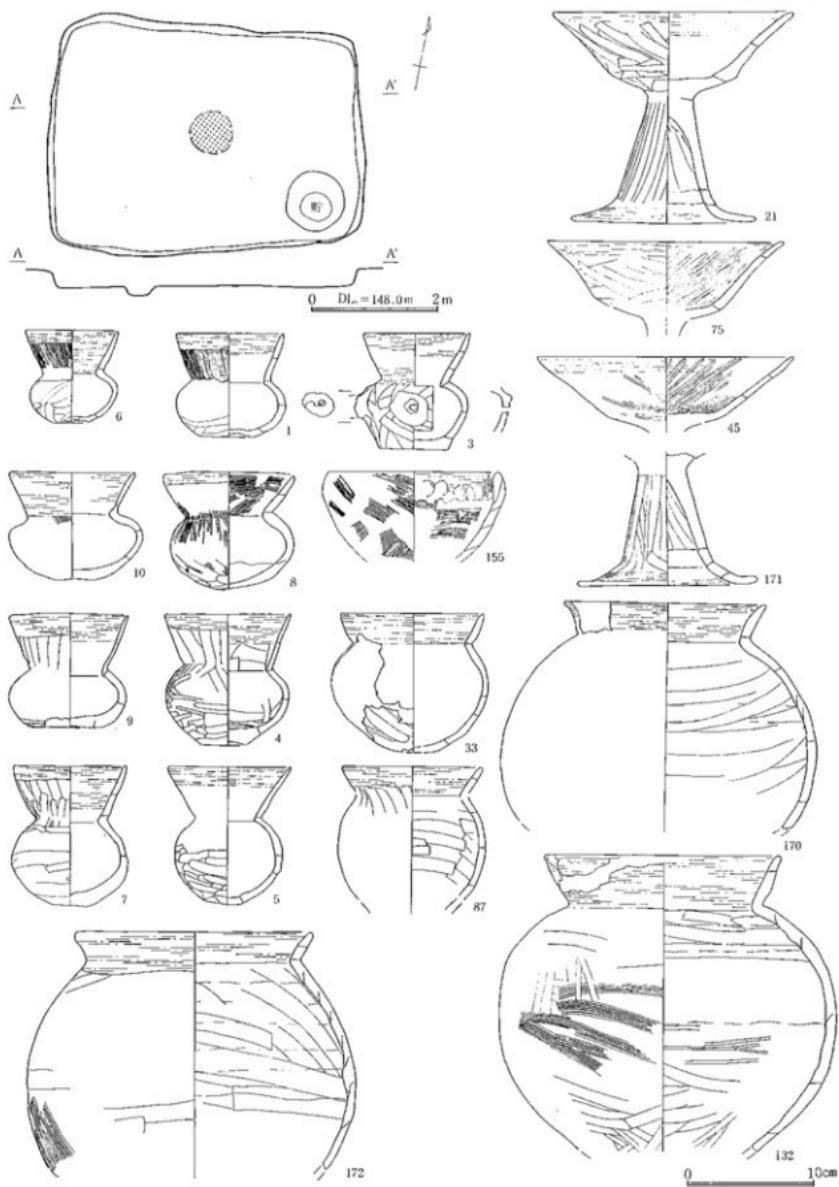


図35 5号住居実測図・遺物実測図

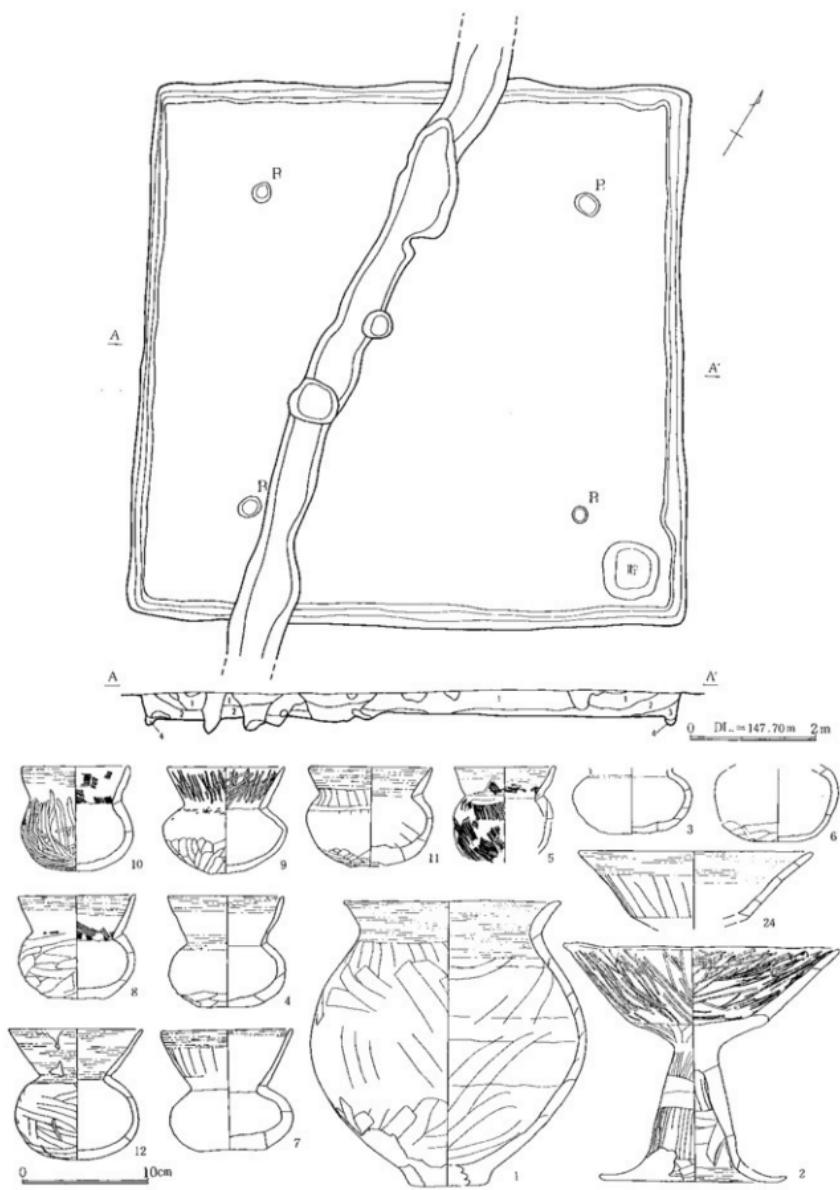


图36 8号住居実測図・遺物実測図

攝 図

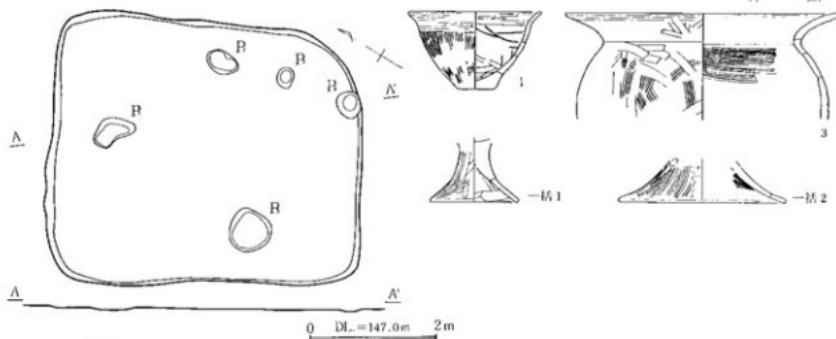


図37 34号住居実測図・遺物実測図

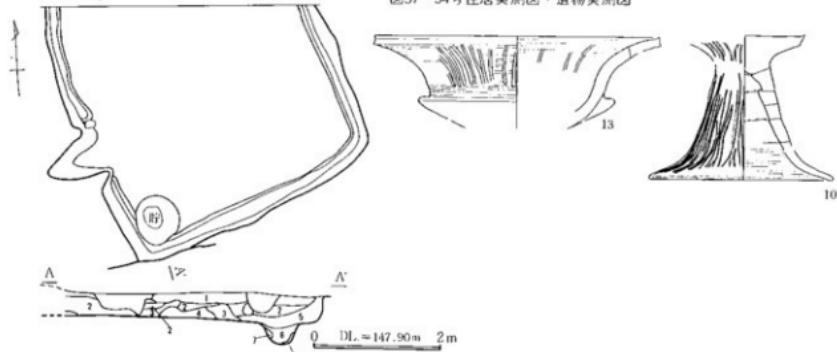


図38 1号住居実測図・遺物実測図

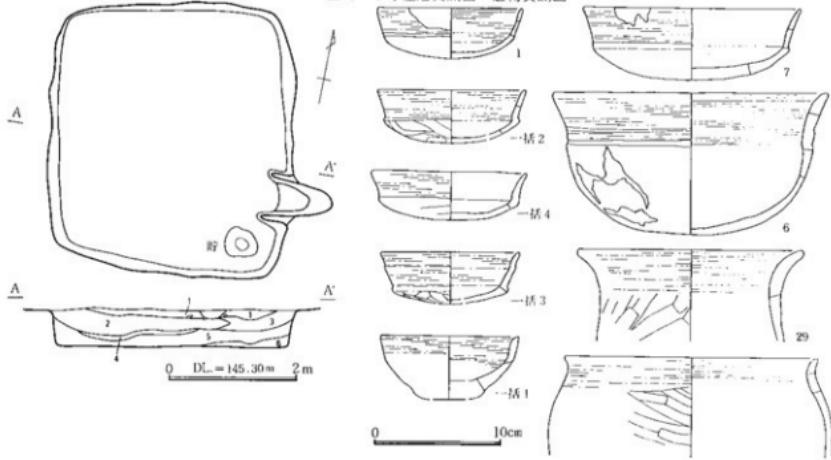


図39 3号住居実測図・遺物実測図

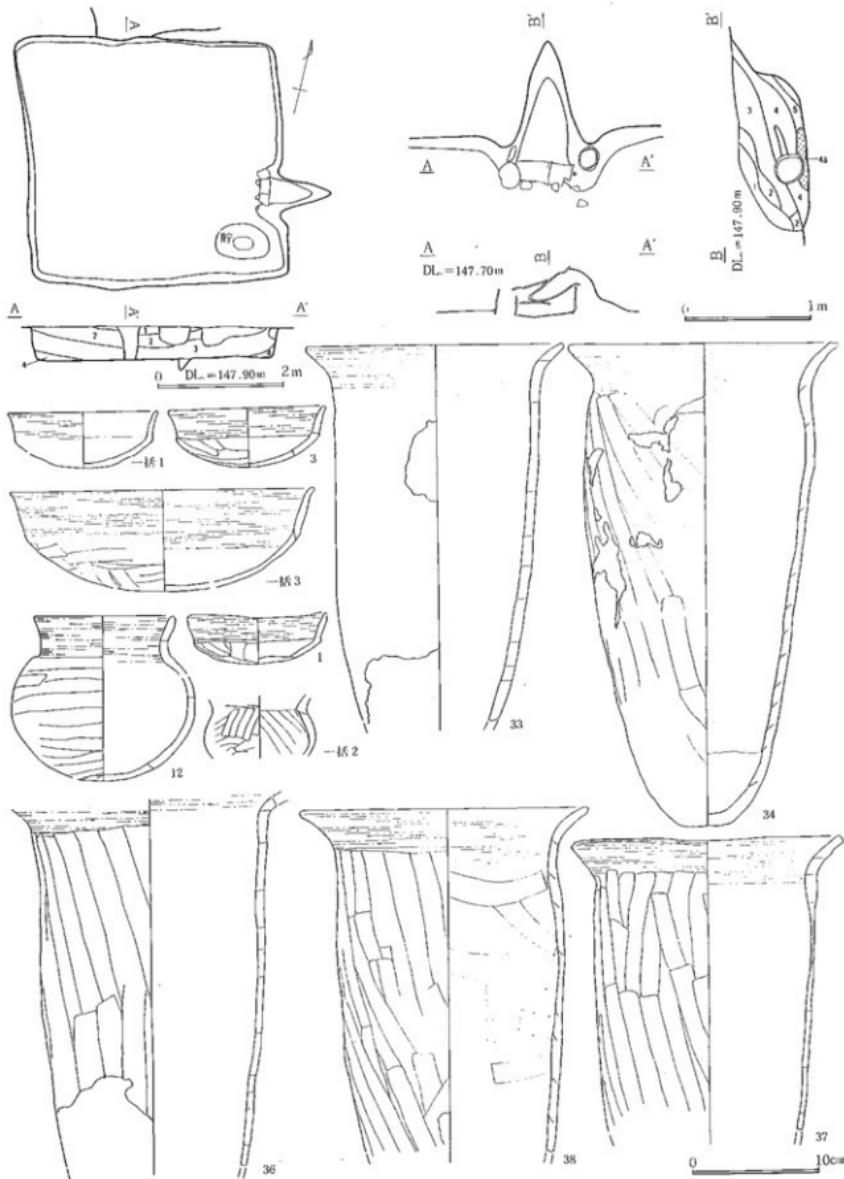


図40 2号住居実測図・遺物実測図

挿 図

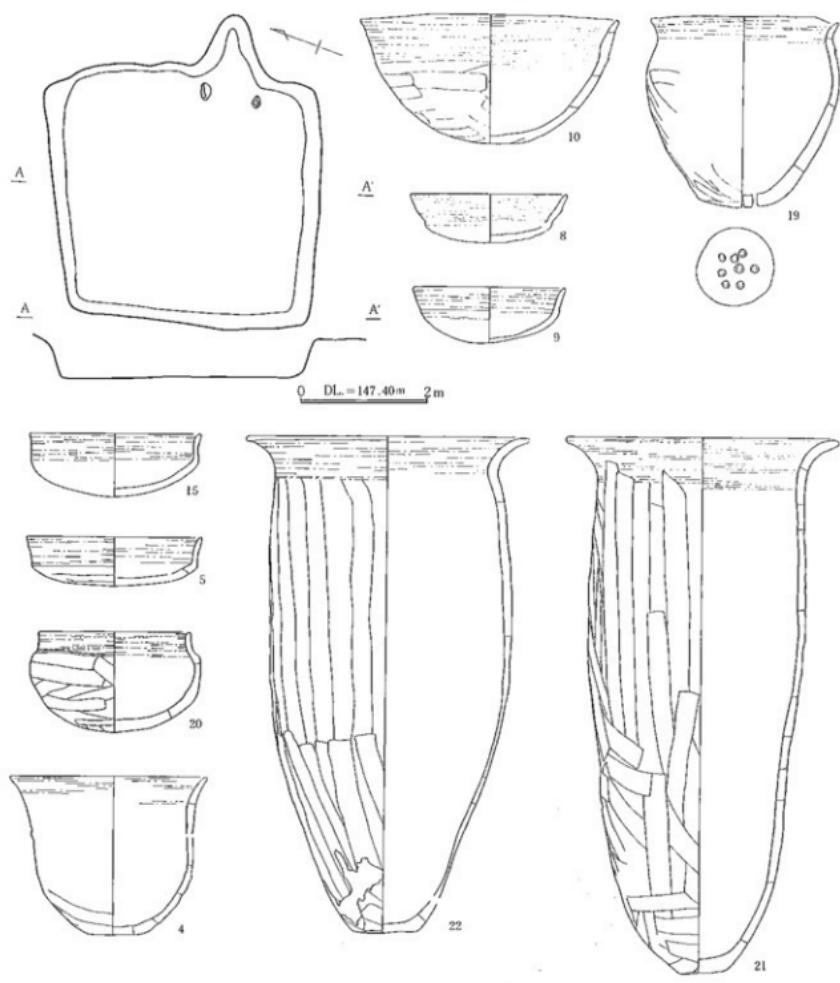


図41 16号住居実測図・遺物実測図

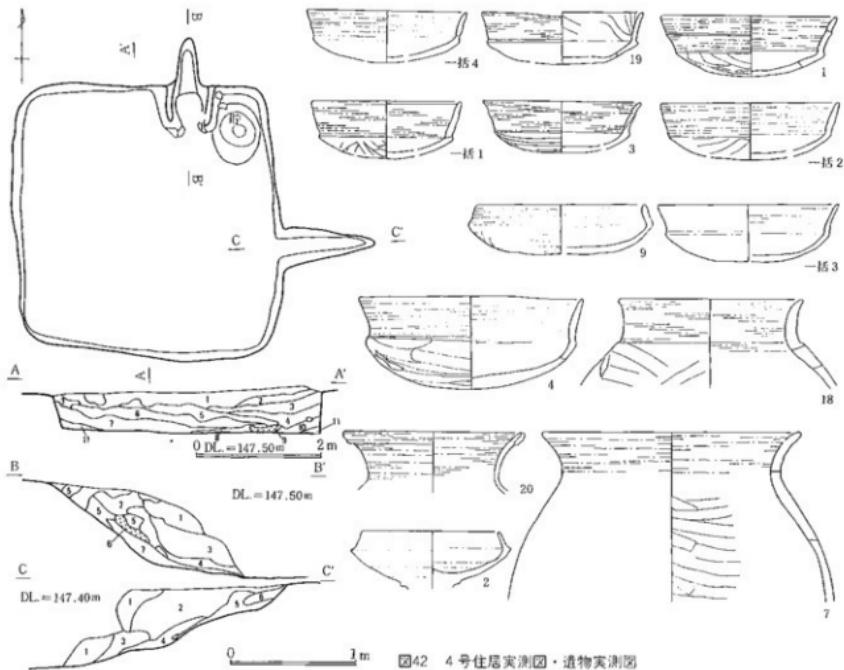


図42 4号住居実測図・遺物実測図

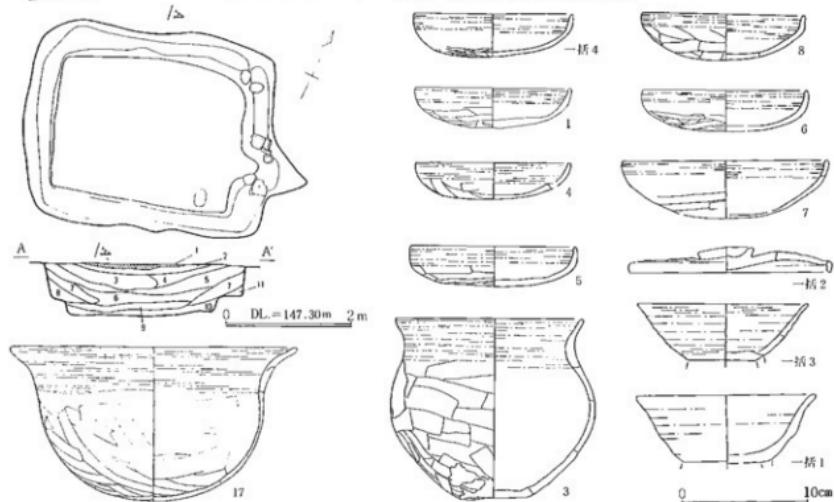
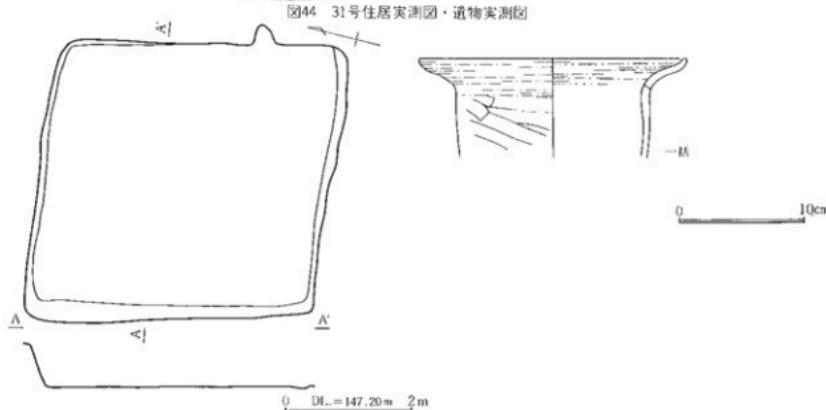
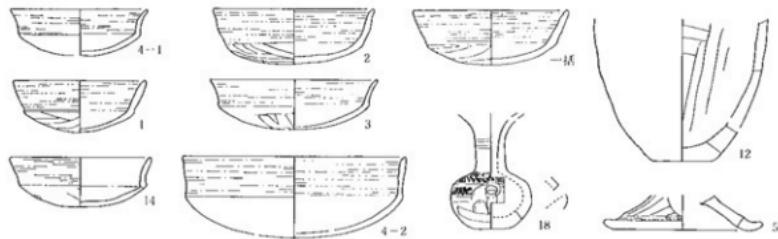
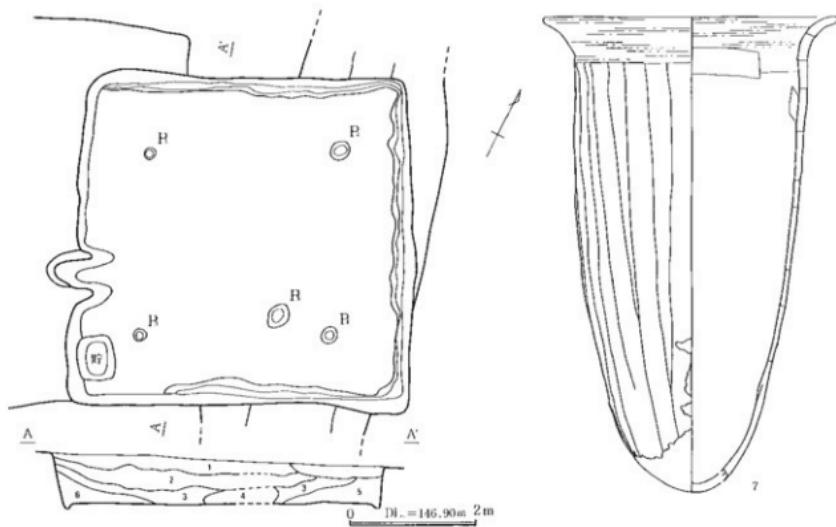


図43 18号住居実測図・遺物実測図

插 国



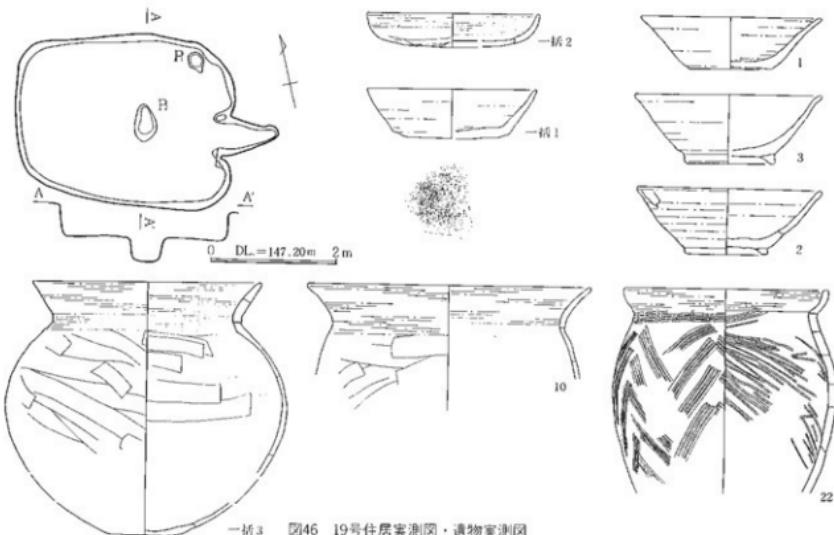


図46 19号住居実測図・遺物実測図

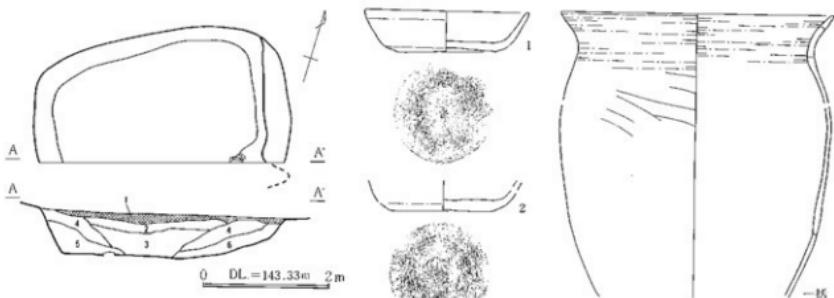


図47 24号住居実測図・遺物実測図

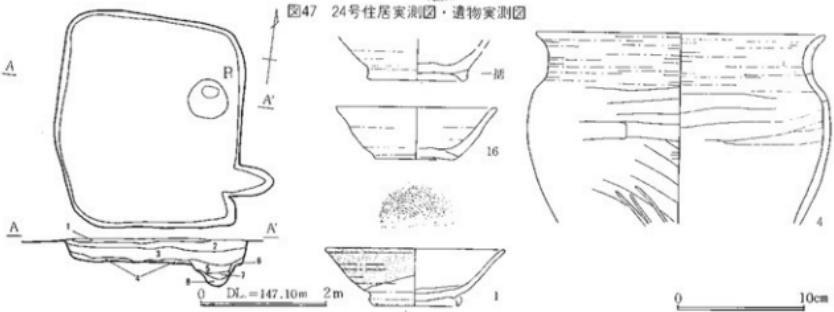


図48 26号住居実測図・遺物実測図

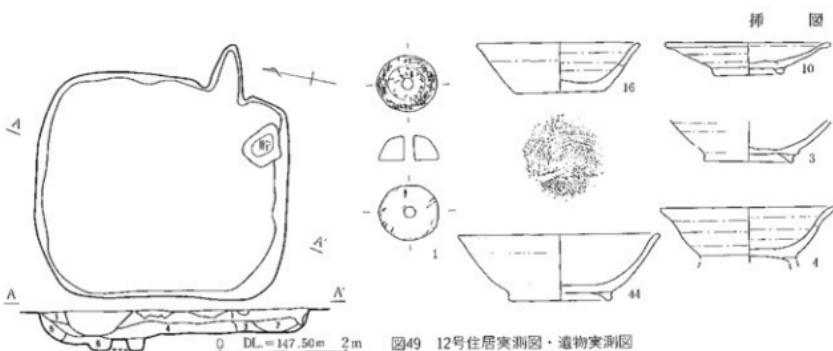


図49 12号住居実測図・遺物実測図

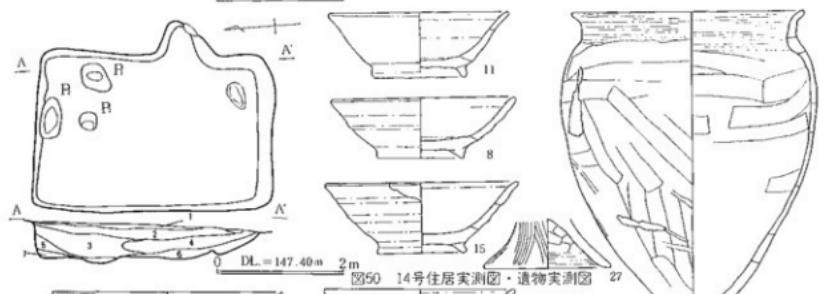


図50 14号住居実測図・遺物実測図

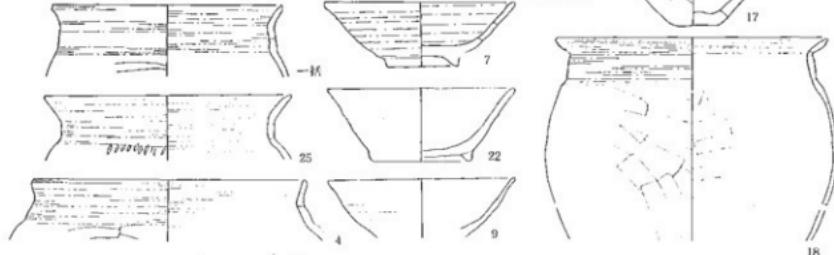


図51 15号住居実測図・遺物実測図

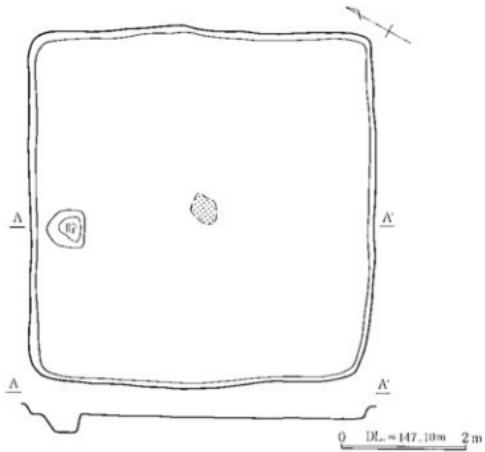


図52 6号住居実測図

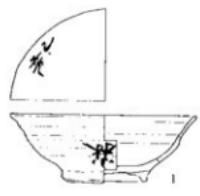


図53 地割れ内出土遺物実測図

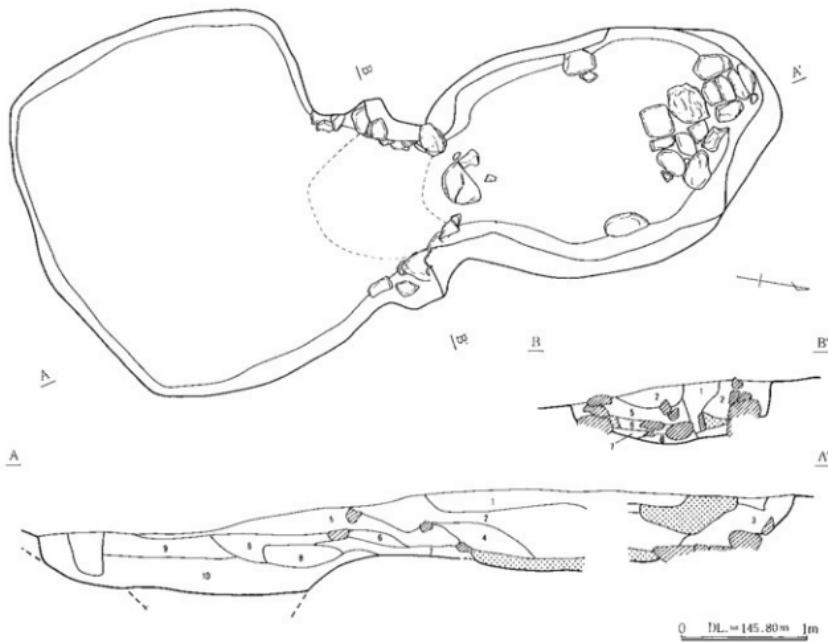


図54 炭窯実測図

遺構土層説明一覧

7号住居土層説明

1層 黒褐色土	多量のAs-Cを含む。
2層 黒褐色土	1層に比べAs-Cの含有量が少ない。
3層 明褐色土	As-Cを僅かに含む。
4層 褐色土	焼土、炭化物を含む。ブロック状に焼土・炭化物塊を含む。
5層 明褐色土	ローム質土。

9号住居土層説明

1層 淡褐色土	As-C及びHr-F P粒を含む。
2層 黒色土	As-Cを多量に含む。
3層 黑褐色土	2層に比べAs-Cの含有量が少ない。
4層 褐色土	焼土、炭化物を含む。ブロック状に焼土・炭化物塊を含む。
5層 明褐色土	ローム質土。

11号住居土層説明

1層 黒色土	多量のAs-Cを含む。
2層 黑褐色土	斑状にローム質土を含む。As-Cを余り含まない。
3層 明褐色土	As-Cを含まない。焼土、炭化物を含む。
4層 赤褐色土	焼土、炭化物ブロック。

13号住居土層説明

1層 黑褐色土	As-C及びHr-F P粒を含む。少量の炭化物・焼土を含む。
2層 淡褐色土	As-C及びHr-F P粒を含む。1層よりやや深い。
3層 黒色土	As-Cを多量に含む。
4層 黑褐色土	As-Cを僅かに含む。
5層 喀褐色土	ローム質土を斑状に含む。
6層 黑褐色土	多量の炭化物・焼土を含む。
7層 褐色土	焼土を多く含む。
8層 褐色土	ローム質土。
9層 明褐色土	ローム質土。(質層削除め土)

20号住居土層説明

1層 黑褐色土	As-C及びHr-F P粒を含む。
2層 黑色土	1層よりHr-F Pの量が少ない。
3層 黑色土	多量のAs-Cを含む。
4層 黑褐色土	3層に比べAs-Cの含有量が少ない。
5層 喀褐色土	少量のAs-Cを含む。炭化物を含む。

6層 褐色土

7層 褐色土	斑状にローム質土を含む。
8層 赤褐色土	ロームブロックを含む。
27号住居土層説明	壤土層
1層 黑褐色土	As-Cを多量に含む。
2層 黑色土	上部に少量のAs-Cを含む。
3層 喀褐色土	ローム質土。

29号住居土層説明

1層 黑褐色土	As-C及びHr-F P粒を含む。
2層 黑色土	As-Cを多量に含む。
3層 喀褐色土	ローム粒を含み、少量のAs-Cを含む。
4層 褐色土	ローム粒を含む、As-Cを含まない。

30号住居土層説明

1層 黑褐色土	As-Cを含む。
2層 黑色土	As-Cを少量の含む。
4層 喀褐色土	ローム粒を少量の含む。

32号住居土層説明

1層 喀褐色土	As-C及びHr-F P粒を含む。
2層 黑褐色土	多量のAs-Cを含む。
3層 黑色土	少量のAs-Cを含む。
4層 喀褐色土	ローム質土を斑状に含む。As-Cを含まない。

33号住居土層説明

1層 喀褐色土	多量のAs-C及び少量のHr-F P粒を含む。
2層 黑褐色土	As-C及びHr-F P粒を少量の含む。
3層 黑色土	極少量のAs-Cを含む。
4層 赤褐色土	多量の土を含む。
5層 褐色土	ローム質土を斑状に含む。

28号住居土層説明

1層 黑色土	As-C及びHr-F P粒を含む。
2層 喀褐色土	As-Cを含む。
3層 褐色土	As-Cを少しある。ローム粒、炭化物粒を含む。
4層 喀褐色土	As-Cを含まない。炭化物、焼土粒を多く含む。
5層 赤褐色土	炭化物粒。
6層 出色土	炭化物ブロック。

1号方形周溝墓周壁土層説明

1層 喀褐色土	Hr-F P粒、As-C粒を少量含む。
2層 黑褐色土	Hr-F P粒、As-C粒を含む。

3層 黒色土	Hr-F P粒を含み、As-C粒を僅かに含む。	3層 黒褐色土	As-C粒を僅かに含む。
4層 黒褐色土	Hr-F P粒を含む。	4層 淡褐色土	ローム質土。
5層 暗褐色土	Hr-F P粒、ローム粒を含む。		
6層 棕褐色土	Hr-F P粒、ローム粒を僅かに含む。		
7層 暗褐色土	ローム粒を少量含む。硬く締まる。以下、純文時代の土壤理め土。		
8層 棕褐色土	ローム粒を含む。硬く締まる。		
2号方形周溝墓周壁土層説明			
a層 棕褐色土	ローム粒を多く含む。a層~e層は大調理め土。	4層 黒色土	As-C粒を僅かに含む。
b層 暗褐色土	ローム粒を含む。	5層 棕褐色土	ロームブロックを多量に含む。
c層 暗褐色土	僅かにローム粒を含む。やや砂質。	6層 暗褐色土	ロームブロックを含むが5層より少ない。
d層 棕褐色土	ロームブロック、ローム粒を多く含む。a層より明るい。	7層 棕褐色土	ロームブロックを含む。歌らかい。7層~9層は周溝墓底盛土。
e層 棕褐色土	ロームブロック、ローム粒を多く含む。d層より明るい。	8層 暗褐色土	ロームブロックを殆ど含まない。
1層 黑褐色土	As-B粒を多く含む。やや砂質。	9層 明褐色土	ロームブロックを多量に含む。
2層 黑褐色土	大粒のHr-F P粒を含む。少量のAs-C、炭化物粒を含む。	10層 黑褐色土	As-Cを多量に含む。旧表土層
3層 黑褐色土	Hr-F P、As-C粒を含む。	11層 黑褐色土	ローム粒、ロームブロックを含まない。
4層 黑褐色土	As-Cを含む。	12層 黑褐色土	ロームブロックを含む。
5層 黑褐色土	As-C、ローム粒を含む。	13層 暗褐色土	ロームへの移層。
6層 暗褐色土	As-Cを僅かに含む。ロームブロックを斑状に含む。	14層 棕褐色土	ソフトローム層。
7層 淡褐色土			
3号方形周溝墓土層説明			
a層 淡褐色土	砂質土。耕作土に似る。a~iは溝埋め土。	5号方形周溝墓土層説明	
b層 暗褐色土	As-C、Hr-F P粒を少量含む。砂質土。	1層 黑褐色土	As-C粒を含む。やや砂質。
c層 暗褐色土	b層に似る。炭化物を含む。砂質土。	2層 黑褐色土	As-C粒を含む。1層よりやや暗い。
d層 黑褐色土	c層に似る。ローム粒を含む。砂質土。	3層 暗褐色土	1・2層に比べAs-C粒の含存量が少ない。
e層 黑褐色土	As-C粒、ローム粒を少量含む。やや砂質。	4層 棕褐色土	ローム質土。
f層 暗褐色土	e層に似るが、As-C、ローム粒が少ない。		
g層 暗褐色土	f層に似るが、ローム粒を含む。	6号方形周溝墓土層説明	
h層 黑色土	As-C粒を含む。	0層 溝埋め土。	多量のAs-C粒を含む。
i層 暗褐色土	ローム粒を多く含む。	1層 黑褐色土	上面に少量のHr-F P粒を含む。
1層 黑褐色土	Hr-F P、As-C粒を多く含む。1~4層は3号方形周溝墓周壁理め土。	2層 黑褐色土	1層に似るが、ローム粒を含み1層より明るい。
2層 黑褐色土	Hr-F P、As-C粒を少量含む。	3層 暗褐色土	As-C粒、少量のローム粒を含む。
		3a層 暗褐色土	少量のAs-C及びローム粒を含む。
		4層 暗褐色土	As-C粒を含まず、少量のローム粒を含む。
		5層 棕褐色土	多量にローム粒を含む。
7号方形周溝墓土層説明			
1層 黑色土	As-C粒を含む。		
2層 黑褐色土	1層よりさらに多くのAs-C粒を含む。		

3層	灰白色底石層	As-Cの純粋。	4号住居土層説明	1層	暗褐色土	As-C、Hr-FP粒を含む。しまりあり。
4層	暗褐色土	As-C粒を含む。しまりあり。		2層	褐色土	ローム粒を多く含む。
5層	淡褐色土	ロームブロックを含む。 ローム質土。		3層	明褐色土	2層よりさらに多くのローム粒を含む。
8号住居土層説明				4層	黒褐色土	1層に似る。
1層	黒褐色土	As-C、Hr-FP粒を含む。		5層	褐色土	ロームブロックを含む。
2層	暗褐色土	As-C及び少量の炭化物を含む。		6層	明褐色土	ロームブロックを多量に含む。
3層	褐色土	ローム粒を含む。		7層	黒褐色土	1層に似る。
4層	褐色土	ローム質土。		8層	黒灰褐色土	炭化物を多く含む。カマドの崩落部か。
1号住居土層説明				9層	赤褐色土	焼土層
1層	暗褐色土	As-C、Hr-FP粒を含む。炭化物、ローム粒も含む。		10層	褐色土	ローム粒を含む。
2層	黑褐色土	1層よりローム粒の含有量が少なく、やや暗い。		11層	褐色土	ローム質土。
3層	淡褐色土	焼土粒や粘土粒を含む。電の剥離か。	4号住居1号カマド部土層説明			
4層	淡赤褐色土	焼土粒や粘土粒を多く含む。		1層	暗褐色土	住居埋め土1層に同じ。
5層	暗褐色土	1層に似るがHr-FPを含まない。		2層	淡褐色土	焼土粒を含む。
6層	褐色土	経年が無くサラサしている。貯糞穴埋め土。		3層	褐色土	2層に似る。
7層	黄褐色土	ロームブロック。		4層	明褐色土	焼土粒を多く含む。
2号住居土層説明				5層	赤褐色土	多量の焼土を含む。
1層	暗褐色土	As-C、Hr-FPを少量含む。		6層	赤褐色土	焼土ブロック。
2層	褐色土	ローム質土を斑状に含む。		7層	暗赤褐色土	焼土、灰筋、炭化物を含む。
3層	黄褐色土	1層に似るが、ローム粒を多く含む。	4号住居2号カマド部土層説明			
4層	明黄褐色土	ロームブロックを多く含む。		1層	上記に同じ	
2号住居カマド部土層説明				2層	暗褐色土	ローム粒を含む。
1層	暗褐色土	上記1層と同様。		3層	暗褐色土	炭化物粒を僅かに含む。
2層	灰褐色土	灰白色粘土粒を含む。		4層	褐色土	焼土粒を含む。
3層	灰褐色土	2層より多量の焼土粒を含む。		5層	淡褐色土	粘土粒、焼土粒を含む。
4層	灰色土	灰白色粘土質土。		6層	褐色土	やや軟質のローム質土
4層	暗褐色土	焼土ブロック。	18号住居土層説明			
5層	暗灰褐色土	焼土粒、炭化物粒を含む。		1層	青紫色砂質土	As-B純粋
3号住居土層説明				2層	黒褐色土	As-C、Hr-FP粒を含む。やや砂質。
1層	暗褐色土	Hr-FP粒と少量のローム粒を含む。		3層	黑色土	As-C、Hr-FP粒を含む。
2層	褐色土	1層より多量のローム粒を含む。		4層	黒褐色土	As-C、Hr-FP粒を含む。
3層	黑褐色土	As-C、Hr-FP粒を含む。		5層	暗褐色土	As-C、Hr-FP粒を含む。
4層	黑褐色土	As-C、Hr-FP、ローム粒を少量含む。		6層	暗褐色土	As-C、Hr-FP粒を含む。5層よりやや暗い。
5層	暗褐色土	1層に似る。		7層	暗褐色土	Hr-FPを少量含む。6層よりさらに暗い。
6層	淡褐色土	粘土を含む。		8層	暗褐色土	7層よりやや明るい。
				9層	褐色土	ロームブロックを含む。
				10層	暗褐色土	ロームブロックを少量含む。
				11層	褐色土	ローム質土。
			31号住居土層説明			
				1層	暗褐色土	As-C、Hr-FP粒を含む。
				2層	褐色土	ロームブロックを含む。
				3層	褐色土	2層に比べロームブロックの量が少ない。

4層 棕褐色土	ローム粒、粘土粒、焼土 粒を含む。	4層 暗褐色土	粒を多く含む。 As-C、Hr-F P 粒を 僅かに含む。
5層 茶褐色土	多量の粘土ブロック、焼 土粒を含む。	5層 暗褐色土	ローム質土。床下埋め土。 ロームブロックを含む。
6層 暗褐色土	ローム粒を含む。	6層 棕褐色土	
24号住居土層説明		14号住居土層説明	
1層 灰褐色土	As-B を含む。	1層 灰褐色土	As-B を多量に含む。
2層 青紫色砂質土	As-B 級原。	2層 黑褐色土	As-B を含む。やや砂 質。As-C、Hr-F P 粒 を僅かに含む。
3層 黒色土	Hr-F P 粒を僅かに含 む。	3層 黑褐色土	As-C、Hr-F P 粒を 含む。少量の焼土、炭化 物を含む。
4層 黑褐色土	3層よりやや明るい。 Hr-F P 粒を含む。	4層 黑褐色土	3層に比べやや黄色味を 増す。
5層 暗褐色土	ローム粒を僅かに含む。	5層 棕褐色土	As-C を含む。3層より やや明るい。
6層 棕褐色土	ローム粒、凝土粒を含む。 電線の崩落土。	6層 暗褐色土	焼土を多く含む。
26号住居土層説明		7層 棕褐色土	ローム質土。
1層 黑褐色土	As-B を少量含む。		
2層 黑褐色土	As-C、Hr-F P 粒を 含む。		
3層 棕褐色土	As-C を少量含む。	炭窯	
4層 暗褐色土	ロームブロック、ローム 粒を含む。	1層 淡赤褐色土	焼土粒を含み、焼土ブ ロックを僅かに含む。
5層 黑色土	As-C を僅かに含む。貯 藏穴埋め土。	2層 暗褐色土	焼土粒、炭化粒を含む。
6層 暗褐色土	ローム粒を僅かに含む。	3層 淡赤褐色土	スサ入り粘土、焼土ブ ロックを多く含む。
7層 黑褐色土	ローム粒を僅かに含む。	4層 棕褐色土	焼土ブロックを含むが1 層より少ない。
8層 暗褐色土	ロームブロックを少量含 む。4層より明るい。	5層 暗褐色土	焼土粒、ローム粒を含む。
3層 棕褐色土	ロームブロック、ローム	6層 暗褐色土	焼土粒を僅かに含む。5 層より暗い。
		7層 黑色土	炭層。硬く締まる。
		8層 淡赤褐色土	焼土粒、ローム粒を含む。
		9層 黑色土	炭化物、凝土粒を僅かに 含む。7層より淡い。
		10層 淡褐色土	ローム質土。大溝埋め土。

遺物觀察表

遺物観察表

7号住居 出土遺物観察表(図5・6、PL29・32)

番号	器形	法量 箇高 口縁 底径	器形の特徴 外面・内面調整 文様の特徴	①芯部 ②縁式 ③残存 ④船底 ⑤偏矯 ⑥床面直上
25	甌	(15.6)	受け口状口縁。頸部は太い。 (外面調整) 頸部ハゲメの後ヘラミガキ。 (内面調整) 全体にハケヌ。口縁部ヨコナヂ。 (文様) 口縁部にL Rの鰐文施文。その後ヘラ描きによる波状文。頸部はL Rの鰐文を地文として、ヘラ描きによる波状線を1条通らし、その下にヘラ描きによる連弧文が施される。	⑪7.5YR 5/6 残 ②酸化 ③口縁部のみ ④精選 ⑤内面の剥落顕著 ⑥床面直上
	甌	(10.2)	肩部は緩やかな膨らみを持ち、中央部に最大径を持つ。頸部は細く縦まり、口縁部は直線的に開く。口縁部は折り返し口縁。 (外面調整) 口縁上部にヨコナヂ。肩部の一部にヘラミガキ。 (内面調整) 口縁部から肩部にかけてナヂ。 (文様) 口縁の折り返し部にL Rの鰐文。頸部から肩上半部にかけてRL鰐文が施文された後、側面に沿って帯状文とその下に連続山形文が施文され、それぞれ削り消しにより帶状文と山形文内に鰐文が残される。	⑪7.5YR 5/6 にぶい穂 ②酸化 ③% ④精選。筋石を含む ⑤底部周辺に墨斑 ⑥床面直上
18	甌	9.4	肩下半部のみ。肩上部に最大径をもつ。 (外面調整) ヘラミガキ。 (内面調整) 剥落。	⑪7.5YR 5/6 にぶい穂 ②酸化 ③肩下半部のみ ④砂粒を含む ⑤内面の荒れ顕著 ⑥床面直上
75	甌		肩中央部よりやや上位に最大径を持つ。 (外面調整) 丁寧なヘラミガキ。 (内面調整) ハゲメの後ナヂ。	⑪5YR 4明赤褐 ②酸化・良好 ③肩中央部のみ ④精選 ⑥
6	甌		頸部は細く、腹やかに開く。 (外面調整) 頸部は縦方向のヘラミガキ。肩部は横方向のヘラミガキ。 (内面調整) ヘラナヂ。 (文様) 頸部から肩部にかけてL R鰐文を横位施文し、沈縁で区画して削り消しにより2段の帯状文としている。	⑪2.5YR 無明赤褐 ②酸化や軟質 ③頸部周辺のみ ④精選 ⑤墨斑 ⑥床面直上
14	高杯?	10.0	脚柱部に粗く断部で大きくラッパ状に開く。 (外面調整) ヘラミガキ。 (内面調整) ハゲメの後ヘラミガキ。	⑪2.5YR 無赤褐 ②酸化 ③脚柱のみ ④精選。筋石を含む ⑤赤色述形 ⑥床面直上
一括	甌	(9.2)	口縁部は短く、僅かに外反する。 (外面調整) 口縁部ヨコナヂ。 (内面調整) 口縁部ヨコナヂ。肩部ヘラミガキ。 (文様) 太めの4本脚柱工具による波状文が施される。	⑪10YR 4/6 にぶい黄橙 ②酸化 ③% ④精選 ⑤墨斑 ⑥埋め土内
24	甌	9.8	肩部は底部から直線的に開く。 (外面調整) ハケヌ。 (内面調整) 剥落が激しい。	⑪10YR 4/6 にぶい黄橙 ②酸化 ③底盤周辺のみ ④砂粒を含む ⑤内面の荒れ顕著 ⑥床面直上
16	台付き甌	8.3	脚柱部は短く、根部でラッパ状に開く。 (外面調整) 根部ヨコナヂ。脚柱部ヘラミガキ。 (内面調整) ナヂ。	⑪7.5YR 5/6 にぶい穂 ②酸化 ③脚台部のみ ④精選。白色輕石粒子を含む ⑥床面直上
21	甌	(21.0)	口縁部は短く、やや受け口状に内湾して開く。 (外面調整) 口縁部ヨコナヂ。 (内面調整) 源流状のハゲメの後肩部上半部は横方向のヘラミガキ。 (文様) 口唇部にR Lの鰐文が施されている。頸部には柾状工具による不規則な縦状文。肩部には全面に不規則な波状文。	⑪10YR 4/6 にぶい黄橙 ②酸化 ③% ④精選。白色軟物質を多く含む。 ⑤二次焼成を受ける ⑥床面直上
35	甌	(12.6)	口縁部は頸部から緩やかに外反しながら開くが、端部で僅かに内湾する。 (外面調整) 口縁部ヨコナヂ (内面調整) ハケヌ。剥落が激しい。 (文様) 口唇部に健文?。頸部に2条の沈縁をめぐらす。その下に部分的に沈縁により四角な区画文を描き、横位の沈縁を充実している。	⑪10YR 4/6 にぶい黄橙 ②酸化やや軟質 ③口縁部の一部のみ ④精選。砂粒を含む ⑤内面の荒れ顕著 ⑥床面直上

番号	器形	法 規 高 度 口 径 底 深	器形の特徴 外面・内面調整 文様の特徴	①色調 ②焼式 ③残存 ④粘土 ⑤備考 ⑥出土状態
38	甕	20,7 15,3 6,2	底部は小さく端部が外に張り出す。肩部は上部に最大径を持つ。口縁部は、頸部から下の字に短く外傾する。 (外面調整) 口縁部ヨコナダ。肩下部ハケメの後ナダ。 (内面調整) 口縁部ハケメ。肩上部に縱方向のヘラミガキ。 (文様) 口唇部にL.Rの楢文。颈部に7本筋の柳状工具による等間隔止めの縦状文。肩部に頸部と同一工具による波状文。	①5YR 5明赤褐色 ②酸化 ③完形 ④精造。砂粒を含む ⑥床面直上
20	鉢	(23,2)	口縁端部が大きく外反して側く。 (外面調整) 口縁部ヨコナダ。肩部は横直状のハケメの後ヘラミガキ。部分的に赤色渲染。 (内面調整) ヘラミガキの後赤色渲染。	①7,5YR 5明に赤褐色 ②酸化 ③口縁部の一部のみ ④精造 ⑤赤色渲染 ⑥床面直上

9号住居 出土遺物観察表(図8、PL29・32)

番号	器形	法 規 高 度 口 径 底 深	器形の特徴 外面・内面調整 文様の特徴	①色調 ②焼式 ③残存 ④粘土 ⑤備考 ⑥出土状態
4	甕		頸部は太く、口縁部は緩やかに開く。 (外面調整) 口縁部にヘラミガキ。 (内面調整) 口縁部にヘラミガキ。 (文様) 頸部にヘラミガキによる沈線が5条巡り、その沈線と沈線との間にヘラミガキによる波状文がそれぞれ斜めに施される。	①7,5YR 5明に赤褐色 ②酸化 ③頸部のみ ④精造。砂粒を含む ⑥床面直上
81	甕	14,4	頸部は緩やかに屈曲する。口縁部は外反して開き、端部で僅かに内湾し、受け口状となる。 (外面調整) 口縁部ヨコナダ。肩部はハケメの後、縱方向のヘラミガキ。 (内面調整) 口縁部ヨコナダ。肩部はハケメ。 (文様) 口唇部にL.Rの楢文。颈部にはL.R楢文を模倣後へラミガキによる沈線が3条巡らされる。	①7,5YR 5明に赤褐色 ②酸化 ③少 ④精造。輝石を含む ⑤内面の荒れ端面 ⑥P.I.内
48	甕	(17,8)	肩上部に最大径を持つ。頸部は緩やかに屈曲し、口縁部は短く、内湾して立ち上がり、受け口状となる。 (外面調整) 口縁部ヨコナダ。肩部は横直状のハケメの後ヘラミガキ。 (内面調整) 口縁部ヨコナダ。肩部は横直状のハケメの後ヘラミガキ。 (文様) 口唇部にL.Rの楢文施文。口縁部にはヘラミガキによる波状文が施される。頸部には本筋の柳状工具による等間隔止めの縦状文、肩部には同一の柳状工具による5単位の羽状斜走線文が施される。	①10YR 5明に赤褐色 ②酸化 ③少 ④精造。輝石を含む ⑥床面直上
14	甕	21,2 (14,7) 7,1	肩上部に最大径を持つ。頸部は緩やかに屈曲し、口縁部は緩やかに外傾して開く。 (外面調整) 口縁部ヨコナダ。肩部は横直状のハケメの後ヘラミガキ。 (内面調整) 口縁部ヨコナダ。肩部はヘラミガキ。 (文様) 口唇部にL.Rの楢文施文。頸部には本筋の柳状工具による等間隔止めの縦状文が施される。肩部には頸部と同一工具による、不規則な羽状斜走線文が施される。	①10YR 5明に赤褐色 ②酸化 ③少 ④精造。輝石を含む ⑥床面直上
一括	甕		底部が外に張り出す。 (外面調整) 横直状のハケメ。 (内面調整) ナダ。	①7,5YR 5明に赤褐色 ②酸化 ③底 部少 ④砂粒・白色輝石混在 ⑥埋め土内

10号住居 出土遺物観察表(図9、PL33)

番号	器形	法 規 高 度 口 径 底 深	器形の特徴 外面・内面調整 文様の特徴	①色調 ②焼式 ③残存 ④粘土 ⑤備考 ⑥出土状態
1	甕	15,0 11,9 6,8	肩部は上部がやや張る。頸部は緩やかに屈曲し、口縁部は肥厚して直線的に僅かに開く。 (外面調整) 口縁部にナダ。一部にユビオサエ。底部は縱方向のナダ。 (内面調整) ナダ。	①7,5YR 5明に赤褐色 ②酸化 ③少 ④精造。輝石を含む ⑤肩部外側に炭化物の付着 ⑥床面直上

遺物観察表

番号	器形	法 量 器高 口縁 底深	器形の特徴 外面・内面調整 文様の特徴	①色調 ②焼式 ③焼存 ④胎土 ⑤調査 ⑥出土状態
一括	壺		頸部は緩やかな屈曲を持つ。 (外面調整) ヘラミガキ。 (内面調整) 刷削。 (文様) ヘラ描きの沈線を5~7条重ね、その上を沈線により網目状に区画し、頂点を下にする三角形部分について沈線を削り消す。結果的に沈線が充積された連續三角形となっている。その下にL.R調文を地文として頸部を巡る沈線とその中に斜交する沈線により連続する三角形文を構成させている。	①7.5YR%淡黄緑 ②酸化 ③頸部のみ ④削道。砂粒を含む ⑤黒斑有り ⑥埋め土内

11号住居 出土遺物観察表 (図10、P.L.33)

番号	器形	法 量 器高 口縁 底深	器形の特徴 外面・内面調整 文様の特徴	①色調 ②焼式 ③焼存 ④胎土 ⑤調査 ⑥出土状態
9	壺	(15.8)	頸部は緩やかに屈曲する。口縁部は僅かに内湾ぎみに開き、端部で立ち上がる。 (外面調整) ハケメ。 (内面調整) ハケメ。 (文様) 口縁部から1縁部にかけてL.Rの調文を施す。口縁部については調文を削り消し、ヘラ描き沈線による波状文を施す。頸部は4本歯の櫛状工具による等間隔止めの推状文が巡る。肩部は頸部の推状文と同一工具による不規則な横位の波状文が巡る。	①7.5YR%淡黄緑 ②酸化。やや軟質 ③肩上半部のみ ④砂粒を含む ⑤床面直上
29	壺	13.0	頸部はぐの字に屈曲する。口縁部は外傾して開き、端部でやや内湾して立ち上がり、受け口である。 (外面調整) 口縁部ヨコナデ。肩部はハケメの後ヘラミガキ。 (内面調整) 口縁部ヨコナデ。肩部はハケメの後ヘラミガキ。 (文様) 口縁部にはヘラ描き沈線による波状文が施される。頸部には3本歯の櫛状工具による波状文が巡る。	①10YR%に近い黄緑 ②酸化 ③口縁部のみ ④削道。砂粒を含む ⑤口縁部に凸出 ⑥床面直上
一括	台付壺		頸部は短くぐの字に開く。 (外面調整) 横方向のヘラナダ。 (内面調整) ヘラナダ。	①6YR%緑 ②酸化 ③脚部のみ ④砂粒を含む ⑤脚柱部に炭化物付着 ⑥床面直上

13号住居 出土遺物観察表 (図11・12・13、P.L.30・34・35・36)

番号	器形	法 量 器高 口縁 底深	器形の特徴 外面・内面調整 文様の特徴	①色調 ②焼式 ③焼存 ④胎土 ⑤調査 ⑥出土状態
196	壺	(15.2)	肩部は中央部が張る。頸部は緩やかに屈曲する。1縁部は僅かに内湾ぎみに開く。 (外面調整) 口縁部ヨコナデ。肩部はヘラナダの後一部にヘラミガキ。 (内面調整) 肩下半部はハケメ。上半部はハケメの後ヘラミガキか。口縁部ナデ。 (文様) 口縁部にL.Rの調文施す。頸部にヘラ描きによる6条の沈線が巡る。	①2.5YR%淡黄 ②酸化 ③ % ④砂粒を含む ⑤床面直上
251	壺	8.1	(外面調整) ヘラミガキ。底部周辺をユビオサギ。 (内面調整) 一部にヘラミガキ。	①2.5YR%淡黄 ②酸化 ③ 底部のみ ④砂粒を含む ⑤内 面の荒れ頬若 ⑥埋め土内
69	壺	11.2	頸部は僅かに屈曲し、口縁部は短く僅かに開く。 (外面調整) 口縁部ヨコナデ。 (内面調整) 横方向のヘラミガキ。 (文様) 口縁部にL.Rの調文施す。頸部に6本歯の櫛状工具による不規則な波状文が施される。肩部は頸部と同一工具による不規則な波状文が横位に施文される。	①2.5YR%緑 ②酸化 ③ % ④砂粒を含む ⑤外側の荒れ頬 若 ⑥床面直上
298	壺	35.6 11.9 8.9	肩部は無果状で中央よりやや下位に最大径を持つ。頸部は緩やかに屈曲する。口 縁部は緩やかに外反して開く。 (外面調整) 口縁部ヨコナデ。肩部は擦痕状のハケメの後ヘラミガキ。 (内面調整) 口縁部ヨコナデ。肩部ナデ。 (文様) 口縁部にL.Rの調文施す。頸部に櫛描波状文を2段にわたって施文する。	①7.5YR%緑 ②酸化 ③ 光 形 ④削道。輝石を含む ⑤頸 部外面に黒斑 ⑥床面直上

番号	器 形	法 基 部 寸 度 概 要	器 形 の 特 徴 外 面・内 面 調 整 文 種 の 特 徴	①色調 ②焼式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
360	壺	(47,6) 22,8 12,6	肩部中央が大きく張る。頸部はくの字に屈曲する。口縁部は確かに外反ぎみに開き、端部で直立する受け口状である。 (外面調整) 口縁部ヨコナ�다。肩部はヘラミガキ。 (内面調整) 口縁部ヨコナ�다。肩部穴開。割落。 (文様) 口縁部にR Lの幾文を施す。口縁部は3本齒の棒状工具による波状文が、頸部にはR L幾文を地文として3本齒工具による沈線が4条巡る。地文の幾文はほとんど磨り消されている。さらにその下位にヘラ描き沈線による波状文を描き、交互に横位置の沈線を充填する。	①5Y %灰白 ②酸化 ③% ④砂粒を多く含む ⑤表面の荒れが顕著。二次焼成か。 ⑥床面直上
459	壺	25,0 (14,2) 6,5	肩部は楓花果架状で肩部中央よりやや下位に最大径を持つ。頸部は細く、口縁部は大きくて外反して開く。口唇部には5~6個の突起を持ち、それぞれの突起にはヘラによる切り込みがみられる。また、肩下部に1カ所間に長い痕状の突起が認められる。 (外面調整) 口縁部はヨコ方向のヘラミガキ。肩部はタテ方向のヘラミガキ。全面赤色塗装。 (内面調整) 口縁部ヘラミガキ。口縁部内面に赤色塗装。	①2,5YR %淡黄 ②酸化 ③完形 ④精造 ⑤肩部内面の荒れが顕著 ⑥床面直上
221	壺	(8,8)	肩部はやや下彎れ。頸部は太く、口縁部は頸部から頸部へ向いて細くなる。外反する。 (外面調整) 口縁部から頸部にかけてナデ。肩部ヘラミガキ。 (内面調整) ナデ。 (文様) 口唇部にL Rの幾文。	①2,5Y %灰黄 ②酸化 ③上半部のみ ④精造。白色植物粒子を含む ⑤全面黒色 ⑥床面直上
455	壺	(16,1)	肩上部に最大径を持つ。頸部は腰やかに屈曲し、口縁部は短く、確かに外反する。 (外面調整) 口縁部ヨコナ�다。肩部ハケメ。 (内面調整) 肩部ヨコ方向のヘラミガキ。 (文様) 壺底に7本齒の棒状工具による等間隔止めの筆状文。肩部に同一工具による横位の波状文。	①7,5YR %黄 ②酸化 ③口縁部の一部のみ ④精造。白色植物粒子を含む ⑤内面黒色。 頸部に炭化物の付着 ⑥埋め土内
257	瓶		肩部は逆ハの字形に開く。底部には1孔を持つ。 (外面調整) ハケメの後ナデ。 (内面調整) ハケメの後ヘラミガキ。	①10YR %に近い黄橙 ②酸化 ③底部のみ ④精造。輝石を含む ⑥床面直上
154	鉢	(22,8)	口縁部は確かに内凹する。口縁部に焼成後穿孔による補修孔を持つ。 (外面調整) 口縁部ヨコナ�다。肩部ヘラミガキ。 (内面調整) ナデの後ヘラミガキ。	①10YR %に近い黄橙 ②酸化 ③口縁部のみ ④精造 ⑤埋め土内
453	土 製 品		幅平で周囲に焼成前穿孔による小孔を持つ。 (外面調整) 赤色塗装。 (裏面調整)	①10YR %に近い黄橙 ②酸化 ③% ④精造。輝石を含む ⑥床面直上
211	壺	(11,5)	口縁部は確かに外反し、腰やかに開く。口縁部は折り返し状である。 (外面調整) 口縁部ヨコナ�다。肩部はヘラミガキ。 (内面調整) 口縁部ヨコナ�다。 (文様) 口唇部にR Lの幾文を施す。頸部にはやや細いヘラ描きによる沈線が4条巡る。	①5YR %橙 ②酸化 ③口縁部のみ ④精造。白色植物粒子を含む ⑤内面の荒れ顕著 ⑥床面直上
47	壺	(20,7)	口縁部は頸部から、現く外折する。 (外面調整) 口縁部ヨコナ�다。肩部の痕状のハケメ。 (内面調整) ヨコ方向のヘラミガキ。 (文様) 口唇部にR Lの幾文を施す。頸部には4本齒の棒状工具による等間隔止めの筆状文。肩部は肩部と同一工具での羽状の斜行直線文が施される。	①5YR %橙 ②酸化 ③% ④精造 ⑤二次焼成か ⑥床面直上
488	壺	24,0	肩部は上半部に最大径を持つ。頸部はくの字に屈曲し、口縁部は確かに内湾して立ち上がり開く。 (外面調整) 口縁部ヨコナ�다。 (内面調整) 口縁部ヨコナ�다。肩部は割落。 (文様) 口唇部にL Rの幾文を施す。頸部には11本齒の棒状工具による等間隔止めの筆状文。肩部は頸部と同一工具による不規則な羽状の斜行直線文が施される。	①7,5YR %に近い橙 ②酸化 ③底部を欠失 ④精造。砂粒を含む ⑤肩部外側に黒斑 ⑥住居内の埋設土器で487がうえに被る。P.内から出土。
185	壺	5,7	肩部は中央に最大径を持つ。肩部は細く繊まる。 (外面調整) 肩部ハケメ。下部はハケメの後ヘラミガキ。 (内面調整) ナデ。一部にヘラミガキ。 (文様) 刷描きの沈線を頸部に3条巡らす。その下位に4段波風文を施す。肩部中央には波紋を1条巡らせる。そして波風文と肩中央の波紋との間に重山形文(6型一组)が8单位施され、さらにその下位にL R幾文が施されている。	①7,5YR %黄橙 ②酸化 ③口縁部を欠失 ④精造 ⑤二次焼成 ⑥床面直上

道物観察表

番号	器形	法 式 高 口 縁 底 深	器形の特徴 外面・内面調整 文様の特徴	①色調 ②焼式 ③保存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
487	壺	14.6	頸部は緩やかに屈曲する。口縁部は外反し縁部で傾かに立つ。 (外面調整) 口縁部ヨコナデ。胴部はハケメの後タテ方向へのヘラミガキ。 (内面調整) 口縁部から頸部にかけてヘラミガキ。胴部ハケメ。 (文様) 口縁部にL.Rの縦文施文。頸部にヘラ描きの沈線を3条巡らす。	①10YR5/4±黄橙 ②酸化 ③胴部下半部を欠失 ④軽度 ⑤住居内埋設土器488の上に被る。 P ₂ 内から出土。
208	壺	(8.0)	頸部は緩やかに屈曲する。口縁部は僅かに内湾して開き、受け口状となる。 (外面調整) 口縁部ヨコナデ。胴部ハケメ。 (内面調整) 口縁部ヨコナデ。頸部にヘラミガキ。 (文様) 口縁部にL.Rの縦文施文。頸部に2条のヘラ描き沈線。その下にヘラ描き沈線による波状文が施される。	①7.5YR5/4にびい黄 ②酸化 ③口縁部のみ ④稍強。白色軽物粒を含む ⑤二次焼成 ⑥埋め土内
94	壺	7.5	胴上半部に最大径を持ち、大きく張る。 (外面調整) 脇下部ヘラミガキ。 (内面調整) 倒落不明。 (文様) 脇上半部に纏模様の沈線による不規則な重弧文を4~5单位施す。	①10YR5/4±黄橙 ②酸化 ③胴部 ④砂礫粒子を多く含む ⑤内面に荒れ跡著 ⑥床面直上
237	壺		胴部は底部から直線的に聞く。 (外面調整) ハケメ。一部にヘラミガキ。 (内面調整) ハケメ。	①7.5YR5/4±黄 ②酸化 ③底面のみ ④稍強 ⑤内面に黒斑 ⑥床面直上
264	壺		頸部はやや太く緩やかに屈曲する。口縁部は傾かに外反して聞く。 (外面調整) ハケメの後一部にヘラミガキ。 (内面調整) ハケメの後ヘラミガキ。 (文様) L.Rに2条にL.Rの縦文施文。底部もL.R縦文を施文してヘラ描きによる沈線を3条巡らす。さらに大型のコーヒー豆状の粘土瘤を7~8個貼付する。	①10YR5/4にびい黄橙 ②酸化 ③胴上半部のみ ④白色軽物粒を含む ⑤二次焼成 ⑥埋め土内
232	壺	(13.2)	口縁部は頸部から緩やかに外反しながら聞く。 (外面調整) ヘラミガキ。 (内面調整) ヘラミガキ。倒落。 (文様) 口縁部から口縁部にかけてL.Rの縦文施文。頸部にもL.R縦文を施文後ヘラ描き沈線を2条巡らす。	①10YR5/4±黄橙 ②酸化 ③口縁部のみ ④白色軽物粒を含む ⑤内面の荒れ跡著 ⑥床面直上
63	壺		頸部は太い。 (外面調整) ハケメの後ヘラミガキ。 (内面調整) ナデ。 (文様) 頸部から胴上半部にかけてL.Rの縦文を施文。その上にやや太めのヘラ描き沈線を2条巡らせ、その下位に同一工具による波状文を1条巡らす。	①10YR5/4にびい黄橙 ②酸化 ③頸部のみ ④稍強。白色軽石粒を含む ⑥床面直上
5	壺	(16.4)	頸部はやや太く、口縁部は僅かに内湾して受け口状となる。 (外面調整) 口縁部ハケメの後ヨコナデ。 (内面調整) 口縁部ヘラミガキ。 (文様) 口縁部にL.Rの縦文施文。頸部にはL.R縦文を地文としてヘラ描き沈線を3条施す。	①10YR5/4にびい黄橙 ②酸化 ③口縁部のみ ④稍強 ⑤床面直上
206	壺	9.5	口縁部は大きく外反して聞く。 (外面調整) 口縁部ヨコナデ。胴部にヘラミガキ。 (内面調整) 口縁部ヨコナデ。一部にヘラミガキ。 (文様) 口縁部にL.Rの縦文施文。頸部にはL.R縦文を施文後ヘラ描き沈線を4条巡らせ、その下に波状文を1条巡らす。	①7.5YR5/4±黄 ②酸化 ③胴 上半部 ④軽度 ⑤床面直上
418	壺		頸部はやや太く、緩やかに屈曲する。 (外面調整) ハケメ。 (内面調整) ハケメの後ナデ。 (文様) 頸部にヘラ描き沈線を2条巡らせその間にヘラ描き沈線による波状文を描く。そして頂点を上にする波状部分に沈線を充填する。	①7.5YR5/4±黄 ②酸化 ③頸 部のみ ④稍強。白色軽物粒を含む ⑤二次焼成 ⑥埋め土内

番号	器 形	法 尺 器部 寸法 底径	器 形 の 特徴 外面・内面調査 文様の特徴	①色調 ②族式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
15	壺	(12, 0)	口縁部は頸部から緩やかに開く。 (外面調査) 口縁部ナデ。肩部にハケメ。 (内面調査) ナデ。一部にヘラミガキ。 (文様) 口唇部から口縁部にかけてLRの楕文施文。頸部にもLRの楕文を施文後ヘラ描き沈線2条で帯状文としている。その下にヘラ描き沈線によって山形文を施す部分に沈線を充填する。山形文は左回りに施文される。	①10YR Ns浅黄橙 ②酸化 ③口縁部ナデ ④精選。輝石を含む ⑤床面直上
325	壺	11, 6	口縁部は緩やかに開く。 (外面調査) 口縁部ヨコナデ。頸部周辺ヘラナデの後ヘラミガキ。 (内面調査) ヘラナデ。一部にヘラミガキ。 (文様) 頸部に纏いヘラによる沈線が2条巡る。	①7, 5YR Nsにぶい橙 ②酸化 ③1縁部のみ ④精選。白色鉱物粒を含む ⑤内面の荒れ跡著 ⑥床面直上
4	壺	11, 2	頸部は緩やかに屈曲し、口縁部は頸部で開く。 (外面調査) 口縁部ヨコナデ。頸部から肩部にかけてヘラミガキ。 (内面調査) 口縁部ヨコナデ。頸部ヘラナデ。 (文様) 口唇部にLRの楕文施文。頸部にLRの楕文を施文し、纏いヘラ描きの沈線を3条巡らし、2条の帯状文としている。さらにその下に2条沈線を巡らせ中に山形文を2段施し、山部分に沈線を充填する。	①7, 5YR Nsにぶい橙 ②酸化 ③肩上半部のみ ④精選。輝石を含む ⑤頸部内面の荒れ跡著 ⑥床面直上
13	壺	6, 9	やや下膨れで、肩部が張る。 (外面調査) ハケメの後ヘラミガキ。 (内面調査)	①10YR Ns浅黄橙 ②酸化 ③口縁部を欠失 ④精選。砂粒を含む ⑤器形の重みが大きい。また、器面の丸みが頗著 ⑥床面直上
117	壺	20, 3	頸部は緩やかに屈曲する。口縁部は大きく引き締めで立ち上がる受け口状である。 (外面調査) 口縁部ヨコナデ。頸部にハケメを残す。肩部はハケメの後タテ方向のヘラミガキ。 (内面調査) 1縁部ヨコナデ。肩部にハケメを残す。 (文様) 口唇部から口縁部にかけてLRの楕文施文。口縁部は楕文施文後ヘラ描き沈線による山形文を施す。頸部にはLR楕文を施文沈線を3条施し中に山形文を2段施す。	①10YR Nsにぶい黄橙 ②酸化 ③肩部を欠失 ④精選。砂粒を含む ⑤内面の荒れ跡著 ⑥床面直上
183	甕	20, 4	頸部はくの字に屈曲する。口縁部は短く、僅かに開いて端部で内湾する受け口状となる。 (外面調査) 口縁部ヨコナデ。肩部ハケメ。 (内面調査) 口縁部ヨコナデ。頸部から肩上半部ハケメの後ヘラミガキ。 (文様) 口唇部にLRの楕文施文。口縁部にヘラ描き沈線による波状文を施し、頸部には5本筋の帯状工具による等間隔で淮状文が施文される。肩部は頸部と同一工具による斜行直線による羽状文が施されている。	①GYR %橙 ②酸化 ③底部を欠失 ④精選。砂粒を含む ⑤肩下半部内面の荒れ跡著 ⑥床面直上
134	甕	7, 2	(外面調査) ハケメの後ヘラミガキ。 (内面調査) ハケメ。 (文様) 6本筋の帯状工具による羽状の斜行直線文。	①7, 5YR Nsにぶい橙 ②酸化 ③底部周辺のみ ④精選。砂粒を含む ⑤一部に赤色雜彩が残る。二次焼成か ⑥床面直上
27	壺	(46, 4) 15, 8 9, 8	肩部は球形で胴中央部が張る。頸部は緩やかに屈曲し、口縁部は僅かに開くが端部で内湾し、受け口状となる。 (外面調査) 口縁部ヨコナデ。肩部は不明。 (内面調査) 口縁部ヨコナデ。頸部はハケメを残す。肩部はハケメの後ヘラミガキ。 (文様) 口唇部から口縁部にかけてと頸部に付加条LR+LRの楕文を施す。頸部には楕文施文後ヘラ描き沈線を3条巡らす。さらに胴中央部にも2条の沈線を巡らせ、頸部と胴中央部との間に腹の沈線で5等分し互文に不規則な縱方向のヘラ描き沈線による波状文を充填する。	①10YR Nsにぶい黄橙 ②酸化 ③胴下半部を欠失 ④精選。白色鉱物粒を含む ⑤内面の荒れ跡著 ⑥床面直上
99	壺	9, 1	(外面調査) ヘラミガキ。底部周辺ユビオサニ。 (内面調査) ヘラナデか。	①7, 5YR Nsにぶい橙 ②酸化 ③底部のみ ④精選。砂粒を含む ⑤二次焼成か ⑥床面直上

遺物観察表

番号	器 形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴 外面・内面調整 文様の特徴	①色調 ②焼式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
154	壺	(10, 0)	頸部は緩やかに屈曲し、口縁部は僅かに内側して開き、受け口状となる。 (外面調整) 口縁部ヨコナギ。肩部から胴上半部ハケメの後ヘラミガキ。 (内面調整) 口縁部ヨコナギ。胴部ヘラマガキ。 (文様) 口縁部に彫いヘラ状工具の沈線による3単位の下向きの重半弧線文を施す。頸部から胴上半部にかけて4単位の捺文を施す。胴中央部にはR Lの羅文を施す。	①SYR %明赤褐 ②焼成 ③胴上半部のみ ④精選。砂粒を含む ⑤捺文内を交互に赤色塗彩 ⑥床面直上。
100	壺	(16, 1)	最大径を胴上半部に持つ。頸部は緩やかに屈曲し、口縁部は僅かに内側して受け口状となる。 (外面調整) 口縁部ヨコナギ。胴部ハケメの後ヘラミガキ。 (内面調整) 口縁部ヨコナギ一部にヘラミガキ。胴部ハケメの後ヘラミガキ。 (文様) 口縁部にLRの羅文施文。頸部にも本筋の棒状工具による等間隔止めの巻状文。胴部同一の棒状工具による羽状の斜行直線文が施される。	①7.5YR 5%にぼい黄橙 ②酸化 ③底部を欠失 ④精選 ⑤胴中央部から口縁部にかけて灰化物の付着 ⑥床面直上。
326	瓶	10.0 17.6 5.3	口縁部は底部から直線的に逆ハの字形に開く。底部には1孔を持つ。 (外面調整) 脇部はハケメの後ヘラミガキ。底部ヘラミガキ。 (内面調整) ハケメの後ヘラミガキ。	①10YR 5%にぼい黄橙 ②酸化 ③% ④精選。砂粒を含む ⑤口縁部附近の赤色顯著 ⑥床面直上
348	甕	31.5 15.2 6.5	頸部は中央に最大径を持つ。頸部は緩やかに屈曲し、口縁部は直線的に緩やかに開く。口縁部には粘土の輪積み痕を外面向に残す。 (外面調整) 頚部ヘラミガキ。胴下部ヘラミガキ。 (内面調整) ヘラミガキ。 (文様) 口唇部から口縁部にかけてLRの羅文施文。頸部を無文帯として胴上半部にLRの羅文を施す。	①10YR 5%にぼい黄橙 ②酸化 ③口縁部一部欠失 ④精選。砂粒を含む ⑤胴中央部に灰化物の付着 ⑥床面直上。

21号住居 出土遺物観察表 (図7)

番号	器 形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴 外面・内面調整 文様の特徴	①色調 ②焼式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
一括	小 壺 壱	(11, 2)	口縁部は短く開く。頸部は緩やかに屈曲する。 (外面調整) 口縁部ヨコナギ。胴部ヘラミガキ。 (内面調整) ヘラミガキ。 (文様) 口唇部にLRの羅文施文。頸部に4本筋の棒状工具による等間隔止めの巻状文。胴部に同-1目による横位の波状文を施す。	①7.5YR 5%にぼい黄橙 ②酸化・良好 ③口縁部% ④精選。輝石を含む ⑤内面胴部に思斑 ⑥埋め土内
5	壺		頸部は緩やかに屈曲する。 (外面調整) 肩部にハケメの後ヘラミガキ。 (内面調整) ハケメの後ヘラミガキ。 (文様) 頚部に棒状工具による横位の波状文。その上に棒状工具による等間隔止めの沈線文を3~4段追加する。	①7.5YR % 残 ②酸化 ③頸部% ④精選。砂粒を含む ⑤埋め土内
11	甕		口縁部は緩やかに内側して立ち上がる。口縁部は頸部から鋭角に屈曲し、開く。 (外面調整) ハケメの後ヘラミガキ。 (内面調整) 頚部ヘラミガキ。赤色塗彩。	①10YR 5%にぼい黄橙 ②酸化 ③% ④精選 ⑤内面赤色塗彩 ⑥床面直上

22号住居 出土遺物観察表 (図17、P.L.29~22)

番号	器 形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴 外面・内面調整 文様の特徴	①色調 ②焼式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
6	壺		頸部は緩やかに屈曲する。 (外面調整) 肩部にヘラミガキ。 (内面調整) 脱落。 (文様) 頚部にヘラ状工具による4段の浅い沈線と同一工具による3段の押し引き文を上下に交互に施文する。その下にヘラ彫きの沈線による山形文を描き、各部分に沈線を充填する。	①7.5YR % 残 ②酸化 ③頸部% ④精選。白色新物粒を含む ⑤床面直上

番号	器形	法 量 器高 口径 底径	器形の特徴 外面・内面調整 文様の特徴	①色調 ②焼式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
12	小型壺	7.8 9.7 4.3	肩部はやや上下に滑れた球形。頸部は腹やかに屈曲し、口縁部は外反して開く。 口縁部は折り返し口縫。 (外面調整) ハケヌの後全面ヘラミガキ。 (内面調整) ナヂの後ヘラミガキ。	①7.5YR N 5/6 ②酸化 ③良好 ④口縁部の一部を欠失 ⑤粗造 ⑥側面外面に黒斑 ⑦埋め土 上層
2	壺	15.0	頸部はくの字に屈曲する。口縁部は直線的に開き頸部で立ち上がり、受け口状となる。 (外面調整) 口縁部ヨコナヂ。頸部から胴部にかけてヘラミガキ。 (内面調整) 口縁部ヨコナヂ。胴部ヘラナデの後ヘラミガキ。 (文様) 口唇部にLRの範文施文。頸部にヘラ描きの浅い沈線を3条巡らし、その間に同一工具による距離文を2段描く。	①10YR N 4/6 ②酸化 ③口縁部のみ ④精造。白色磁物粒を含む ⑤口縁部内面の荒れ頭着 ⑥床面直上
27	壺	37.4 16.3 9.3	頸部は球形で、中少凸が張る。頸部は腹やかに屈曲する。口縁部はやや内湾ぎみ開き頸部で立ち上がり受け口状となる。 (外面調整) 口縁部ヨコナヂ。頸部から胴上半部にかけてヘラミガキ。胴下半部はハケヌの後ヘラミガキ。 (内面調整) 口縁部ヨコナヂ。 (文様) 口唇部から口縁部にかけてLRの範文施文。頸部もLRの範文施文後へラ描き沈線を1条巡らせその間に同一工具のヘラ描き沈線による崩陥文を描く。胴中央部にヘラ描き沈線を1条巡らせ、その下に9部位から成る逆張文を描く。	①7.5YR N 4/6 ②酸化 ③口縁部の一部を欠失 ④精造。白色磁物粒を含む ⑤内面の荒れ頭着 ⑥床面直上
18	台付小壺		頸部は直線的にハの字に開く。 (外面調整) ハケヌの後ヘラナデ。 (内面調整) ヘラナデ。	①7.5YR N 6 ②酸化 ③脚台のみ ④砂器粒を含む ⑤埋め土上層

23号住居 出土遺物観察表(図23、P L39)

番号	器形	法 量 器高 口径 底径	器形の特徴 外面・内面調整 文様の特徴	①色調 ②焼式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
10	碗	(15.2)	口縁部は内湾して開く。 (外面調整) ヘラミガキ。赤色塗彩。 (内面調整) ヘラミガキ。赤色塗彩。	①10YR N 6 ②酸化 ③N ④精造砂粒を含む ⑤赤色塗彩 ⑥床面直上
19	土製品 (洗泥土器)		馬蹄は横円形で深い。把手部分は断面半円形である。全長(11.9)・高さ3.5・底部長径6.6・短径5.2・把手幅(2.9)・把手厚(1.1)cm。 (内・外面調整) ヘラミガキ。	①10YR N 5/6 ②酸化 ③ほつ光形 ④精造 ⑤床面直上
59	壺	(8.1)	頸部中央が大きく張り出す。 (外面調整) ヘラナデの後ヘラミガキ。 (内面調整) ヘラナデか。	①10YR N 4/6 ②酸化 ③ 底部N ④精造。白色磁物粒を含む ⑤埋め土内

25号住居 出土遺物観察表(図14)

番号	器形	法 量 器高 口径 底径	器形の特徴 外面・内面調整 文様の特徴	①色調 ②焼式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
4	壺		頸部は緩やかに屈曲する。 (外面調整) ハケヌの後ヘラミガキ。 (内面調整) ハケヌの後ヘラミガキ。 (文様) 頸部にRLの範文施文。その上にヘラ描き沈線を3条巡らせ、その間にヘラ描きの山形文を2段巡らせる。	①5YR N 6 ②酸化 ③頸部 N ④砂粒を含む ⑤床面直上
一括	壺	(11.0)	口縁部は直線的に開く。 (外面調整) 描かいハケヌの後ヘラミガキ。 (内面調整) 口縁部ヨコナヂ。 (文様) 口唇部にRLの範文施文。	①7.5YR N 6 ②酸化 ③口 縁部N ④精造 ⑤床面直上

遺物観察表

29号住居 出土遺物観察表 (図19、P L39)

番号	器 形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴 外面・内面調整 文様の特徴	①色調 ②焼式 ③残存 ④歯土 ⑤備考 ⑥出土状態
8	壺	14.7	口縁部は頸部から緩やかに開く。頸部はやや太い。 (外画調整) ハケメの後ナデ。 (内画調整) ナデ。 (文様) 口唇部にL Rの縦文施文。頸部にL Rの縦文施文後、ヘラ描き沈線を4条巡らす。	①10YR 4/6に近い黄橙 ②酸化 ③口縁部のみ ④稍退。輝石を含む ⑥床面上
13	壺	15.1	口縁部は折り返し口縁。頸部から直線的に開く。 (外画調整) 口縁部ヨコナデ。頸部ヘラミガキ。 (内画調整) 口縁部ナデ。頸部ヘラミガキ。 (文様) 口縫部分引返し部にR Lの縦文施文。蓋部にR Lの縦文を施文後細いヘラ描き沈線による山形文を描き、山の部分にのみ押文を残し、他の部分は擦り消す。	①2.5YR 6/8に近い白 ②酸化 ③口 縁部のみ ④稍退。白色軽物質を含む ⑥床面上
12	甕	31.0	大底の広口の甕である。胴部はやや張る。頸部は繰まらず緩やかに屈曲し、口縁部は内凸ぎみに開く。 (外画調整) 脇下半部ヘラナデ。 (内画調整) 口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。 (文様) 口唇部に細いヘラ状工具による刻みが施される。頸部には3本筋の指状工具による等間隔止の縦状文が巡る。胴上半部には済東のL R縦文が施文されている。	①7.5YR 6/8に近い白 ②酸化 ③口 縁部のみ ④砂粒を含む ⑥上層
23	瓶		頸部は緩やかに屈曲する。 (外画調整) 脇部はヘラナデの後ヘラミガキ。 (内画調整) ヘラミガキ。 (文様) 頸部にL Rの縦文施文。その上にヘラ描き沈線を2条巡らせ帯状文としている。	①5YR 6/8に近い白 ②酸化 ③頸部 のみ ④稍退。砂粒を含む ⑥床面上

30号住居 出土遺物観察表 (図20、P L39)

番号	器 形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴 外面・内面調整 文様の特徴	①色調 ②焼式 ③残存 ④歯土 ⑤備考 ⑥出土状態
4	壺	(19.6)	頸部は球形で、頸部はくの字に屈曲する。口縁部は直線的に開き、端部で僅かに内湾する。 (外画調整) 脇下半部ヘラナデ。 (内画調整) 口縁部ナデ。胴部ナデ。一部にヘラミガキ。 (文様) 口唇部にL Rの縦文施文。口縁部に斜め方向の粗いハケメ。頸部に5本筋の指状工具による等間隔止の縦状文が巡る。胴上部にはL Rの縦文を施した後ヘラ描き沈線2条で区画出し、帯状文化している。	①7.5YR 6/8に近い白 ②酸化 ③少 ④砂粒を含む ⑤口縁部に炭化物の付着 ⑥床面上
47	壺	16.4	頸部は球形で、頸部は緩やかに屈曲する。口縁部は僅かに外反して開く。 (外画調整) 口縁部ナデ。脇下半部ヘラミガキ。 (内画調整) 口縁部ナデ。胴部ヘラナデ。一部にヘラミガキ。 (文様) 口唇部にL Rの縦文施文。頸部には3本筋の指状工具による等間隔止の縦状文が巡る。胴上部にはL Rの縦文を施した後ヘラ描き沈線2条で区画出し、帯状文化している。	①10YR 4/6に近い黄橙 ②酸化 ③少 ④砂粒を含む ⑤胴上部 に炭化物の付着 ⑥埋め土内
88	甕	7.0	胴部は僅かに上部に膨らみを持つ。頸部は緩やかに屈曲し口縁部は僅かに開く。 (外画調整) 脇下半部ヘラナデ。一部にヘラミガキ。脇下半部ヘラケツリ。 (内画調整) 頸部ヘラナデ。頸部にヘラミガキ。 (文様) 頸部にR Rの縦文を施す。	①10YR 4/6に近い黄橙 ②酸化 ③口縁部を欠く ④砂粒を含む ⑤底部は木型底 ⑥床面上
13	壺	(16.4)	口縁部は緩やかに外反する。 (外画調整) 口縁部ヨコナデ。 (内画調整) ナデ。 (文様) 口唇部にRの縦文施文。頸部にもRの縦文施文後ヘラ描き沈線を3~4条巡らせる。	①7.5YR 6/8に近い白 ②酸化 ③口縁部外 ④稍退 ⑤埋め土内

番号	器 形	法 異 器高 口径 底径	器形の特徴 外面・内面調整 文様の特徴	①色調 ②焼式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
73	壺	(11.5)	口縁部は僅かに外反して開く。 (外面調整) ヘラナデ。 (内面調整) ヘラミガキ。一部にヘラミガキ。 (文様) 口唇部に細かなLRの圓文施文。頸部にも同一の原体の鈍文を施し、ヘラ描き沈線2条で帯状文化している。	①2.5YR 5/6にぶい黄橙 ②酸化 ③口縁部のみ ④精選。白色鉱物粒を多く含む ⑤内面に黒斑。頸部内面の荒れ顯著 ⑥床面直上
50	壺	(18.4)	口縁部は折り返し口縁で、大きく開き肩部でわずかに立ち上がる。 (外面調整) ヘラナデ。一部にヘラミガキ。 (内面調整) ヘラミガキ。 (文様) 口唇部と口縁の折り返し部にLRの圓文施文。	①7.5YR 5/6 橙 ②酸化 ③口縁部のみ ④精選 ⑤内面の荒れ顯著 ⑥床面直上

32号住居 出土遺物観察表 (図21・22、PL41)

番号	器 形	法 異 器高 口径 底径	器形の特徴 外面・内面調整 文様の特徴	①色調 ②焼式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
4	壺	7.0	肩部は底盤から直線的に開く。 (外面調整) ヘラミガキ。 (内面調整) ヘラミガキ。	①10YR 5/6にぶい黄橙 ②酸化 ③肩下部のみ ④精選。砂粒を含む ⑤肩部に残痕有り ⑥床面直上
2	壺		頸部は緩やかに屈曲する。口縁部は直線的に開き、片口部をつまみ出す。 (外面調整) ハケメの後ヘラミガキ。 (内面調整) ヘラミガキ。 (文様) 頸部にLRの圓文施文。その上にヘラ描き沈線4条巡らす。	①SYR % 橙 ②酸化 ③肩上半部のみ ④砂粒を含む ⑤内面の荒れ顯著 ⑥床面や土上
20	片 口 壺	8.1	頸部は緩やかに屈曲する。口縁部は直線的に開き、片口部をつまみ出す。 (外面調整) 片口部にRLの圓文を施文。頸部にもRLの圓文を施文し、ヘラ描き沈線2条巡らせ帯状文様化している。鈍文は一部が磨り消されている。	①7.5YR % 橙 ②酸化 ③口縁部のみ ④精選 ⑤床面直上
21	壺	(9.2)	肩部は底盤から直線的に開く。 (外面調整) ヘラミガキ。 (内面調整) ヘラミガキ。	①7.5YR % 橙 ②酸化 ③底盤のみ ④精選。黒石を含む ⑤内面の荒れ顯著 ⑥床面直上
一括	筋 脊 車		表面にヘラ描き沈線による放射状の文様を描く。また、側面の中央にもヘラ描き沈線を一周させる。直径(4.6)7%、厚さ1.37%、重さは不明。	
27	筋 脊 車		全面に丁寧なヘラミガキ。側面にLRの圓文を施文する。中央に成前の片面からの穿孔による缺穴を持つ。直径5.57%、厚さ1.67%、重さ54.67gである。	
一括	高 环	(15.0) (22.4) (12.1)	環部の口縁は緩やかに外反する。肩部はハの字に開き、透孔を持つ。 (外面調整) ハケメの後ヘラミガキ。 (内面調整) 穿孔ヘラミガキ。肩部はハケメと一緒にヘラミガキ。	①10YR 5/6にぶい黄橙 ②酸化 ③少 ④精選 ⑤上層
64	壺	(10.1)	肩部中央がやや平底の大型の壺である。 (外面調整) 突いいハケメの後ヘラミガキ。 (内面調整) 突いいハケメ。一部にヘラミガキ。	①10YR 5/6にぶい黄橙 ②酸化 ③底部と肩部の一部のみ ④精選。白色鉱物粒を多く含む ⑤内面の荒れ顯著 ⑥肩部は7号古墳周辺ないから出土
5	壺	6.7	肩部は直線的に開く。 (外面調整) ヘラミガキ。 (内面調整) ヘラミガキ。	①10YR 5/6にぶい黄橙 ②酸化 ③底部のみ ④精選。白色鉱物粒を含む ⑤床面直上
30	壺		肩部から頸部は緩やかに屈曲する。 (外面調整) ヘラミガキ。 (内面調整) ヘラミガキ。 (文様) 肩部にLRの圓文施文。その上に4条のヘラ描き沈線を巡らせ2段の帶状文としている。	①10YR 5/6にぶい黄橙 ②酸化 ③肩部のみ ④砂粒及び白色鉱物粒を含む ⑤床面直上

遺物観察表

33号住居 出土遺物観察表(図24、PL41)

番号	器 形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴 外面・内面調整 文様の特徴	①色調 ②模式 ③残存 ④胎土 ⑤焼痕 ⑥出土状態
20	壺	(17.6)	口縁部は緩やかに開き、端部で内傾する受けL状となる。 (外面調整) ヘラミガキ。 (内面調整) ヘラミガキ。 (文様) 口唇部と口縁上端部にL.Rの網文施文。	①10YR5.5V黄橙 ②酸化 ③口縁部のみ ④精選。砂粒を含む ⑤頸部に内面穿孔による補修孔あり ⑥床面直上
34	壺		胴部中央がやや張る。 (外面調整) 脇口部及び下半部にヘラミガキ。胴中央部はヘラナデ。 (内面調整) ヘラミガキ。 (文様) 脇部にL.Rの網文施文。	①10YR5.5V黄橙 ②酸化 ③脇部のみ ④白色粘土粒、砂粒を含む ⑥床面直上
88	壺		胴部中央が張る。 (外面調整) ヘラミガキ。 (内面調整) ヘラミガキ。 (文様) 脇部から中央部にかけてL.Rの網文施文。中央部を削り消し2段の帯状文としている。そして削り消した部分には2本筋の筋状工具による波状文を横位に施文し、下の帯状文にはヘラ編き沈線による3段の連弧文を施す。	①7.5YR4.5Vにぼい粒 ②酸化 ③腰部外 ④精選。砂粒を含む ⑥P ₂ 内出土
一括	紡錘車		中央部がやや厚くなる。側面には連続した細い爪形文が施文される。全面にヘラミガキがあられる。直径5.2cm、厚さ2.1cm、重さ(44)gである。	⑥埋め土内

35号住居 出土遺物観察表(図25)

番号	器 形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴	外 面 調 整	内 面 調 整	①色調 ②模式 ③残存 ④胎土 ⑤焼痕 ⑥出土状態
3	椀	6.8	胴部は底部から大きく聞く。	ヘラミガキ		①10YR5.5Vにぼい黄橙 ②酸化 ③底部のみ ④砂礫粒を含む ⑤内外面赤色堆形 ⑥埋め土
一括	椀	(21.8)	口縁部は大きく外反する。	口縁部ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラミガキ。	①10YR5.5Vにぼい黄橙 ②酸化 ③口縁部の一部のみ ④精選 ⑤一部に粗耕 ⑥埋め土

28号住居 出土遺物観察表(図27、PL30・40)

番号	器 形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴 外面・内面調整 文様の特徴	①色調 ②模式 ③残存 ④胎土 ⑤焼痕 ⑥出土状態
1	壺	28.8 14.8 7.2	胴部は球形で、下半部は直線的に急に底部に向かってすぼむ。口縁部は頸部から直立し外反して聞く。 (外面調整) 口縁部ヨコナデ。胴壁ハケメの後ヘラミガキ。胴下半部はヘラナデか。 (内面調整) 口縁部ヨコナデ。 (文様) 頚部に9本筋の筋状工具による施文を3~4段施し、その上を同一工具による2本~1筋の丁字形4单位で区切る。	①7.5YR4.5V 橙 ②酸化 ③完全 ④精選。砂礫粒を含む ⑤焼成時の歪み有り ⑥床面直上
7	壺	25.8 17.9 6.4	胴部は球形。頸部はくの字に膨らむ。口縁部は外反ぎみ聞く。 (外面調整) 口縁部ヨコナデ。頸部から胴上半部ハケメ。胴下半部はハケメの後ヘラナデか。 (内面調整) 口縁部ハケメ。胴部ヘラナデか。	①2.5YR4.5V明赤褐 ②酸化 ③少 ④精選。砂礫粒を含む ⑤焼成時の歪み有り ⑥床面直上
2	壺		胴部はやや下膨れの球形である。 (外面調整) 脇部ヘラミガキ。 (内面調整) 不明。	①7.5YR4.5V 橙 ②酸化 ③口縁部を失う ④精選。砂礫粒を含む ⑤胴下部外面に黒斑 ⑥床面直上

番号	器形	法 縦 横 口徑 底径	器形の特徴 外面・内面調整 文様の特徴	①色調 ②施式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
19	片 口	14.9 11.8 5.8	脚部はやや下彎の球形で、口縁部は直立する。片口部はつまみ出す。 (外面調整) 口縁部ヨコナデ。底部ハケメ。脚部ハケメの後ヘラミガキ。 (内面調整) 口縁部ハケメの後ヨコナデ。脚部ハケメ。	①5YR系にぶい黄 ②施化 ③完形 ④白色底物粒を含む ⑤二次焼成か ⑥床面直上
15	瓶	13.4 15.6 5	脚部は球形で、口縁部は短く、底部から大きく外反して開く。 (外面調整) 口縁部ヨコナデ。脚部ハケメの後ヘラナダ。 (内面調整) 口縁部ヨコナデ。底部ヘナダ。	①2.5YR系明赤褐 ②施化 ③完形 ④砂礫粒を含む ⑤二次 焼成か ⑥床面直上
4	台付 き 瓢		脚部は珠形。颈部はくの字に屈曲する。 (外面調整) 全面にハケメ。 (内面調整) 頸下部にハケメ。脚中央部にナデ。	①10YR系 ②施化 ③脚部の み ④砂礫粒を含む ⑤二次焼 成 ⑥床面直上
51	小型 器 台	8.5 7.7 (10.4)	脚部は直線的にハの字に開く。器受部はくの字に扁曲し直線的に開く。脚部には 3孔を持つ。 (外面調整) 口暫部ヨコナデ。脚部はヘラミガキ。 (内面調整) ヘラミガキか。	①10YR系にぶい黄 ②施化 ③脚部部分 ④精選 ⑤黒斑 ⑥床面直上
3	小 型 器 台	8.3 9.9 10.3	器受け部がやや大きめ端部で僅かに立ち上がる。脚部は脚部で僅かに開く。脚部には 3孔を持つ。 (外面調整) ヘラミガキ。 (内面調整) ヘラナダ。	①2.5YR系浅黄 ②施化 ③完形 ④精選。砂粒を含む ⑥ 床面直上
43	蓋	8.7	脚部は擴張がりとなる。つまみ部は僅かに外反する。つまみ部周辺5.6% (外面調整) ヘラナダ。 (内面調整) ヘラナダ。一部にヘラミガキか。	①10YR系にぶい黄 ②施化 ③完形 ④精選。砂礫粒を含む ⑤黒斑 ⑥床面直上

34号住居 出土遺物観察表(図37、P L44)

番号	器 形	法 量 縦 横 口徑 底径	器 形 の 特 徴	外 面 調 整	内 面 調 整	①色調 ②施式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
3	壺	21.8	頸部はくの字に屈曲し、口 縁部は大きく外反して開 く。	口縁端部ヨコナデ。口縁 部ヘラナダ。脚部ハケメ の後一部にヘラナダ。	口縁端部ヨコナデ。口縁 部ヘラナダ。器上部にハ ケメ、下部はヘラナダ。	①7.5YR系浅黄 ②施化 ③口縁部のみ ④砂礫粒を含む ⑤埋め土内
一括	高 环	(7.1)		脚部ヨコナデ。底部ヘ ラナダ。	ヘラナダ。	①7.5YR系浅黄 ②施化 ③脚部のみ ④精選 ⑤内外面に 黒斑 ⑥埋め土内
一括	高 环	(13.6)		縱方向のヘラミガキ。	ハケメの後ヨコナデ。	①7.5YR系浅黄 ②施化 ③脚部のみ ④精選。砂粒を含 む ⑤埋め土内
1	椀	6.1 10.6 3.0	底部は小さく、脚部はやや 内凹する。口縁部は短く外 傾して開く。	口縁部ヨコナデ。脚部ハ ケメ。	口縁部ヨコナデ。脚部ヘ ラナダ、一部にヘラミガ キ。	①7.5YR系にぶい黄 ②施化 ③完形 ④精選 ⑤外面に黒斑 ⑥埋め土内

2号方形周溝墓 出土遺物観察表(図29、P L42)

番号	器 形	法 量 縦 横 口徑 底径	器 形 の 特 徴	外 面 調 整	内 面 調 整	①色調 ②施式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
36	盞	5.4	脚部は球形で、底部は脚部 から突出する。	ヘラミガキ。	ハケメ。	①7.5YR系 ②施化 ③完 形 ④精選 ⑤外面に黒斑 ⑥周 縁底面
44	壺	12.7	脚部は球形で脚部はくの字 に屈曲し口縁部に至る。口 縁部は折り返し口縁である。	口縁部ヨコナデ。脚部横 方向のハケメ。脚部ヘラ ナダ。	口縁部ヨコナデ。脚部に ハケメを残す。脚部ヘラ ナダ。	①10YR系浅黄 ②施化 ③ 口縁部のみ ④精選。砂礫粒を 含む ⑤周縁底面

遺物観察表

番号	器形	法量 器高 口徑 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調 ②板式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
48	壺	21.1	胴部は球形で頸部は短く、 胴部から直立する。口縁部 は2段口縁で大きく開く。口 縁部外縁の種は不明瞭であ る。	ヘラミガキ。	口縁部から頸部にかけて ヘラミガキ。胴部ヘラナ デ。	①7.5YR 4/6 標 ②酸化 ③胴上半部のみ ④精選 ⑤外面赤 色塗彩 ⑥周縁底面
32	壺	(19.0)	單純口縁。縫部はやや肥厚 する。頸部から大きく外反 して開く。胴部は球形。	ヘラミガキ。	口縁部ヘラミガキ。胴部 ハケメの後ヘラミガキ。	①10YR 5/6 浅黄橙 ②酸化 ③ 胴上半部のみ ④精選 ⑤内面 の荒れ跡 ⑥周縁底面
一括	壺	(12.2)	口縁部は折り返し口縁である。 胴部・頸部とともに大き な屈曲を持たない。	口縁部から頸部にかけて 不規則な横方向の擦き 波状文。	ヘラミガキ。	①10YR 4/6 にい黄橙 ②酸化 ③4% ④砂粒を含む ⑥周縁埋 め土

4号方形周溝墓 出土遺物観察表(図31、P L42)

番号	器形	法量 器高 口徑 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調 ②板式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
4	大型高環	30.2	环部はやや内湾ぎみに大き く開く。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘ ラミガキ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘ ラミガキ。	①2.5YR 4/6 標 ②酸化 ③环 部のみ ④精選。白色透明粘物 粒子を含む ⑤赤色影 ⑥周 縁底面
一括	壺	(20.1)	折り返し口縁。大きく外反 する。	口縁部ヨコナデ。頸部ヘ ラナデ。	ヘラミガキ。	①7.5YR 5/6 浅黄橙 ②酸化 ③口縁部 ④砂粒を含む ⑤赤色塗彩 ⑥周縁内下唇
6	壺	16.1	折り返し口縁。口縁部は級 やかに開く。	口縁部ユビオサエの後ヨ コナデ。頸部ヘラミガキ。	ヘラミガキ。	①7.5YR 4/6 浅黄橙 ②酸化 ③口縁部のみ ④精選。白色透 明粘物を含む ⑥周縁内下唇
6	壺	12.0 9.5	胴部は球形で、口縁部は直 立し頸部で開く。底部は丸 底。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘ ラナデ。一部にヘラミガ キ。	口縁部ヨコナデ。	①10YR 5/6 浅黄橙 ②酸化 ③ 完形 ④精選。白色透明粘物粒 子を含む ⑥周縁内下唇

5号方形周溝墓 出土遺物観察表(図32、P L42)

番号	器形	法量 器高 口徑 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調 ②板式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
2	小型高環	12.0	环部は楕形で口縁部は内湾 する。胴柱部は握部が大き く開き、3孔を持つ。	口縁部ヨコナデ。胴部か ら胴柱部にかけてヘラミ ガキ。	环部ヘラミガキ。胴柱部 ナデ。	①10YR 5/6 浅黄橙 ②酸化 ③ 握部を欠失 ④精選 ⑥周縁底 面
1	壺	31.9 14.7 8.3	胴部は球形で、頸部は直立 する。口縁部は環部で大き く開く。	口縁部ヨコナデ。頸部ヘ ラミガキ。一部にハケメ を残す。胴部ヘラミガキ。	口縁部ヘラミガキ。肩上 半部ヘラナデ。下半部ハ ケメ。	①7.5YR 4/6 浅黄橙 ②酸化 ③完形 ④白色透明粘物粒を含 む ⑤二次焼成か ⑥周縁底面

5号住居 出土遺物観察表(図31・35、P L43)

番号	器形	法量 器高 口徑 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調 ②板式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
45	高 环	(20.4)	口縁部は直線的に大きく開 く。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘ ラミガキ。	口縁部ヨコナデの後暗文 状のヘラミガキ。	①7.5YR 5/6 にい黄 ②酸化 ③环部 ④精選 ⑥床面上

番号	器 形	法 構 製高 口往 底性	器 形 の 特 発	外 面 製 繊	内 面 製 繊	①色調 ②焼式 ③残存 ④粒土 ⑤焼退 ⑥出土状態
75	高 壺	(19.0)	口縁部は僅かに外反する。	口縁部ヨコナデ。肩部へラケズリ。	口縁部ヨコナデ。肩部へラミガキ。	①7.5YR 4V にぶい橙 ②酸化 ③坏死部を欠損 ④砂礫を含む ⑤床面直上
155	鉢	(13.4)	口縁部は内凹し、肥厚する。	ハケメ。	口縁部ヨコナデ。指痕丘嶺を残す。肩部ハケメ。	①7.5YR 4V にぶい橙 ②酸化 ③光 ④稍退。砂礫を含む ⑤床面直上
87	小 型 壺	(11.2)	肩部は球形。頂部はくの字に屈曲し、口縁部は外傾し、僅かに肥厚する。	口縁部ヨコナデ。肩部ナデ。	口縁部ヨコナデ。肩部へラナダ。	①2.5YR 4V 橙 ②酸化 ③光 ④砂礫を含む ⑤床面直上
3	壺	9.3 8.5 5.5	底盤はやや大きめの平底。肩部はやや肩部が張る。肩中央部に2個の注口を持つ。頂部はくの字に屈曲し、口縁部は直線的に開く。	口縁部ヨコナデ。肩部ミガキか。	口縁部ヨコナデ。肩部ミガキか。	①2.5YR 4V 橙 ②酸化 ③光 ④砂礫を含む ⑤床面直上
170	壺	16.2	肩部は球形。頂部はくの字に屈曲し、口縁部は外傾する。	口縁部ヨコナデ。肩部ハケメの後ナダ。	口縁部ヨコナデ。肩部へラナダ。	①5YR 4V 橙 ②酸化 ③肩下半部を欠損 ④砂礫を含む ⑤肩下部の器身の荒れ跡者 ⑥床面直上
10	壺	8.5 10.1 2.6	肩部は幅偏でやや肩が張る。頂部はくの字に屈曲し、口縁部直線的に開く。	口縁部ヨコナデ。肩部へラミガキか。頂部にハケメを残す。	口縁部ヨコナデ。肩部へラナダ。	①2.5YR 4V 橙 ②酸化 ③光 ④稍退。砂礫を含む ⑤床面に黒斑 ⑥床面直上
7	壺	11.0 9.1 2.8	肩部は下彎の球形。底盤は小さな平底。頂部はくの字に屈曲し、口縁部直線的に開く。	口縁部底方向のナデの後ヨコナデ。肩部ナダ。	口縁部ヨコナデ。	①2.5YR 4V 橙 ②酸化 ③光 ④稍退 ⑤肩下部に黒斑 ⑥床面直上
8	壺	9.3 10.4	肩部は上下につぶれた球形。頂部はくの字に屈曲し、口縁部は僅かに内湾ぎみに開く。	口縁部ヨコナデ。肩上半部ハケメ、下半部へラケズリか。	口縁部ハケメ。	①2.5YR 4V 橙 ②酸化 ③光 ④稍退。砂礫を含む ⑤肩下半部に黒斑 ⑥床面直上
4	壺	10.3 10.0 3.65	底盤の小さな上げ伏状の平底。肩部はそろばん玉状である。頂部はくの字に屈曲し、口縁部は直線的に開く。	口縁部ヨコナデ。肩上部へラナダ。下平部はへラケズリの後ハラミガキ。	口縁部ヨコナデ。肩部へラナダ。	①2.5YR 4V 橙 ②酸化 ③光 ④稍退 ⑤口縁部に黒斑 ⑥床面直上
9	壺	8.9 9.5	肩部は上下につぶれた球形。頂部はくの字に屈曲し、口縁部は直線的に開く。	口縁部ヨコナデ。肩部へラナダ。	口縁部ヨコナデ。肩部ナダ。	①2.5YR 4V 橙 ②酸化 ③光 ④稍退 ⑤床面直上
1	壺	8.2 8.6 4.5	底盤はやや上げ伏状の平底。肩部はそろばん玉状である。頂部はくの字に屈曲し、口縁部は直線的に開く。	口縁部ヨコナデ。肩部ナダ。	口縁部ヨコナデ。肩部へラナダ。	①7.5YR 4V 橙 ②酸化 ③光 ④稍退。白色粘土粒を含む ⑤床面直上
5	壺	10.8 9.8 2.8	底盤は小さな平底。肩部は球形で、頂部はくの字に屈曲する。口縁部は直線的に開く。	口縁部ヨコナデ。肩部へラナダ。下半部はへラケズリ。	口縁部ヨコナデ。	①10YR 4V にぶい黄橙 ②酸化 ③光 ④稍退。砂礫を含む ⑥床面直上
6	壺	7.3 7.4 2.8	底盤は小さな上げ伏状の平底。肩部はそろばん玉状で、頂部はくの字に屈曲する。口縁部は直線的に開く。	口縁部ヨコナデ。肩部へラナダ。下半部へラケズリの後ハラミガキか。	口縁部ヨコナデ。	①2.5YR 4V にぶい赤褐 ②酸化 ③光 ④稍退 ⑤肩下半部に黒斑 ⑥床面直上
171	高 壺	14.5	肩柱部は下部がやや膨らむ。瓶部はラッパ状に大きく開く。	肩柱部はへラナダの後ミガキ。瓶部はヨコナデ。	瓶部ヨコナデ。綻り痕を残す。	①2.5YR 4V 橙 ②酸化 ③环 部を欠失 ④稍退。砂礫を含む ⑥床面直上

遺物観察表

番号	器形	汎量 測定 口縁 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調 ②底式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥底土状態
33	小型甕	11.0 11.4	胴部は球形で、底部は平底状の丸底。頭部はくの字に屈曲し、口縁部は内湾ぎみに外傾する。	口縁部ヨコナダ。胴部ナダ。	口縁部ヨコナダ。胴部ナダ。	①5YR赤に近い赤褐色 ②酸化 ③残 ④粘土 ⑤胴内面の器皿の荒れ跡著 ⑥床面直上
2	高 环	16.9 19.2 14.7	环部は下部に棱を持ち、口縁部は外反ぎみに大きく開く。脚柱部は胴部に向かって緩やかに開き、頭部でラッパ状に閉む。	环部 口縁部ヨコナダ。胴部ヘラナダ、一部にヘラミガキ。 脚柱部 縦方向のヘラナダ、底部ヨコナダ。	环部 ヨコナダ。 脚柱部 ヨコナダ。絞り痕を残す。	①5YR灰褐色 ②酸化 ③完形 ④稍進。砂礫を含む ⑤脚柱部内面に布の荒れ跡著 ⑥床面直上
172	甕	19.0	胴部は球形で、頭部は短く、頭部から外傾して開く。	口縁部ヨコナダ。胴部ナダ。下部へラケズリ。	口縁部ヨコナダ。胴部ヘラナダ。	①5YR尾根 ②酸化 ③残 ④砂粒を多く含む ⑤軒下部外画の荒れ跡著 ⑥床面直上
132	甕	18.9	胴部は球形で、頭部はくの字に屈曲する。口縁部は外傾し、僅かに中央部が肥厚する。	口縁部ヨコナダ。胴部ナダ。一部にハケメを残す。	口縁部ヨコナダ。胴部ヘラナダ、一部にミガキか。	①7.5YR灰に近い灰 ②酸化 ③残 ④砂粒・白色鉱物粒を多く含む ⑤床面直上

8号住居 出土遺物觀察表(図31・36、PL44)

番号	器形	汎量 測定 口縁 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調 ②底式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥底土状態
1	甕	22.8 17.7 6.4	胴部は球形で、底部はやや突出する。頭部は緩やかに屈曲し、口縁部は外反する。	口縁部ヨコナダ。頭部から軒中央部にかけて瓶方式のヘラナダ。胴部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナダ。胴部ナダ。	①5YR灰褐色 ②酸化 ③完形 ④砂粒を多く含む ⑤軒中央部に灰化物の付着が見られる ⑥床面直上
2	高 环	19.4 21.8 (14.9)	环部は深く、下部に棱を持つ。口縁部は直線的に大きく開く。脚部は細く縦まり、頭部でラッパ状に閉む。	环部はハケメの後ヨコナダ。更にヘラミガキ。 脚柱部はヘラミガキ、頭部はヘラナダ。	环部は不規則な暗文状のヘラミガキ。脚柱部、頭部はヘラナダ。	①2.5YR灰に近い赤褐色 ②酸化 ③残 ④稍進。砂礫を含む ⑤床面直上
3	甕	4.5	胴部は上下に沿ったそろばん風形状で、底部はやや上げ底状の平底。	胴部にヘラミガキか。	胴部ナダ。	①2.5YR灰褐色 ②酸化 ③口縁部欠欠 ④稍進。白色鉱物粒を含む ⑥床面直上
4	甕	8.8 9.2 4.5	胴部は上下に沿った球形で、頭部はくの字に屈曲する。口縁部は外傾して開く。	口縁部ヨコナダ。胴部ヘラナダ。	口縁部ヨコナダ。	①2.5YR灰褐色 ②酸化 ③完形 ④稍進。砂礫を含む ⑤胴部内面に黒斑。頭部内面の器皿の荒れ跡著 ⑥床面直上
5	甕	7.9	胴部は球形で、頭部はくの字に屈曲する。口縁部は外傾する。	口縁部ヨコナダ。胴部ハケメ。	口縁部ヨコナダ。一部にハケメを残す。胴部ナダ。	①2.5YR尾根 ②酸化 ③残 ④稍進。白色鉱物粒を含む ⑥床面直上
6	甕		胴部は球形で、底部は上げ底状の平底。	ナダ。	ミガキ。底面周辺ヘラオサエ。	②.5YR尾根 ②酸化 ③胴部上半部欠欠 ④稍進。砂礫粒を含む ⑥床面直上
7	甕	9.6 10.6 5.5	胴部は上下に沿った球形で、頭部はくの字に屈曲する。口縁部は僅かに内湾して開く。	口縁部ヘラナダの後ヨコナダ。胴部ナダ。	口縁部ヨコナダ。胴部ヘラナダ。	①2.5YR灰に近い赤褐色 ②酸化 ③残 ④砂粒を含む ⑤内面の荒れ跡著 ⑥床面直上
8	甕	8.3 9.3	胴部は上下に沿った球形で、頭部はくの字に屈曲する。口縁部は僅かに内湾する。	口縁部ヨコナダ。胴部ハケメの後ヘラナダ。	口縁部ハケメの後ナダ。	①2.5YR灰に近い赤褐色 ②酸化 ③砂粒を含む ⑤胴部内面の荒れ跡著 ⑥床面直上

番号	器 形	法量 器高 口径 底径	器 形 の 特徴	外 面 調 整	内 面 調 整	①色調 ②模式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
9	壺	8.4 9.4	胴部はそろばん玉状で、頸部はくの字に彎曲する。口縁部は直線的に開く。	口縁部岐文状のヘラミガキ。胴部ヘラナデ、一部ヘラミガキ。	口縁部ヘラナデの後筋文状のヘラミガキ。	①2.5YR 6/8 模化 ②完形 ③精選。砂礫粒を含む ⑥床面直上
10	壺	8.2 8.7 3.2	胴部は球形で頸部は緩やかに彎曲するが、内面には棱を成す。口縁部はやや内湾して開く。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラミガキ。	口縁部ハケメ。	①GYR 6/8 赤褐色 ②模化 ③完形 ④精選。砂礫粒を含む ⑥床面直上
11	壺	7.8 9.9	胴部は球形で、頸部はくの字に彎曲する。底部は小さな上げ底状の平底である。口縁部は強く大きく外傾する。	口縁部ヨコナデ。頸部はくの字に彎曲する。	口縁部ヨコナデ。胴部ナナデ。胴下部ヘラナデ。	①GYR 6/8 にぼい赤褐色 ②模化 ③完形 ④精選。砂礫粒を含む ⑥床面直上
12	壺	10.6 10.6	胴部は球形で、頸部はくの字に彎曲する。口縁部は僅かに内湾し開く。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラミガキ。	口縁部ヨコナデ。	①GYR 6/8 模化 ②模化 ③完形 ④精選。砂礫粒を含む ⑥床面直上
24	高 壺	18.6	胴下部に棱を持つ。口縁部は直線的に開く。	口縁部ヨコナデ。胴部ハケメ。	口縁部ヨコナデ。胴部ナナデ。	①2.5YR 6/8 模化 ②模化 ③坏部のみ ④精選 ⑤口縁部内外面に黒斑 ⑥上層

1号住居 出土遺物観察表(図38)

番号	器 形	法量 器高 口径 底径	器 形 の 特徴	外 面 調 整	内 面 調 整	①色調 ②模式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
10	高 壺	(14.7)	脚柱部は緩やかに開き胴部で大きく開く。	ヨコナデの後筋文状のヘラミガキ。	底部ヨコナデ。輪稍直を残す。	①2.5YR 6/8 模化 ②良好・酸化 ③脚柱部のみ ④精選。砂粒を含む ⑥床面直上
13	高 壺	(22.4)	口縁部は大きく外反し底部に張り出しを持つ。	口縁部から胴部にかけてヨコナデ、暗文状のヘラミガキ。	口縁部ヨコナデ 胴部一部ヘラミガキ。	①GYR 6/8 模化 ②模化 ③口辺部、胴部の一部のみ ④精選。白色粗石粒を含む ⑥床面直上

2号住居 出土遺物観察表(図40、P L45)

番号	器 形	法量 器高 口径 底径	器 形 の 特徴	外 面 調 整	内 面 調 整	①色調 ②模式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
12	小 型 壺	(13.0) 11.1	胴部は球形で頸部には僅かな段を持つ。口縁部は緩やかに外傾する。底部は丸底。	口辺部ヨコナデ。胴部ヘラケズリの後ナナデ。	口辺部ヨコナデ。	①7.5YR 6/8 黄褐色 ②普通・酸化 ③少 ④砂粒を含む。 ⑤底部に黒斑 ⑥床面直上
一括1	壺	4.4 11.95	胴部と口辺部の境ち模を持つ。口縁部は外傾し端部は尖る。底部は丸底。			①GYR 6/8 黄褐色 ②普通・酸化 ③少 ④精選 ⑤外側とともに裏面の荒れが顕著 ⑥埋め土内
一括2	壺		胴部は球形で口縁部は緩やかに外傾する。内面に棱を持つ。	胴部ナナデ。	ヘラナデ。	①GYR 6/8 黄褐色 ②普通・酸化 ③少 ④精選・砂粒を含む ⑤埋め土内
一括3	壺	(8.0) (24.1)	胴部は浅く丸底。口縁部は外傾し端部で肥厚する。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ。胴部ナナデ。	①2.5YR 6/8 模化 ②普通・酸化 ③少 ④砂粒を含む。 ⑥埋め土内
36	甕		長胴で直線的。口縁部は緩やかに大きく外反する。	口辺部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	ナナデ。	①GYR 6/8 にぼい黄褐色 ②普通・酸化 ③少 ④砂粒を多く含む。 ⑥磁部材

遺物観察表

番号	器形	法 並 高 口徑 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調 ②旋式 ③残存 ④胎土 ⑤焼成 ⑥出土状態
34	壺	38.3 21.4 4.2	長胴で上半部に僅かに膨らみを持つ。口縁部は外反。底部は小さい。口沿部と胴部に明瞭な境を持つ。	口沿部ヨコナヂ。胴部ヘラケズリ。	口沿部ヨコナヂ。胴部ナヂ。	①5YR 5%に近い黄橙 ②普通・酸化 ③少 ④砂粒を多く含む。 ⑤電部材
33	壺	20.5	長胴で口縁部は大きく外反する。	口沿部ヨコナヂ。胴部ヘラケズリ。	口沿部ヨコナヂ。胴部ナヂ。	①10YR 5%に近い黄橙 ②普通・酸化 ③少 ④砂粒を含む。 ⑤電部材
3	壺	4.7 12.4	胴部は浅く、底部は丸底。口縁部と胴部の境に棱を持つ。口縁部は僅かに外傾する。	口沿部ヨコナヂ。胴部ヘラケズリ。	口沿部ヨコナヂ。胴部ヘラミガキ。	①2.5YR 5% 橙 ②普通・酸化 ③少 ④精選・砂砾を含む。 ⑤口縁部内面の表面の荒れが顕著。 ⑥床面直上
1	壺	4.05 11.0	胴部は浅く、底部は丸底。口縁部と胴部の境に棱を持つ。口縁部は僅かに外傾する。	口沿部ヨコナヂ。胴部ナヂ。	口沿部ヨコナヂ。胴部ナヂ。	①5YR 5% 橙 ②普通・酸化 ③少 ④精選・砂粒を含む。 ⑤床面直上
38	壺	21.45	長胴で口沿部は外反する。	口沿部ヨコナヂ。胴部ヘラケズリ。	口沿部ヨコナヂ。胴部ヘラナヂ。	①7.5YR 5% 橙 ②普通・酸化 ③少 ④砂粒を多く含む。 ⑥電部材
38	壺	21.45	長胴で口沿部は外反する。	口沿部ヨコナヂ。胴部ヘラケズリ。	口沿部ヨコナヂ。胴部ヘラナヂ。	①7.5YR 5% 橙 ②普通・酸化 ③少 ④砂粒を多く含む。 ⑥電部材
37	壺	23.5	長胴で口沿部は外反する。	口沿部ヨコナヂ。胴部ヘラケズリ。	口沿部ヨコナヂ。胴部ヘラナヂ。	①10YR 5% 橙 ②普通・酸化 ③少 ④砂粒を多く含む。 ⑥電部材

34件目 出土遺物観察表 (図39、P.1.31・44)

番号	器形	法 並 高 口徑 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調 ②旋式 ③残存 ④胎土 ⑤焼成 ⑥出土状態
4	壺	(20.0)	口縁部は頗く、外反する。	口沿部ヨコナヂ。胴部ヘラナヂ。	口縁部ヨコナヂ。	①10YR 5%に近い黄橙 ②普通・酸化 ③口沿部の一部のみ ④白色輕石粒・石英粒を含む。 ⑤埋め土内
29	壺	(18.0)	長胴か。口沿部は外反する。	口沿部ヨコナヂ。胴部ヘラケズリ。	口沿部ヨコナヂ。	①5YR 5% 橙 ②普通・酸化 ③口沿部のみ ④砂粒を含む。 ⑥埋め土内
一括1	壺	(5.1)	底部は頗く突出する。副部は大きく外傾し、口縁部で頗く立ち上がる。	口縁部ヨコナヂ。	口沿部ヨコナヂ。	①10YR 5% 橙 ②普通・酸化 ③少 ④精選 ⑤内面黒色 ⑥埋め土内
一括2	壺	4.15 (11.7)	胴部は浅く底部は丸底。口縁部は外傾する。副部と口縁部の境に棱を持つ。	口縁部ヨコナヂ。副部ヘラナヂ。	口縁部ヨコナヂ。底部ナヂ。	①5YR 5% 橙 ②普通・酸化 ③少 ④精選 ⑥埋め土内
一括3	壺	(4.05) (11.0)	胴部は浅い。副部と口縁部の境に棱を持つ。(口縁部上部には棱を持つ。	口縁部ヨコナヂ。	口縁部ヨコナヂ。底部ナヂ。	①2.5YR 5% 橙 ②普通・酸化 ③少 ④精選 ⑤内外側とともに器面の剥落が顕著。 ⑥埋め土内
一括4	壺	3.8 12.35	胴部は浅い。副部と口縁部の境に棱を持つ。口縁部内面がやや膨らむ。	口縁部ヨコナヂ。副部ナヂ。		①2.5YR 5% 橙 ②普通・酸化 ③少 ④精選 ⑤器面内外面の荒れ剥落。 ⑥埋め土内

番号	器形	法 量 器 高 口徑 底徑	器形の特徴	外 面 調 整	内 面 調 整	①色調 ②施式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
6	鉢	11.15 22.0	胸部は深く、底部は丸底。胸部と口縁部の境に棱を持つ。口縁部は僅かに外反し内面に段を持つ。	口縁部ヨコナデ。胸部境にユビナゾリによる棱を持つ。	口縁部ヨコナデ。内面にユビナゾリ。	①6YR 4/5 黄褐色 ②普通・酸化 ③少 ④稍選・砂粒・含む ⑤床面直上
7	环	5.6 17.5	口縁部は僅かに外傾する。胸部と口縁部との境に棱を持つ。	口縁部ヨコナデ。胸部へラケズリカ。		①GYR 4/5 棕 ②酸化 ③完形 ④砂粒を含む ⑤器面の荒れ顯著 ⑥床面直上
1	环	4.1 11.6	口縁部は僅かに外傾する。胸部と口縁部との境は明瞭ではない。口唇部内面に沈鉢が一条巡る。	口縁部ヨコナデ。胸部へラケズリカ。	口縁部ヨコナデ。胸部へラミガキ。	①7.5YR 4/5 黄 ②酸化 ③完形 ④砂粒を含む ⑤内面黒色 ⑥床面直上

44住居 出土遺物観察表 (図42、P.146)

番号	器形	法 量 器 高 口徑 底徑	器形の特徴	外 面 調 整	内 面 調 整	①色調 ②施式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
2	高 (須恵器)	10.5	脚部を欠く。副部は浅く、口縁部は内傾する。胸部と口縁部との境に突出した棱を持つ。	輪成型。	輪成型。	①2.5Y 4/5 灰白 ②泥元 ③环部のみ ④稍選・砂粒を含む ⑤埋め土上層
9	环	4.0 (13.4)	胸部は浅く、口縁部との境に棱を持つ。口縁部は僅く、内傾する。	口縁部ヨコナデ。胸部へラケズリ。	口縁部ヨコナデ。胸部へラミガキ。	①7.5YR 4/5 黄褐色 ②普通・酸化 ③少 ④稍選・砂粒を含む ⑤床面直上
7	甕	(20.6)	口縁部は僅やかに外反する。	口縁部ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ。胸部へラナデ。	①10YR 4/5 に近い黄褐色 ②酸化 ③少 ④滑石粒・褐色鉱物粒を含む。 ⑤口縁部内面の裂隙の荒れ顯著。 ⑥環周辺
19	环	(4.1) (12.95)	胸部は浅く、口縁部との境に棱を持つ。口縁部は直立し口唇部が僅かに外反する。	口縁部ヨコナデ。胸部ナデ。	口縁部ナデ。	①5YR 4/5 棕 ②酸化 ③少 ④砂粒を含む ⑤埋め土上層
20	燒 須恵器	(14.6)	頸部は直立し、口縁部は僅やかに開く。口唇部は肥厚する。	輪成型。口唇部は張り付け。	輪成型。	①5Y 4/5 灰 ②泥元 ③口縁部少 ④白色鉱物粒を含む ⑥埋め土内
18	甕	(14.5)	頸部は直立し、口縁部が僅かに開く。	口縁部ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ。胸部ナデ。	①5YR 4/5 棕 ②酸化 ③口縁部少 ④赤色鉱物粒を含む ⑥環周辺
3	环	4.1 (12.6)	胸部は浅く、口縁部との境に棱を持つ。口縁部は外傾し、口唇部は僅かに外反する。	口縁部ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ。	①7.5YR 4/5 黄褐色 ②酸化 ③少 ④砂粒を含む ⑤床面直上
4	环	7.5 18.0	胸部はやや深い。副部と口縁部との境には棱を持つ。口縁部は直立し、口唇部で僅かに外反する。	口縁部ヨコナデ。胸部ナデ。	口縁部ヨコナデ。	①7.5YR 4/5 棕 ②酸化 ③完形 ④稍選 ⑥床面直上
1	环	4.8	胸部は浅い。口縁部との境には棱を持つ。口縁部は中央部に段を持ち、大きく外傾する。	口縁部ヨコナデ。胸部へラケズリ。	口縁部ヨコナデ。胸部へラミガキ。	①5YR 4/5 棕 ②酸化 ③完形 ④稍選 ⑥床面直上
一括1	环	(4.6) (12.0)	胸部は浅く、口縁部との境に棱を持つ。口縁部は僅かに外傾する。	口縁部ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ。胸部へラミガキ。	①5YR 4/5 棕 ②酸化 ③少 ④稍選 ⑥埋め土内

遺物観察表

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴	外而調整	内面調整	①色調 ②焼式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
一括2	环	14.2	胴部は浅く、口縁部との境に棱を持つ。口縁部は外傾する。	口縁部ヨコナデ。胴部ミガキ。	口縁部ヨコナデ。胴部ミガキ。	①10YR 4hに近い黄橙 ②酸化 ③完形 ④精選 ⑥埋め土内
一括3	环	4.5 (14.4)	胴部は浅い。胴部と口縁部との境に棱を持つ。口縁部は外傾する。	口縁部ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ。	①5YR 5hに近い黄橙 ②普通・酸化 ③H ④精選 ⑥埋め土内
一括4	环	(4.1) (12.8)	胴部は浅く、口縁部は直立する。胴部と口縁部の境に棱を持つ。	口縁部ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ。	①2.5YR 5h灰白 ②普通・酸化 ③H ④精選 ⑥埋め土内

16号住居 出土遺物観察表 (図41、PL46)

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴	外而調整	内面調整	①色調 ②焼式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
4	小型甕	12.6 (15.6) 5.2	口縁部は外反する。胴部は短く丸底に近い平底。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	ミガキ。	①10YR 4hに近い黄橙 ②酸化 ③底部のみ ④片岩・石英片を含む ⑤表面の荒れ顯著 ⑥上層
15	环	5.0 13.5	胴部は浅く口縁部は直立し、端部で僅かに開く。	口縁部ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。	①10YR 4hに近い黄橙 ②酸化 ③完形 ④精選 ⑤表面の荒れ顯著 ⑥竪周辺床面直上
8	环	3.8 12.4	胴部は浅く、口縁部は直上直線的に大きく開く。	口縁部ヨコナデ。		⑦.5YR 5h暗褐 ②酸化 ③H ④精選 ⑤表面の荒れ顯著 ⑥床面直上
5	环	(3.8) (13.8)	胴部は浅く、口縁部は直立する。胴部と口縁部の境に棱を持つ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラミガキ。	口縁部ヨコナデ。	①5YR 5hに近い黄橙 ②酸化 ③H ④砂粒を含む ⑥床面直上
22	甕	39.4 22.4 (5.1)	長胴型。口縁部は大きく外反する。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。	①2.5YR 5h椎 ②酸化 ③完形 ④砂壁を含む ⑥竪部材
19	甕	14.9 15.0 6.0	胴部は上半部に最大径を持つ。口縁部は短く、外反する。底部は焼成前穿孔による多孔を有す。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ一部にヘラミガキ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	①10YR 4h浅黄橙 ②酸化 ③完形 ④砂粒を含む ⑤外面の荒れ顯著 ⑥窓内
20	鉢	7.9 12.9	胴部は半球形で、口縁部は内傾する。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。	①7.5YR 5h椎 ②酸化 ③完形 ④精選。砂粒を含む ⑤外面の荒れ顯著 ⑥竪内
9	环	4.4 12.2	胴部は浅く、口縁部は僅かに外傾して開く。胴部と口縁部の境に棱を持つ。	口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。	口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。	①5YR 5h椎 ②酸化 ③完形 ④精選。砂粒を含む ⑤外面の荒れ顯著 ⑥床面直上
21	甕	42.3 21.8 3.5	長胴型。口縁部は大きく外反する。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。	①10YR 4hに近い黄橙 ②酸化 ③完形 ④砂壁を含む ⑥竪部材。
10	鉢	11.0 18.4	胴部は半球形でやや深く、口縁部は端部で開く。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。一部にヘラミガキ。	①5YR 5h椎 ②酸化 ③ほぼ光形 ④砂壁を含む ⑤口縁部の荒れ顯著 ⑥床面直上

18号住居 出土遺物観察表(図43、P L47)

番号	器 形	法量 器高 口径 底径	器 形 の 特 徴	外 面 調 整	内 面 調 整	①色調 ②焼式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
一括1	高台付き椀	(14.2)		輪成型。	輪成型。	①10YR 5/4灰白 ②還元 ③焼 ④精選。 ⑤埋め土内
一括2	蓋	2.0 (16.1)		輪成型。	輪成型。	①10YR 5/4灰 ②還元 ③焼 ④精選。砂粒を含む ⑤埋め土内
7	坏	(4.6) (16.6)	底部は浅く、口縁部は僅かに内湾する。	口縁部ヨコナデ。胴部へラケズリ。	口縁部ナデ。	①5YR 5/4赤 ②酸化 ③焼 ④精選。砂粒を含む ⑤埋め土上層
一括3	高台付き椀	13.6		輪成型。	輪成型。	①6Y 5/4灰白 ②還元 ③焼 ④砂粒を含む ⑤埋め土内
4	坏	2.9 (12.4)	底部は浅く、口縁部は僅かに内湾する。	口縁部ヨコナデ。胴部へラケズリ。	口縁部ヨコナデ。	①5YR 5/4に近い椎 ②酸化 ③焼 ④精選。砂粒を含む ⑤埋め土上層
3	甕	14.5 15.0 5.4	底部は球形で、肩部はやや内湾ぎみに立ち、口縁部は短く外傾して閉く。	口縁部から肩部にかけてヨコナデ。肩部へラケズリ。	口縁部ヨコナデ。	①5YR 5/4に近い赤褐 ②酸化 ③ほぼ完形 ④精選。砂粒を含む ⑤窓辺上層
一括4	坏	3.4 12.8	底部は浅く、口縁部は僅かに内湾する。	口縁部ヨコナデ。胴部へラケズリ。	口縁部ヨコナデ。	①5YR 5/4橙 ②酸化 ③完形 ④精選。砂粒を含む ⑤埋め土上層
8	坏	3.6 13.0	底部は浅く、口縁部は僅かに内湾する。	口縁部ヨコナデ。胴部へラケズリ。	口縁部ヨコナデ。	①2.5YR 5/4 椎 ②酸化 ③完形 ④精選。砂粒を含む ⑤埋め土上層
6	坏	3.3 13.3	底部は浅く、口縁部は僅かに内湾する。	口縁部ヨコナデ。胴部へラケズリ。	口縁部ヨコナデ。	①5YR 5/4明赤褐 ②酸化 ③焼 ④精選。砂粒を含む ⑤
5	坏	3.2 13.4	底部は浅く、口縁部は僅かに内湾する。	口縁部ヨコナデ。胴部へラケズリ。	口縁部ヨコナデ。	①5YR 5/4に近い赤褐 ②酸化 ③焼 ④精選。砂粒を含む ⑤埋め土上層
1	坏	3.2 12.7	底部は浅く、口縁部は僅かに内湾する。	口縁部ヨコナデ。胴部へラケズリ。	口縁部ヨコナデ。	①7.5YR 5/4に近い椎 ②酸化 ③完形 ④精選。砂粒を含む ⑤埋め土上層
17	鉢	12.4 22.9	底部は丸底でボール状である。口縁部は外反し、端部をつまみ上げる。	口縁部ヨコナデ。胴部へラケズリ。	口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。	①5YR 5/4 椎 ②酸化 ③完形 ④精選。砂粒を含む ⑤窓内

31号住居 出土遺物観察表(図44、P L46)

番号	器 形	法量 器高 口径 底径	器 形 の 特 徴	外 面 調 整	内 面 調 整	①色調 ②焼式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
12	甕	5.2	長脚甕。底部は小さな平底。	ヘラナデか。	ヘラナデか。	①2.5YR 5/4明赤褐 ②酸化 ③底部のみ 砂粒・滑石粒を含む ⑤窓辺周辺
18	甕	3.4	底部は球形で、頸部は長く直立し口縁部は大きく開く。	輪成型。胴上部に輪摺波状文、肩部に唇面による彩衫状の刺突文。	輪成型。	①2.5YR 5/4灰黄 ②還元 ③口縁部を欠損 ④精選 ⑤窓口部周囲に傷あり ⑥床面直上
4-1	坏	(3.6) (10.8)	底部は浅く、口縁部は外反ぎみに開く。胴部と口縁部との境に棱を持つ。	口縁部ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ。	①5YR 5/4 椎 ②酸化 ③焼 ④精選。 ⑥貯藏穴内

遺物観察表

番号	器形	法 規 高 口 底 底	器形の特徴	外 面 調 整	内 面 調 整	①色調 ②様式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
4-2	环	3.9 (13.2)	胴部は浅く、口縁部は直線的に開く。胴部と口縁部との境に棱を持つ。	口縁部ヨコナデ。胴部へラケズリ。	口縁部ヨコナデ。	①5YR 4/6 ②赤褐色 ③化粧 ④精選。砂粒を含む ⑤底穴内
5	台付き甕	12.8	脚部は偏平で、縫部は肥厚する。	縫部ヨコナデ。	縫部ヨコナデ。	①5YR 4/6 ②赤褐色 ③脚部のみ ④砂跡を含む ⑤底座周辺
一括	环	(6.4) (17.6)	胴部はやや深く、口縁部は直立し、縫部が僅かに外反する。胴部と口縁部との境に棱を持つ。	口縁部ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ。内面黒色。	①7.5YR 4/6 ②赤褐色 ③外 ④精選。 ⑤埋め土内
1	环	4.1 10.6	胴部は浅く、口縁部はやや外傾して開く。胴部と口縁部との境に棱を持つ。	口縁部ヨコナデ。胴部へラケズリ。	口縁部ヨコナデ。一部にヘラケズリ。	①5YR 4/6 ②酸化 ③完形 ④砂粒を含む ⑤床面上直
2	环	4.4 12.7	胴部は浅く、口縁部は外傾して開く。	口縁部ヨコナデ。胴部ナゲ。	口縁部ヨコナデ。	①10YR 4/6 ②黄褐色 ③完形 ④精選 ⑤床面上直
3	环	4.3 12.4	脚部は偏平、口縁部は外傾して開く。口縁部内面に沈線が1条産される。胴部と口縁部との境には棱を持つ。	口縁部ヨコナデ。胴部ナゲ。	口縁部ヨコナデ。一部にヘラミガキ。	①10YR 4/6 ②黄褐色 ③外 ④精選 ⑤底穴内
7	甕	(37.6) 23.3	長脚甕。口縁部は大きく外反する。	口縁部ヨコナデ。胴部へラケズリ。	口縁部ヨコナデ。胴部ナゲ。	①7.5YR 4/6 ②黄褐色 ③底部を欠損 ④砂粒を含む ⑤埴輪部
14	环	3.9 11.4	胴部は浅く、口縁部は僅かに外反する。胴部と口縁部との境に棱を持つ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘナゲ。	口縁部ヨコナデ。	①2.5YR 4/6 ②酸化 ③外 ④精選 ⑤床面上直

17号住居 出土遺物観察表(図45)

番号	器形	法 規 高 口 底 底	器形の特徴	外 面 調 整	内 面 調 整	①色調 ②様式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
一括	甕	(21.2)	口縁部は大きく外反し、縫部をつまみあげる。	口縁部ヨコナデ、縫部へラケズリ。	口縁部ヨコナデ。	①5YR 4/6 ②化粧 ③口縁部の一部のみ ④精選。 砂粒を含む ⑤埋め土内

19号住居 出土遺物観察表(図46、P.L47)

番号	器形	法 規 高 口 底 底	器形の特徴	外 面 調 整	内 面 調 整	①色調 ②様式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
3	高台付き瓶	5.4 14.9 7.2		體成形。底部回転糸切りの後付け高台調整。	體成形。	①2.5Y 4/6 ②黄褐色 ③外 ④砂粒・片岩粒を含む ⑤床面上附
1	环 (須恵器)	4.1 14.4 (6.6)		輪成型。底部回転糸切り	輪成型。	①5Y 4/6 ②灰白 ③單元 ④砂粒を含む ⑤床面上附
10	甕	(22.8)	口縁部は緩やかに外反する。	口縁部ヨコナデ。胴部へラケズリ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘナゲ。	①2.5YR 4/6 ②酸化 ③外 ④砂粒を含む ⑤床面上附

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調 ②瓶式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
2	高台付き壺	5.2 14.8 6.7		輪成型。底部回転糸切りの後付け高台。	輪成型。	①2.5YR 4% 茶黄 ②還元 ③ 4% ④砂粒を含む ⑤底部内外面に黒斑 ⑥床面上層
22	甕 (弥生土器)	(16.4)	胸部は上半部に最大径を持つ。頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は内湾する。	口縁部にLRの捺文。頸部に4本筋の櫛状工具による捺状文。胸部は4本筋の櫛状工具による羽状節捺文。	口縁部ヨコナデ。肩部ハケメの後ラミガキ。	①10YR 4% ぶい黄橙 ②酸化 ③4% ④精選。砂隕石を僅かに含む ⑤肩部外面に虫歯 ⑥埋め土内
一括1	壺 (須恵器)	3.9 (13.6) (7.8)		輪成型。底部回転ヘラケズリ。	輪成型。	①GY 4% 灰白 ②還元 ③4% ④砂粒を含む ⑥埋め土内
一括2	壺	(2.7) (13.8)	胸部は浅く、口縁部は短く僅かに内湾する。	口縁部ヨコナデ。肩部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。	①10YR 4% ぶい黄橙 ②酸化 ③4% ④砂粒を含む ⑥埋め土内
一括3	甕	(18.2) (6.0)	肩部は球形で、口縁部はくの字に屈曲して開く。	口縁部ヨコナデ。肩部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。肩部ヘラナデ。	①6YR 4% 深 ②酸化 ③4% ④砂粒を含む ⑥端内

24号住居 出土遺物観察表(図47、PL.47)

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調 ②瓶式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
一括	甕	(21.8)	肩部は長削れ、口縁部は紙やかに外反して開く。	口縁部ヨコナデ。肩部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。	①7.5YR 4% 橙 ②酸化 ③4% ④精選。砂粒を含む ⑥竈部
2	壺 (須恵器)	8.1		輪成型。底部は回転糸切りの後周辺回転ヘラケズリ。	輪成型。	①2.5YR 4% 黄 ②還元 ③ 底部のみ ④精選。砂粒を含む ⑥床面直上
1	壺	3.3 13.1 8.0		輪成型。底部はやや上げ底で回転ヘラケズリ。	輪成型。	①7.5YR 4% 灰白 ②還元 ③完形 ④精選。白色鉱物粒を含む ⑥床面直上

26号住居 出土遺物観察表(図48、PL.47)

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調 ②瓶式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
14	甕	(23.0)	コの字口縁。肩上部に最大径を持つ。	口縁部ヨコナデ。肩部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。肩部ヘラナデ。	①7.5YR 4% ぶい橙 ②酸化 ③4% ④砂粒を含む ⑥竈部
1	高台付き壺 (灰釉陶器)	4.6 14.3 (6.8)		内外面ともに施釉。		①2.5YR 4% 灰白 ②還元 ③ 4% ④精選 ⑥埋め土内
16	壺	(12.8) (4.6) (6.8)		輪成型。底部回転糸切り無調査。	輪成型。	①2.5YR 4% 灰白 ②酸化 ③4% ④精選。砂粒を含む ⑥ 床面直上
一括	高台付き壺	8.0		輪成型。底部回転糸切り付け高台。	輪成型。	①2.5YR 4% 灰白 ②還元 ③底 部のみ ④砂粒を含む ⑥埋め 土内

遺物観察表

12号住居 出土遺物観察表(図49、P.48)

番号	器形	法量 高さ 口径 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調 ②焼式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
3	高台付楕(須恵器)	7.1		楕成型。底部は回転糸切りの後付け高台。		①2.5Y劣灰黄 ②還元 ③底部のみ ④精選。砂粒を含む ⑤埋め土内
4	高台付楕(須恵器)	14.1		楕成型。底部は回転糸切りの後付け高台。		①5Y劣灰白 ②還元 ③口縁部の一部と高台欠損 ④精選。砂粒を含む ⑤床面直上
16	环	4.1 12.9 7.0		楕成型。底部回転糸切り無調整。		①2.SYR劣淡黄 ②酸化 ③口縁部の一部欠損 ④砂粒を含む ⑤口縁部の一部に還元部有 ⑥床面直上
40	高台付楕(須恵器)	5.2 15.9 8.2		楕成型。付け高台。		①5Y劣灰白 ②還元 ③劣 ④精選。砂粒を含む ⑤内外面にタール状の付着物 ⑥床面直上
10	高台付皿(須恵器)	2.7 13.3 5.7		楕成型。回転糸切りの後付け高台。		①2.5Y劣灰黄 ②還元 ③口縁部の一部欠損 ④精選。砂粒を含む ⑤床面直上
1	纺錘車(滑石製)	上径4.4・下径2.7・厚さ1.9 孔径0.9重さ55.9g		側面に線刻あり。		⑥床面直上

14号住居 出土遺物観察表(図50、P.48)

番号	器形	法量 高さ 口径 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調 ②焼式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
一括	甕	(18.2)	コの字状口縁。口唇端部をつまみあげる。	口縁部ヨコナデ。胴部へラケズリ。	口縁部ヨコナデ。	①5YR劣に bei 植 ②酸化 ③口縁部欠 ④精選。砂粒を含む ⑤上層
4	甕	(21.8)	コの字状口縁。口唇端部をつまみあげ、外面に接を成す。	口縁部ヨコナデ。胴部へラケズリ。	口縁部ヨコナデ。	①7.5YR劣に bei 植 ②酸化 ③口縁部欠 ④精選。砂粒を含む ⑤上層
27	台付き甕	10.1	ハの字状に聞く。	縱方向のヘラミガキ。	ハケメの後ヘラナデ。	①2.5YR劣淡黄 ②酸化 ③胴部のみ ④精選 ⑤胎生土器 ⑥埋め土内
25	甕	(19.6)	口縁部は肩部から緩やかに立ち上がり外反する。いわゆるコの字状口縁か。	口縁部ヨコナデ。胴部へラケズリ。	ヨコナデ。	①7.5YR劣植 ②酸化 ③口縁部欠 ④精選。砂粒を含む ⑤上層
9	楕(須恵器)	(14.8)		楕成型。	楕成型。	①10YR劣に bei 黄植 ②酸化 ③劣 ④精選。砂粒を含む ⑥上層
22	高台付き楕	5.7 (14.8) (8.2)		楕成型。底部回転糸切りの後付け高台無調整。	楕成型。	①5YR劣灰白 ②還元 ③劣 ④砂礫粒を含む ⑥上層
18	甕	(21.7)	コの字状口縁。	口縁部ヨコナデ。胴部へラケズリ。	口縁部ヨコナデ。胴部へラナデ。	①5YR劣植 ②酸化 ③劣 ④精選。砂粒を含む ⑥上層
7	高台付き楕	5.3 15.3 5.8		楕成型。底部回転糸切りの後付け高台の後調整。	楕成型。	①10YR劣浅黃植 ②酸化 ③完形 ④砂礫粒を含む ⑥上層
17	甕	23.7 18.6 4.1	コの字口縁。胴部上半部に最大径を持ち、底辺に向かって急にすぼまる。	口縁部ヨコナデ。胴部へラケズリ。	口縁部ヨコナデ。胴部へラナデ。	①5YR劣に bei 植 ②酸化 ③完形 ④精選。砂粒を含む ⑥床面直上

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調 ②焼式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
15	高台付き椀	5.6 15.3 7.2		輪成型。底部回転糸切りの後付け高台無調整。	輪成型。	①10YR5/4淡黄 ②酸化 ③完形 ④砂隕粒を含む ⑤上層
3	高台付き椀	4.9 14.7 7.7		輪成型。底部回転糸切りの後付け高台無調整。	輪成型。	①2.5YR5/4灰白 ②還元 ③ほぼ完形 ④砂隕粒を含む ⑤上層
11	高台付き椀 (須恵器)	5.1 14.4 7.7		輪成型。底部回転糸切りの後付け高台無調整。	輪成型。	①2.5YR5/4灰白 ②還元 ③口縁部の一部欠 ④砂隕粒を含む ⑤上層

15号住居 出土遺物観察表 (図51、P L 48)

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調 ②焼式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
14	甌	(16.6)	コの字口縁。	口縁部ヨコナデ。底部へラケズリ。	口縁部ヨコナデ。	①7.5YR5/4にぶい橙 ②酸化 ③口縁部の一部のみ ④砂隕粒を含む ⑤床面直上
一括1	甌	(18.9)	コの字口縁。	口縁部ヨコナデ。底部へラケズリ。	口縁部ヨコナデ。	①2.5YR5/4明赤褐 ②酸化 ③口縁部の一部のみ ④砂隕粒を含む ⑤床面直上
一括2	甌	(11.9)		輪成型。	輪成型。	①10YR5/4淡黄 ②酸化 ③口縁部の一部のみ ④砂隕粒を含む ⑤床面直上
1	滑石製 劍形模造品	全長84 ⁺ 、中央幅26 ⁺ 中央厚7 ⁺ 、孔径2 ⁺	全面に研磨痕がみられる。			⑥上層

地割れ内 出土遺物観察表 (図53、P L 48)

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調 ②焼式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
1	高台付き椀	5.3 14.9 6.8		輪成型。	輪成型。	①2.5YR5/4淡黄 ②還元 ③完形 ④精選。 ⑤内外面に墨書き ⑥埋め土内

IV

調査の成果と今後の課題

西迎遺跡では住居33軒と7基から成る方形周溝墓群が検出された。遺跡内の各遺構の在り方は、調査遺跡内に散在する。しかも、それぞれの同一時期内の遺構が、互いに切り合い関係を持つことがない。また、方形周溝墓は遺跡内南地域に集中し、墓域を形成している。これらは、赤城山南麓地域の遺跡での一般的な傾向を示している。

弥生時代中期後半の遺構は住居15軒が検出された。これは、これまで赤城山南麓地域で調査されてきた同時期の遺跡と比較してかなり大きな規模である。また、13号住居のような大型住居の存在も目を引く。

ここでは、今回の調査において最もまとめた資料を得ることができた弥生時代中期後半の土器について若干の検討を加え、まとめとしている。

西迎遺跡の住居出土の弥生時代中期後半の土器には、壺、甕、台付き壺?、椀、甑、高环などの器種が見られる。これらのうち、椀、高环などの個体数は極めて少ない。この椀、高环などの特定器種や赤色塗彩された土器の欠落現象は西毛地域と東毛地域を比較した場合、東毛地域に著しく認められる。

ここでは、最も出土量の多い壺及び甕について、分類基準を明らかにした上で型式分類を行いその組列を追う。なお、組列を追うに当たっては、西迎遺跡出土遺物のみに限ることなく、現利根川以東の赤城山南麓地域をその分析対象の中心とする。その上で各組列を横断する共通する型式の組み合わせを明らかにし、他地域との比較のための第一歩として時間軸の設定を試みることとする。ただし、今回は型式組列を検証するための遺構の重複などの層位的出土例がないため、あくまでも仮説として提示するに止どめたい。

1 型式分類

壺は7類9細分できる。

壺A類

口縁部が受け口状をなす。頸部から外反した口縁部が端部で立ち上がり、外面には棱を持つ。頸部は比較的長く、胸部は中央部が張る。

文様は口唇部に繩文、口縁部は繩文施文の上にヘラ描き沈線による波状文、頸部は繩文施文の上にヘラ描き沈線あるいはヘラ描き沈線波状文を施す。これに続

くものとしてA₁は口縁部あるいは頸部から細文が欠落する。頸部がやや短くなり、胸部は最大径が胴下部に移りやや下膨れとなる。A₂は頸部からヘラ描き沈線が欠落する。胸部の張りは弱まる。

壺B類

口縁部は折り返し口縁で、頸部から緩やかに外反ぎみに開く。胸部の張りは比較的小さい。口縁部の折り返し部に繩文施文、頸部には繩文施文の後側にヘラ描き沈線による山形文を描き、他の部分を磨り消す。B₁は頸部の山形文内の繩文が欠落する。B₂は口縁部及び頸部から繩文が姿を消す。

壺C類

口縁部が内湾する。外面に棱を持たず緩やかに内湾して外に開く。胸部は中央部に最大径を持ち、大きく張る。口縁部文様帶を持つもの(C_a)と持たないもの(C_b)とに分けられる。

C_aは口唇部と口縁部に繩文施文、頸部にはヘラ描き沈線による横位区画をもうけ充填繩文を施し帯状化する。頸部の脊状文の下にヘラ描き沈線による沈線充填の連続三角形文を施す。C_{a1}は頸部の文様帶から繩文が欠落する。C_{a2}は口縁部の文様も欠落し、頸部にヘラ描き沈線や波状文を施すのみとなる。この時点で壺Aとの区別が不鮮明となる。

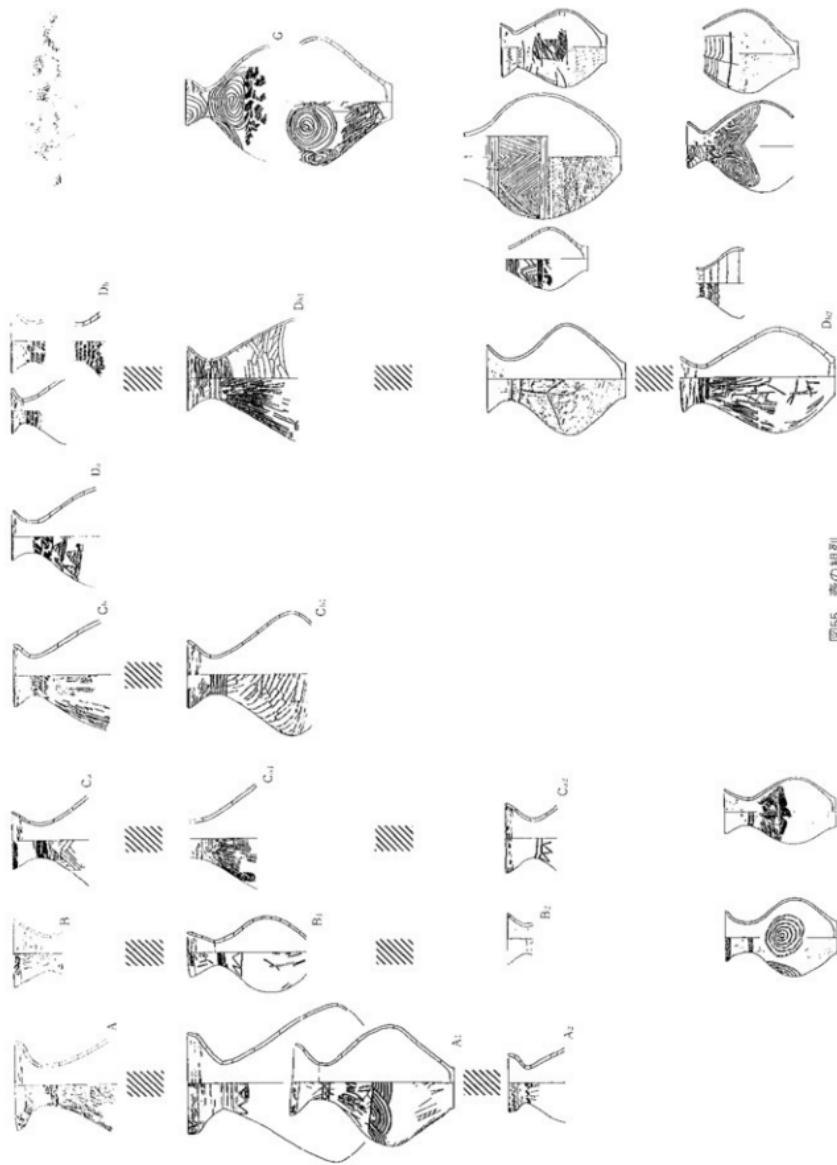
C_bは口唇部に繩文、頸部に繩文施文の後へラ描き沈線を施す。口縁部文様帶を持たない。胸部は中央部に最大径を持つ。C_{b1}は頸部から繩文が欠落する。胸部の最大径が胴部下部になりやや下膨れとなる。

壺D類

單口縁で頸部から外反して開く。D_aは胴部中央部に最大径を持つ。頸部は僅かに立ち上がり、口縁部は比較的短くひらく。口唇に繩文施文。頸部にはヘラ描き沈線をほどこしその間に繩文を充填する。胴上半部にヘラ描き沈線による沈線充填連続三角形文を二段描く。

D_bは口縁部は頸部から緩やかに外反する。胸部は中央部に最大径を持つ。口唇部に繩文施文、頸部に繩文施文の後へラ描き沈線を2~4条引く。さらにへラ描き沈線による波状文を施す。D_{b1}は胴部の最大径がやや下になり下膨れとなる。頸部の繩文が欠落する。D_{b2}は口縁部の外反が緩やかになり、頸部のヘラ描き沈線

図55 瓶の組列



IV 調査の成果と今後の課題

が欠落し櫛描き波状文となる。

卷五類

單純口縁で内湾して立ち上がりゆるい袋状口縁となる。胴部は上半部に最大径を持つ。文様は口縁部に細いヘラ描き沈線による重連弧文、胴部には溝文を施し、その下に網文を施す。

臺 F 類

口絵部の形態は不明であるが、全体にやや細く、胸部の張りは弱い。文様は細いヘラ描き沈線による重連弧文、その下に重三角形文を施す。さらに下部に網文を施文する。文様は弧線と直線の違いはあるが重文で

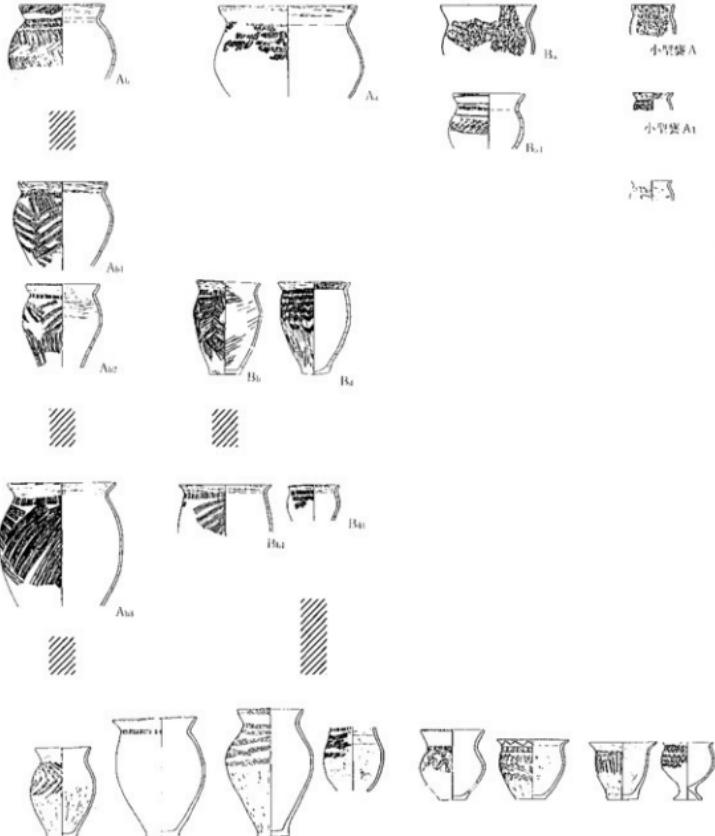


図56 襟の縦列

であること、口縁部から胴部上半部に細いヘラ描き沈線文様を描き、胴部中央部に組文を施すというパターンはF類と共通する。

卷 G 領

口唇部に4単位の突起を持つ。口縁部は大きくラバ状に開き、頬部はやや縮まり、脣部は下半部が張る。全面に赤色塗彩される。

甕は2類(5細分分類する。

表 A 類

A₆は口縁部が内湾する。頸部は「くの字」状に屈曲する。口縁部が比較的長く、副部は強く張る。口唇部



刻目、頸部に2~3本のヘラ描き簾状文を巡らせ、胴部上半部には纏文を施文する。

A₁は口縁部は僅かに内湾し、頸部は「くの字」に屈曲する。胴部は中央部が張る。文様は口縁部に深い櫛状工具による斜走直線文、頸部に2段にわたる簾状文、胴部には羽状の斜走直線文を3段に亘って施文する。

A₂は口縁部の内湾はより明瞭になり、胴部は上半部に最大径を持つ。下半部は直線的にすぼまる。文様は口唇部に纏文、口縁部にヘラ描き沈線波状文をほどこし頸部にはヘラ状工具による簾状文、胴部には斜走直線文の纏羽状文を施す。

A₃は口縁部の内湾は緩やかになり開きが大きくなる。また、胴部の張りは弱くなる。口縁部のヘラ描き沈線波状文が欠落する。

A₄は口縁部の内湾は僅かになり開きはより大きくなる。胴部は張りが少なくなり全体になだらかとなる。

甕B類

B₁は口縁部は頸部から「くの字」に屈曲し、外反ぎみに開く。胴部は球形に近い。口唇部に纏文施文、口縁部から胴部にかけて纏文施文、頸部にはヘラ状工具による簾状文が施される。

B₂は口縁部の纏文が欠落し、胴部にはヘラ描き沈線による横位区画文が形成される。

B₃は口縁部が頸部から緩やかに外反して開く。口縁部は比較的短い。胴部は上半部に最大径を持つ。口縁部には文様を持たず、頸部に簾状文、胴部には斜走直線文による纏羽状文を施す。

B₄は口縁部の開きが大きくなり、胴部はなだらかとなる。

B₅は口縁部が短く頸部から「くの字」に鋭く開く。頸部には簾状文、胴部には横位の波状文が施される。

B₆は頸部の屈曲がやや緩やかになり、胴部の張りもやや弱くなる。

Hは胴部の中央部に最大径を持つ。頸部は緩やかに屈曲し、口縁部は直線的に開く。文様は口唇部に纏文施文、口縁部と胴上半部に纏文を施文する。頸部には無文帯を残す。

小型甕A

台付き甕になる可能性もある。口縁部は緩やかに外反する。胴部は球形胴に近い。頸部にヘラ描き簾状文を施す。A₁は胴部に櫛状工具による波状文が施される。

2 型式組列の検討

型式組列が追るものとして、壺A、壺C_n、壺D_n、甕A_nを上げることができる。

壺Aは受け口状口縁と胴部の張る器形が特徴的である。文様要素として纏文が欠落し、胴部の張りが弱くなる。A→A₁→A₂へという組列を設定する。

具体的な遺構に照らすなら、西迎遺跡20号住居→西迎遺跡13号住居→西迎遺跡11号住居へという変遷である。

壺C_nは口縁部が僅かに内湾するもので、胴部は壺Aと同様に大きく張る。文様要素として纏文の欠落が指摘でき、文様も簡略化する。

C_n→C_{n+1}→C_{n+2}という組列を設定する。

具体的な遺構は西迎遺跡20号住居→西迎遺跡22号住居→西迎遺跡13号住居へという変遷である。

甕D_nは口縁部が外反し、胴部は張る。文様要素として纏文の欠落傾向と文様の簡略化が指摘できる。また、頸部文様帯に櫛描波状文の導入がある。D_n→D_{n+1}→D_{n+2}という組列を設定する。

具体的な遺構は西迎遺跡30号住居→13号住居への変遷であり、これにつづくものとして荒前原遺跡の壺があげられる。

甕A_nは口縁部は短く、内湾して開く。胴部は中央部が張る。文様要素として頸部の簾状文、胴部の斜走直線文による纏羽状文があげられる。

A_n→A_{n+1}→A_{n+2}という組列を設定する。

具体的な遺構は西迎遺跡30号住居→西迎遺跡20号住居・荒砥島原A区11号住居→西迎遺跡13号住居である。これに続くものとして荒前原遺跡2号住居の壺があげられる。

以上の組列の組み合わせをもとに、西迎遺跡及び赤城山南麓地域の弥生時代中期後半の土器編年を試案した。

3 赤城山南麓の弥生時代中期後半の 土器編年における

赤城山南麓の弥生時代中期後半の遺跡は、現在までに10遺跡が知られているにすぎない。調査された住居を含む遺構も50軒に満たない。

このような状況の中で、敢えて、表1のように4細分を考えた。前述したようにいくつかの型式で組列を追うことができ、しかも、それらを横断する組み合

	壺										甕					小型甕		遺跡名	備考
	A	B	C _a	C _b	D _a	D _b	E	F	G	A _a	A _b	B _a	B _b	H	A				
I		B								A _a					H	荒砥前原遺跡5T3号竪穴 西迎遺跡29号住居 西迎遺跡30号住居	野沢II		
II	A	B	C _a	C _b	D _a	D _b	E	F			A _a	B _a	H				西迎遺跡20号住居 荒砥島原遺跡A区11号住居 西太田遺跡136号住居	南御山II 二ツ釜	
III	A _a	B _a	C _a	C _b	D _a	◇	◇	G		A _a	B _a					西迎遺跡13号住居	川原町口・山草荷		
IV					◇	◇							◇			荒口前原遺跡 荒砥前原遺跡2号住居	桜井II		

赤城山南麓地域の弥生時代中期後半における土器型式組成及び編年試案

せが認められることをその根拠としてあげておきたい。

型式組列やこれらの組み合わせについては、先に述べたように、検証し得る資料は今のところ乏しい。ここでは、他地域の土器群との対比から、その見通しを述べておきたい。

まず、細分したIからIVまでにそれぞれ共伴する壺E類、F類、甕A類、甕H類に注目する。これらの土器は、ヘラによる彫描沈線文と網文を特徴とする土器群であり、ここで分類したヘラ彫き沈線文土器や彫描き文系土器とは明らかに系統を異にするものとしてとらえられる。

すでにこれらの土器群については柿沼恵介を初めとして多くの研究者によって南東北系土器群として位置付けられているところである(柿沼・井上1977、設楽1986他)。近年では大木耕一郎によって詳細な分析がおこなわれた。大木は各遺跡毎の南東北系土器と呼ばれるものと実際の南東北の土器型式との対比を行い、これら南東北系土器群の出自や流入経路について言及した(大木1988)。

ところで、これまでのところ最も精緻に組み立てられ、信頼のおけると判断される弥生時代中期後半から後期にかけての南東北地域の土器編年は、中村五郎や井上義安他によって組み上げられた編年であろう(中村1976、井上他1978)。南御山II式から二ツ釜式、川原町口式、天王山式を経て十三台式にいたる編年大綱は極めて妥当性の強いものと考える。

そこで表1の備考欄に示したように中村編年を赤城山南麓地域出土の南東北系土器群にあてはめてみた。I段階は明確ではないが、荒砥前原遺跡5トレンチ3号竪穴出土の磨り消し網文を持つ壺は南御山II式に対比される可能性がある。II段階では、すでに大木の指

摘(大木1988)のとおり二ツ釜式段階の土器が伴う。西迎遺跡20号住居と西太田遺跡136号住居がこの例である。III段階は2本同時施用工具による川原町口・山草荷式段階の土器が伴う。この段階では二ツ釜式並行の土器も共伴する。西迎遺跡13号住居出土一括資料があげられる。IV段階には川原町口・山草荷式段階の土器に、連弧文を縦線で区分する桜井II式平行の土器が共伴する。荒口前原遺跡一括資料があげられる。

以上のことは、南東北の弥生時代中期編年の是認を前提とした場合、先の型式組列に基づく編年試案の妥当性を示しているといえよう。ただし、これはあくまでも南東北地城の編年が正しいという仮説の上に成り立っている。東北地方や赤城山南麓地域での層位学的な検証が一日でも早く行われることを期待し、赤城山南麓地域の弥生時代中期後半の土器群についてI、II、III、IVという4期区分を提唱しておきたい。

また、今後の課題として、ここで取り上げた弥生時代中期後半の土器群とこれに続く弥生時代後期の土器群との関係の発明があげられよう。特に、赤井戸式土器との関係が最も大きな問題となる。この問題については、赤井戸式I期の土器の出土例の増加を待って再論してみたい。今後の大きな課題である。

参考文献

- 井上義安・柿沼恵介 1977「入門講座 弥生土器・北関東2-1」考古学ジャーナル141
- 設楽博巳 1986「荒見町式土器をめぐって」第7回三島シンポジウム「東日本における中期後半の弥生土器」北武藏古代文化研究所他
- 大木耕一郎 1988「群馬県東部における弥生時代中期後半の土器について - 南東北系土器群の分析 -」群馬県考古学研究会創立十周年記念論集 (群馬県立群馬県埋蔵文化財調査事務局)
- 中村五郎 1976「東北塙井南部の弥生式土器編年」東北考古学の諸問題
- 佐藤次男・井上義安・宮川義 1977「入門講座 弥生土器・関東東部-1」考古学ジャーナル146・147

写 真 図 版



1. 赤城山と深津地区遺跡群（南より）



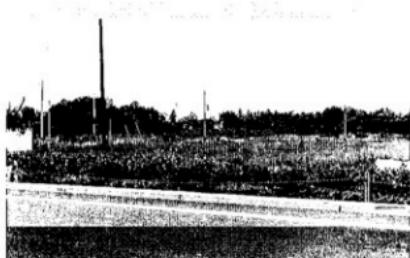
2. 増和60年度調査遺跡（南西より）



1. 西庭遺跡全景（南より）



2. 西庭遺跡南区全景（東より）



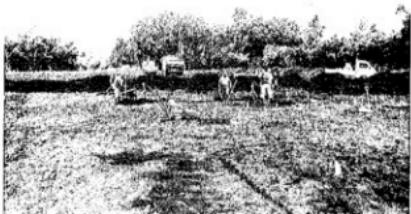
1. 西迎遺跡と東側の低地



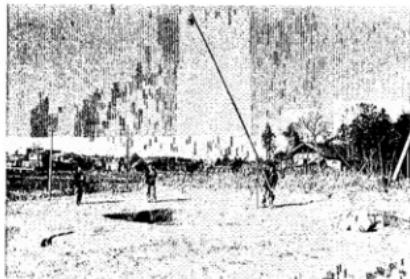
2. 西の低地から望む西迎遺跡



3. 大型重機による表土剥ぎ



4. 精査作業



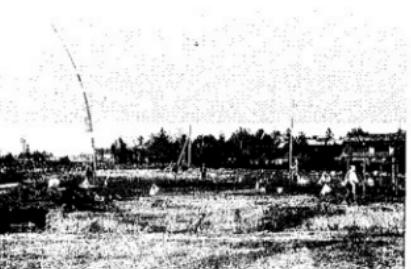
5. ブーム方式（計測用カメラ）による住居の写真測量



6. 進む発掘調査



7. 電子野帳による遺物の取り上げ



8. ケーブル方式（35mm一般カメラ）による写真測量



1. 方形周溝墓群と住居（東より）



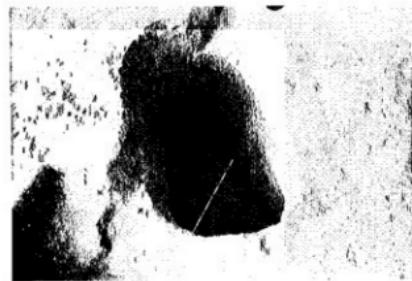
2. 方形周溝墓と住居の発掘調査



3. 大溝の調査



4. 大溝と方形周溝墓



5. 鋼文時代の6号陥し穴（23号住居内）



6. 1・2・3号陥し穴



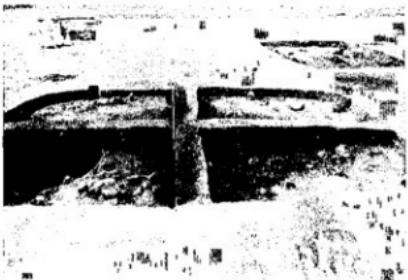
7. 4号陥し穴（2号方形周溝墓内）



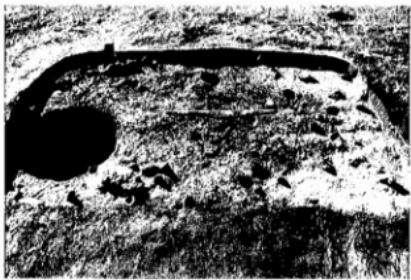
8. 7号陥し穴（4号方形周溝墓内）



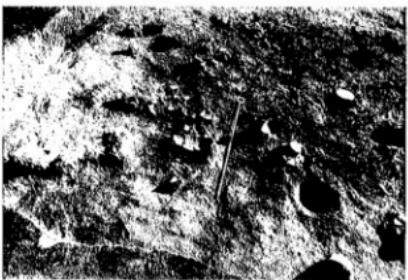
1. 7号住居全景



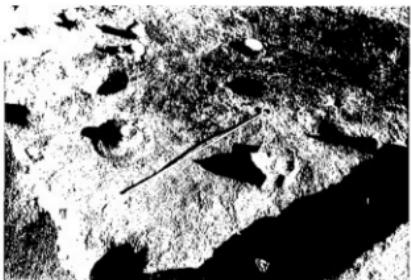
2. 7号住居上层堆积状态



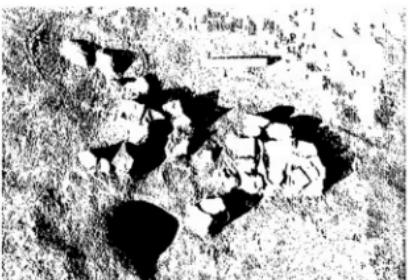
3. 7号住居遗物出土状况



4. 7号住居遗物出土状况



5. 7号住居遗物出土状况



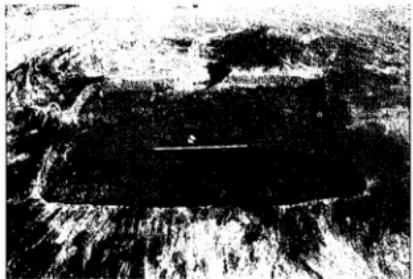
6. 7号住居遗物出土状况



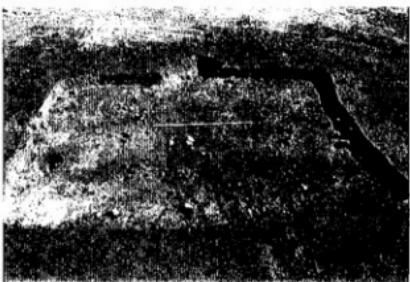
7. 10号住居全景



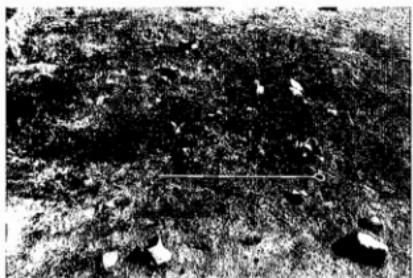
8. 10号住居遗物出土状况



1. 9号住居全貌



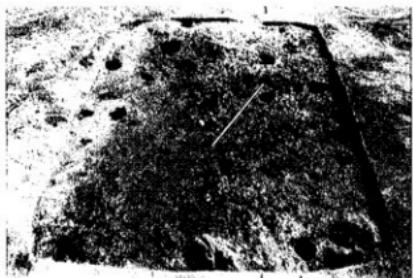
2. 9号住居遺物出土状況



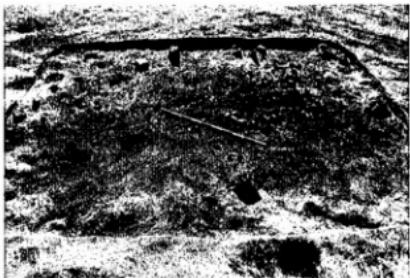
3. 9号住居遺物出土状況



4. 9号住居P内遺物出土状況



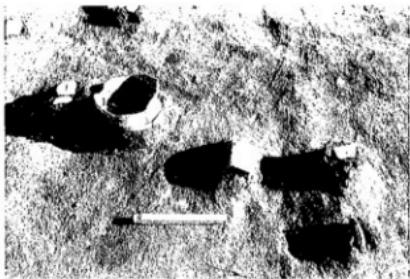
5. 11号住居全貌



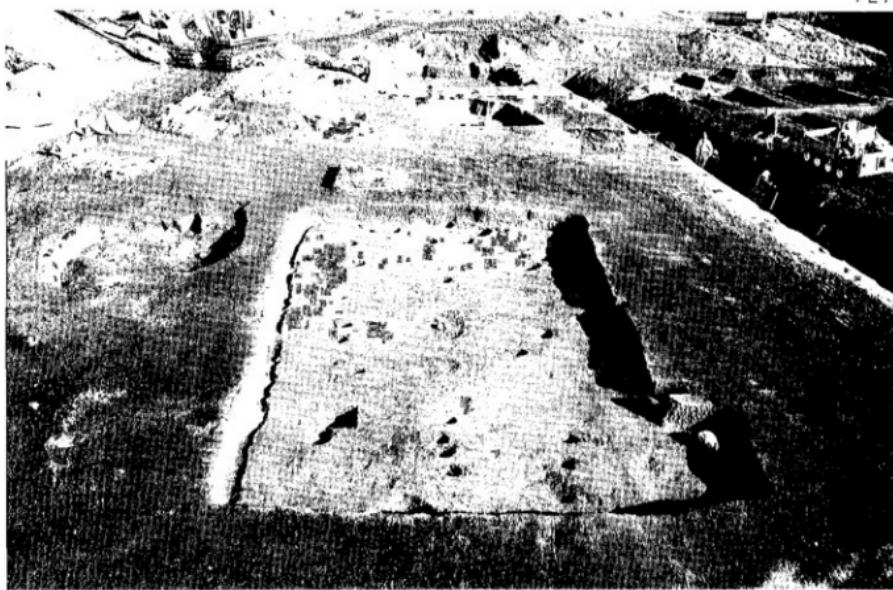
6. 11号住居遺物出土状況



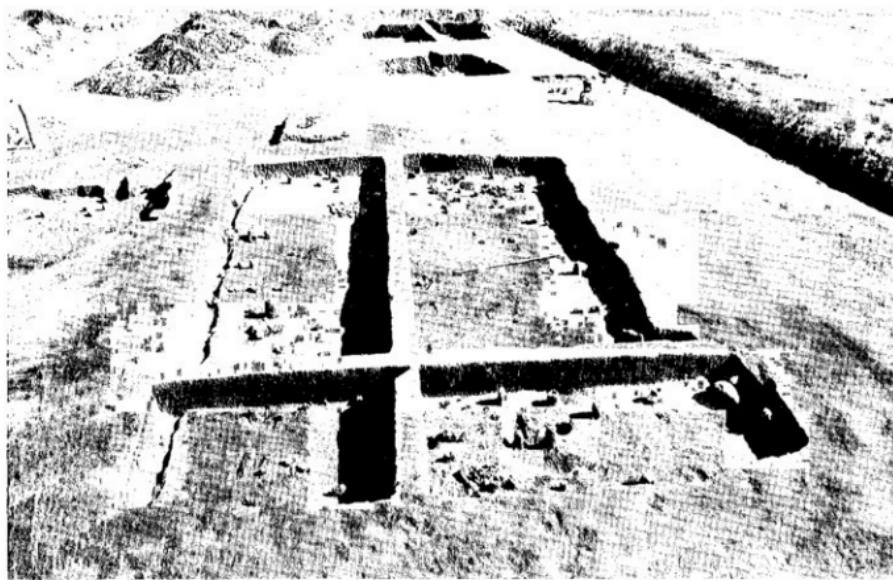
7. 11号住居遺物出土状況



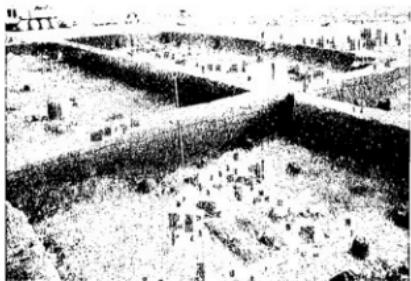
8. 11号住居遺物出土状況



1. 13号住居全貌



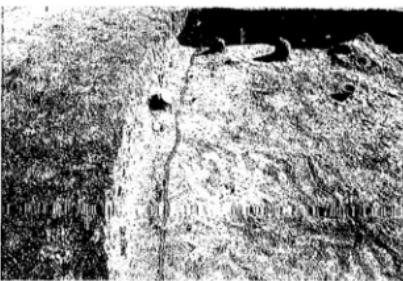
2. 13号住居遺物出土状况



1. 13号住居土層堆積狀況



2. 13号住居爐址



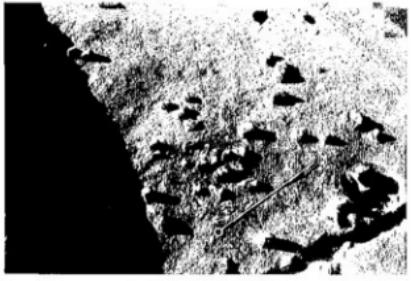
4. 13号住居壁塀况



6. 13号住居遺物出土狀況



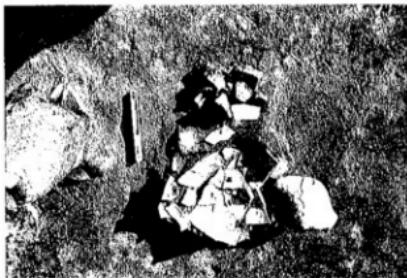
8. 13号住居遺物(459)出土狀況



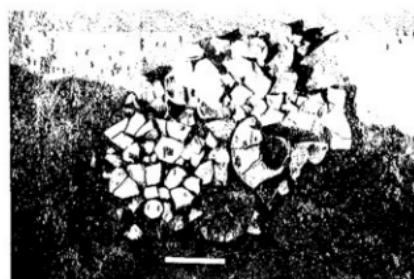
7. 13号住居遺物出土狀況



1. 13号住居遺物出土状況



2. 13号住居遺物(185-196)出土状況



3. 13号住居遺物(360-298)出土状況



4. 13号住居遺物(94)出土状況



5. 13号住居内埋め甕(487-488)確認状況



6. 13号住居内埋め甕断ち割り状況



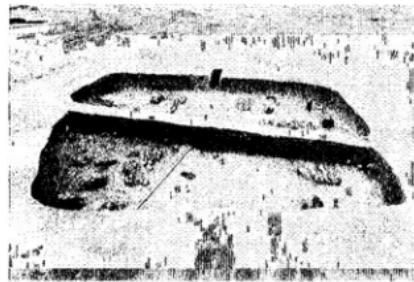
7. 13号住居内埋め甕断ち割り状況



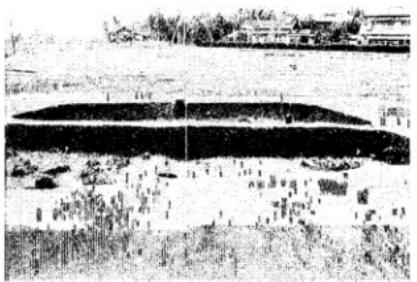
8. 13号住居内埋め甕被覆の甕(487)除去後



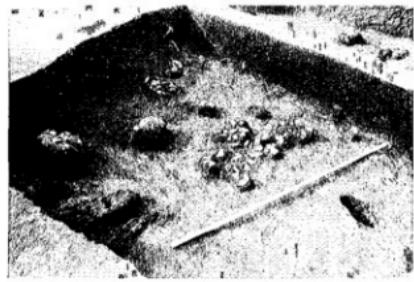
1. 20号住居全景



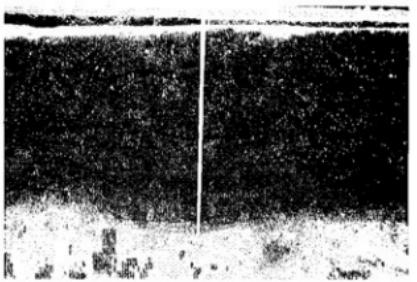
2. 20号住居遺物出土狀況



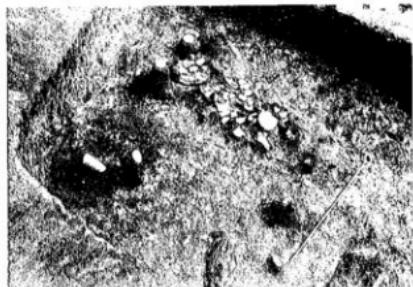
3. 20号住居土屑堆積狀況



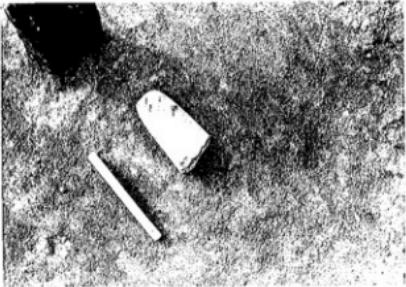
4. 20号住居遺物出土狀況



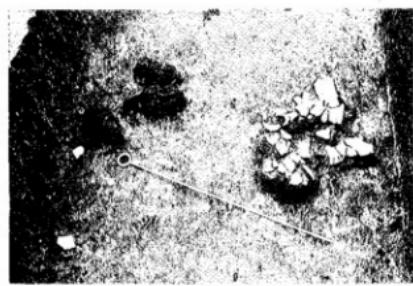
5. 20号住居土屑堆積狀況



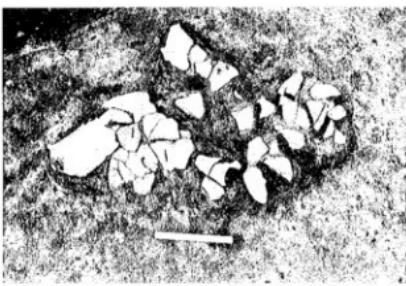
1. 20号住居磨製石斧出土状况



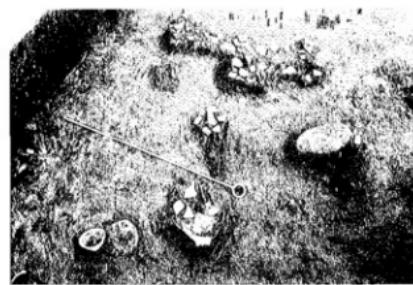
2. 20号住居磨製石斧出土状况



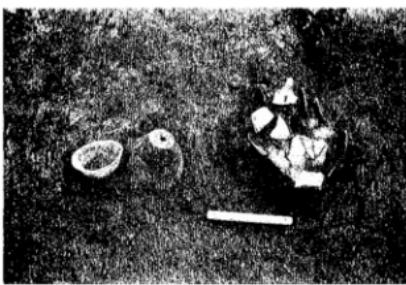
3. 20号住居遺物(154·183)出土狀況



4. 20号住居遺物(154·183)出土狀況



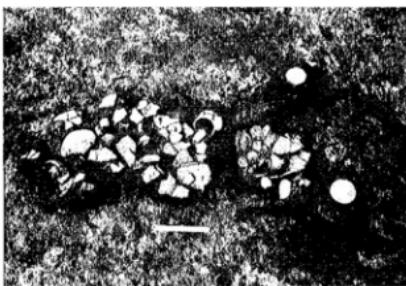
5. 20号住居遺物(326·343)出土狀況



6. 20号住居遺物(326·348)出土狀況



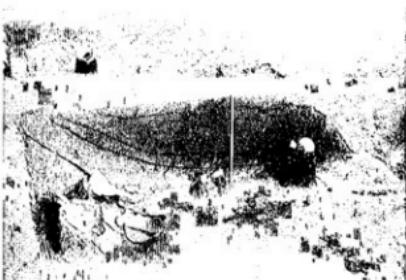
7. 20号住居遺物出土狀況



8. 20号住居遺物(13·29)出土狀況



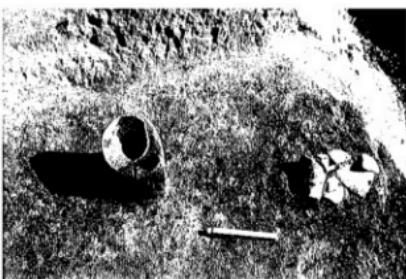
1. 22号住居遺物出土状況



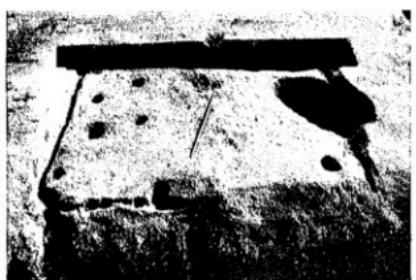
2. 22号住居土堆堆积状况



3. 22号住居遺物（27）出土状況



4. 22号住居遺物（2）出土状況



5. 23号住居全景



6. 23号住居遺物出土状況



7. 21号住居全景



8. 25号住居全景



1. 29号住居遺物出土状況



2. 29号住居全景



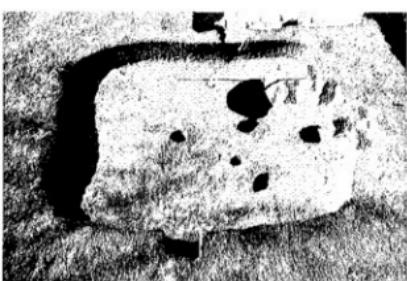
3. 29号住居遺物出土状況



4. 29号住居層堆积状況



5. 29号住居遺物(12-13)出土状況



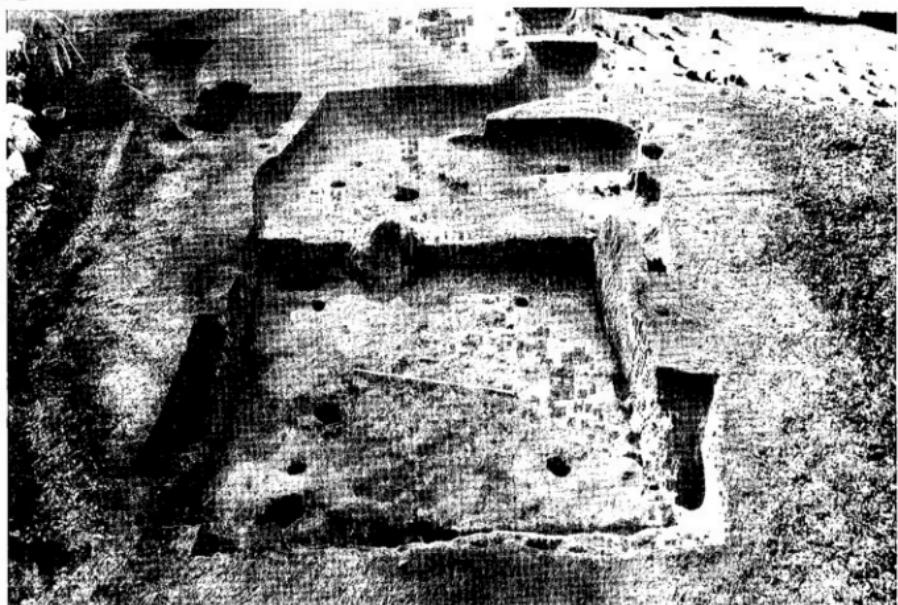
6. 27号住居全景



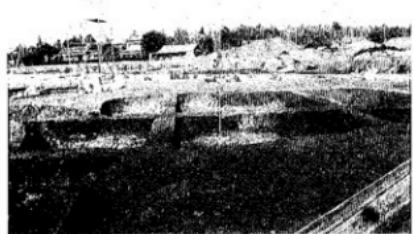
7. 27号住居遺物出土状況



8. 27号住居遺物出土状況



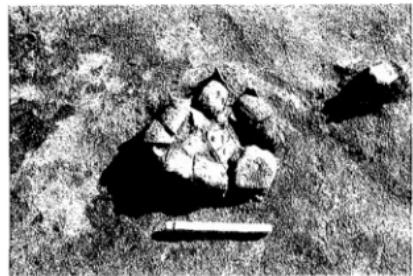
1. 30·31号住居全貌



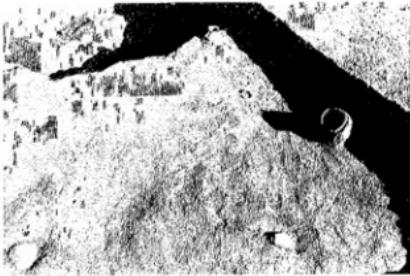
2. 30号住居土墙堆植状况



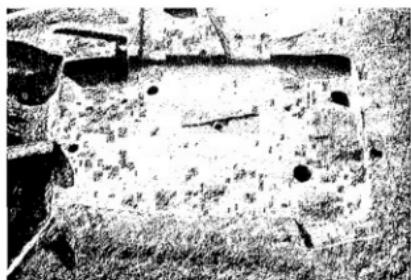
3. 30号住居遗物(4)出土状况



4. 30号住居遗物(88)出土状况



5. 30号住居遗物出土状况



1. 32号住居全景



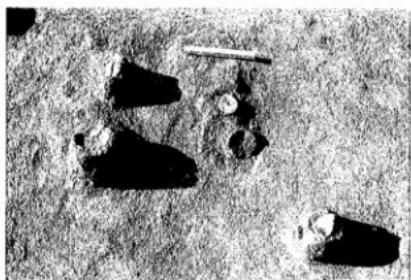
2. 32号住居遺物出土状況



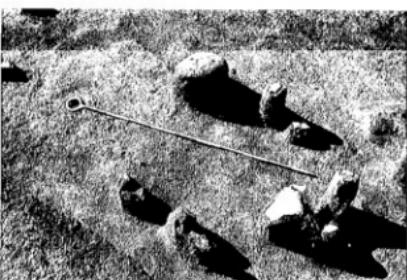
3. 32号住居遺物出土状況



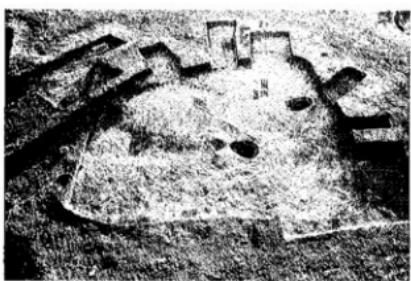
4. 32号住居遺物出土状況



5. 32号住居遺物（37）出土状況



6. 32号住居遺物出土状況



7. 33号住居全景

8. 33号住居 P₂内遺物（88）出土状況



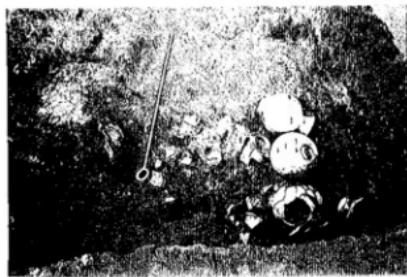
1. 方形周溝墓群全景（北より）



2. 28号住居全景



3. 28号住居遺物出土状況



4. 28号住居遺物（1-2-4-5-7）出土状況



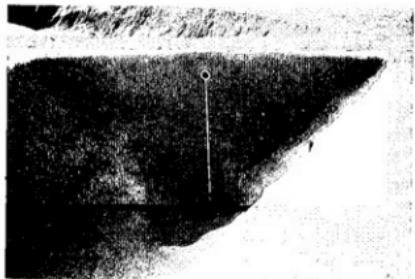
5. 28号住居遺物出土状況



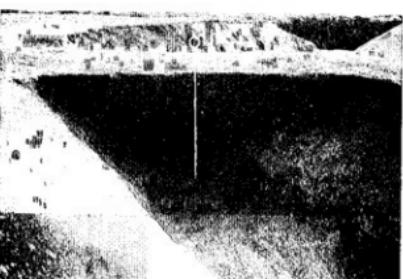
1. 1号方形圆溝墓全景



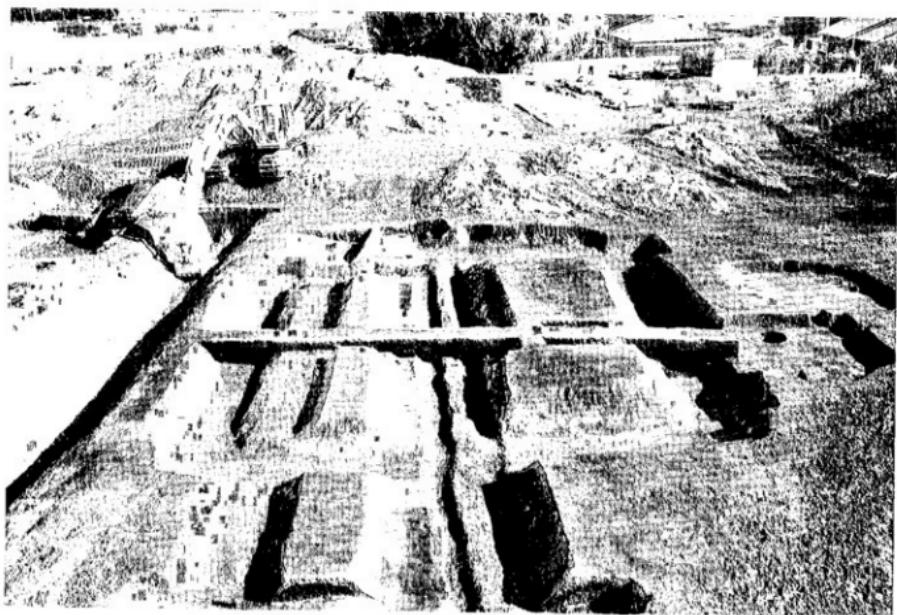
2. 1号方形圆溝墓土层堆积状况



3. 1号方形圆溝墓土层堆积状况



4. 1号方形圆溝墓土层堆积状况



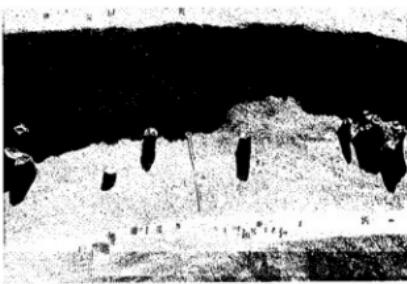
5. 3号方形圆溝墓全景



1. 2号方形圈溝墓全貌



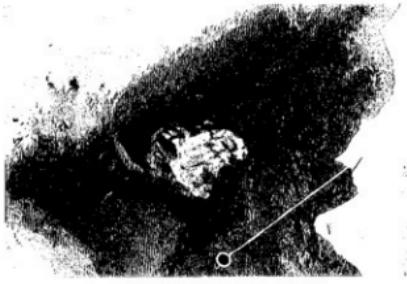
2. 2号方形圈溝墓土层堆积状况



3. 2号方形圈溝墓遗物出土状况



4. 2号方形圈溝墓遗物 (36) 出土状况



5. 2号方形圈溝墓遗物 (48) 出土状况



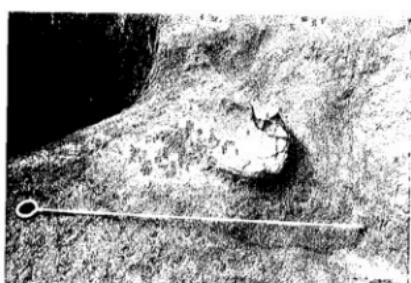
1. 4号方形周溝堀全景



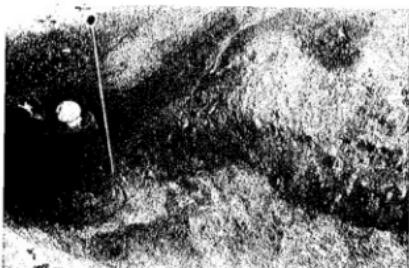
2. 4号方形周溝堀調査状況



3. 4号方形周溝堀土解堆積状況



4. 4号方形周溝堀遺物 (4) 出土状況



5. 4号方形周溝堀遺物 (1) 出土状況



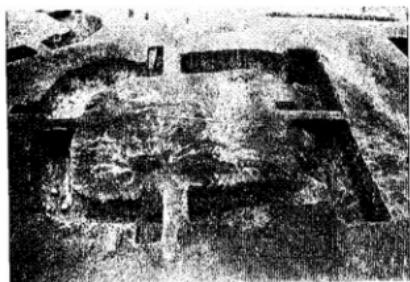
1. 5号方形周溝墓全景



2. 5号方形周溝墓遺物(1)出土狀況



3. 5号方形周溝墓遺物(2)出土狀況



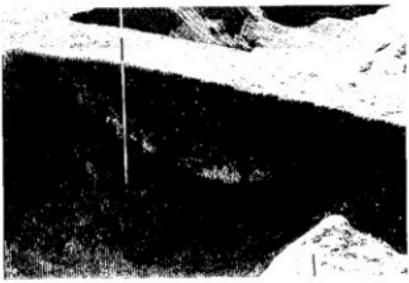
4. 6号方形周溝墓全景



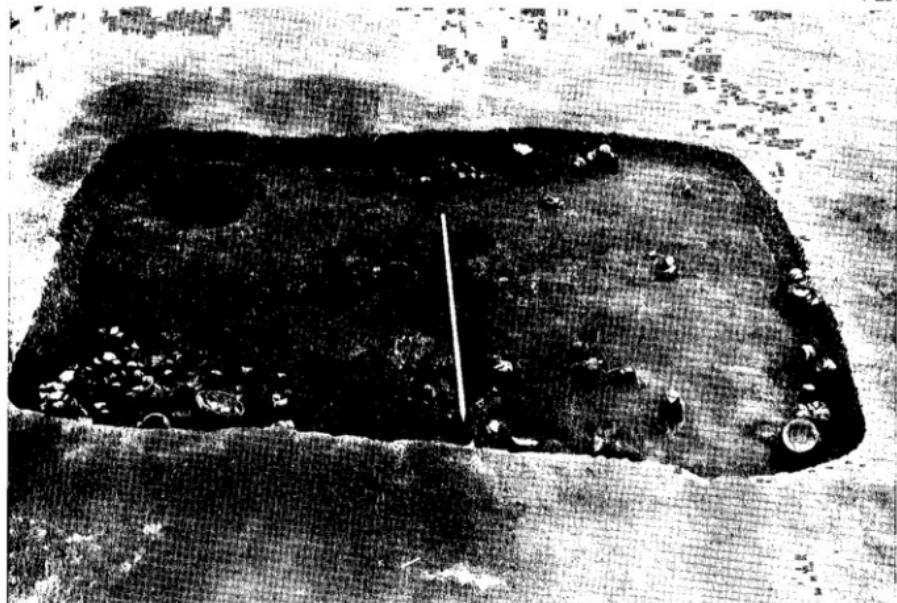
5. 6号方形周溝墓七層堆積狀況



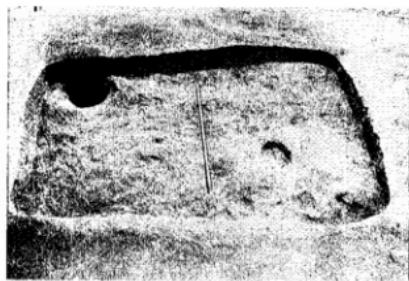
6. 7号方形周溝墓全景



7. 7号方形周溝墓七層堆積狀況(淺圓C形石)



1. 5号住居遺物出土状況



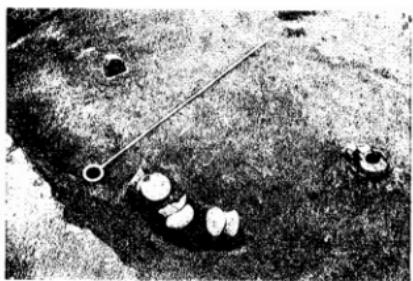
2. 5号住居全景



3. 5号住居遺物(132·170·172)出土状況



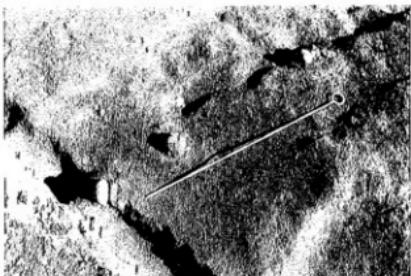
4. 5号住居遺物(2·3·4·5)出土状況



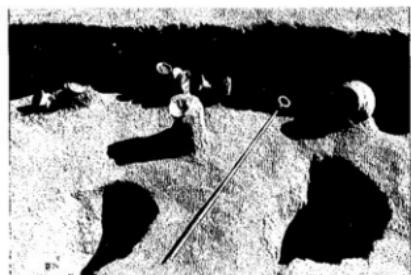
5. 5号住居遺物(8·9·10)出土状況



1. 8号住居全景



2. 8号住居遺物(11)出土状況



3. 8号住居遺物(1-2-3-4-5)出土状況



4. 8号住居遺物(2-3-4-5)出土状況



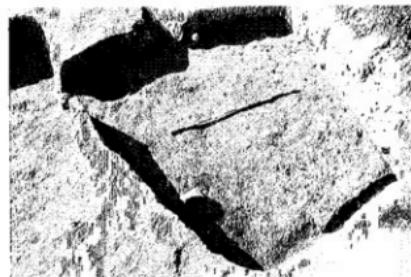
5. 8号住居遺物(1-2-3-4-5)出土状況



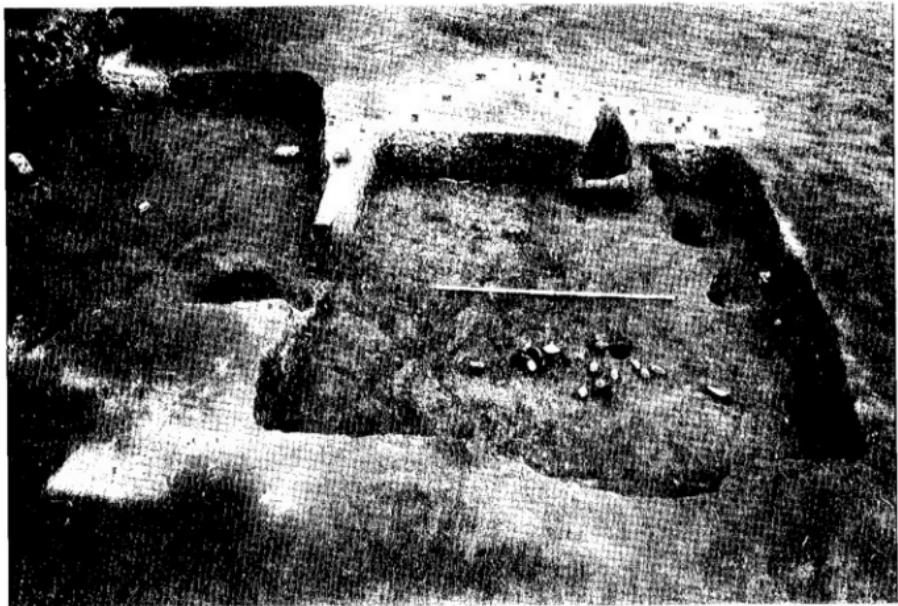
6. 8号住居遺物(11-12)出土状況



7. 8号住居遺物(6)出土状況



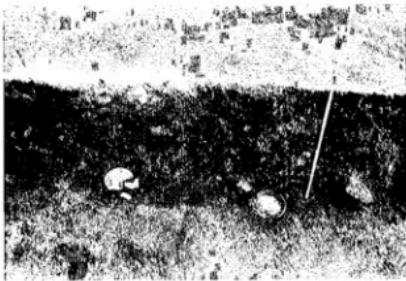
8. 1号住居全景



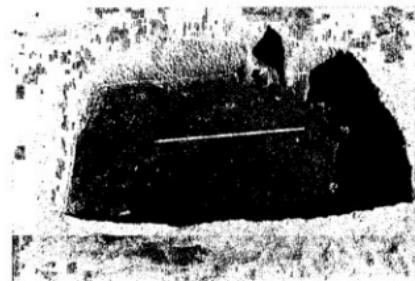
1. 2号住居全景



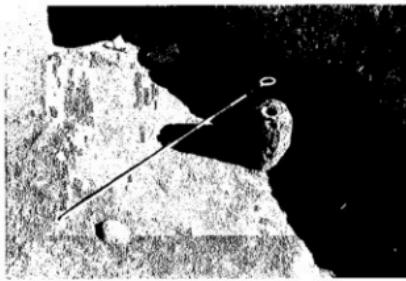
2. 2号住居南部



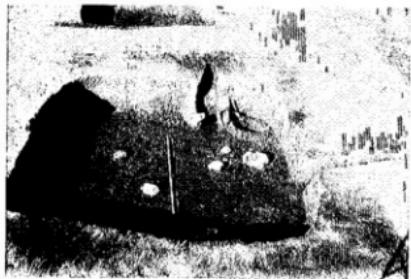
3. 2号住居遺物(1-3)出土状況



4. 3号住居全景



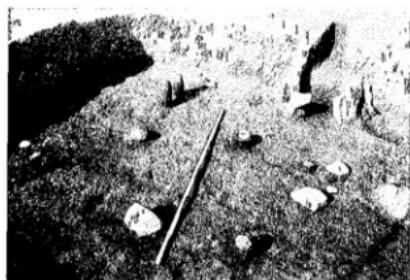
5. 3号住居遺物出土状況



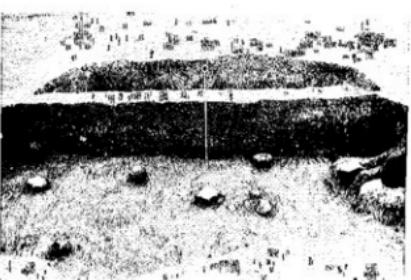
1. 4号住居全景



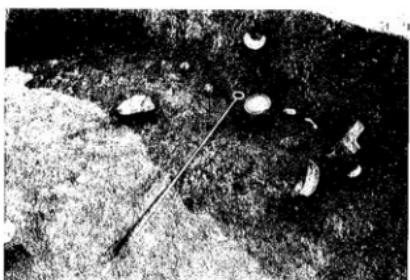
2. 4号住居遺物出土状況



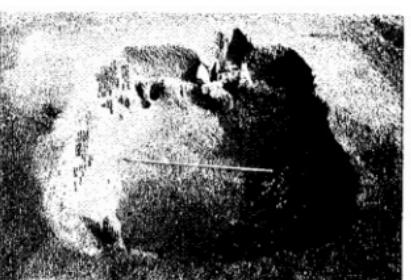
3. 4号住居東部周辺遺物出土状況



4. 4号住居土層堆積状況



5. 4号住居遺物(4-3)出土状況



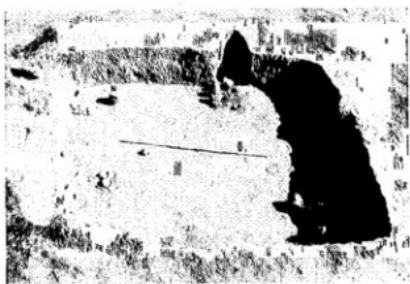
6. 18号住居全景



7. 18号住居土層堆積状況



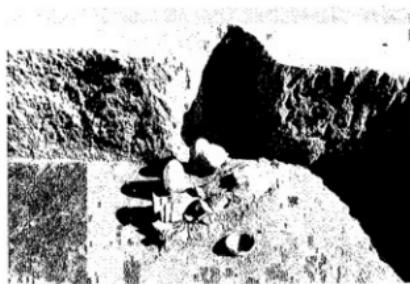
8. 18号住居東部周辺遺物出土状況



1. 16号住居全景



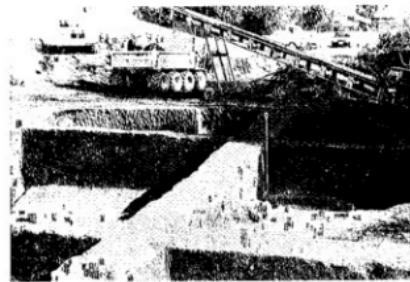
2. 16号住居土层堆积状况



3. 16号住居窟部道物出土状况



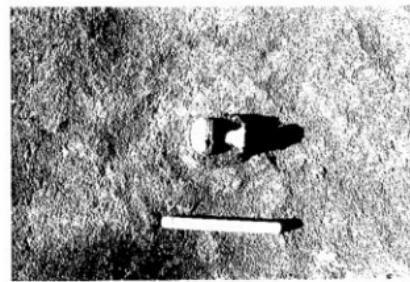
4. 16号住居道物(4)出土状况



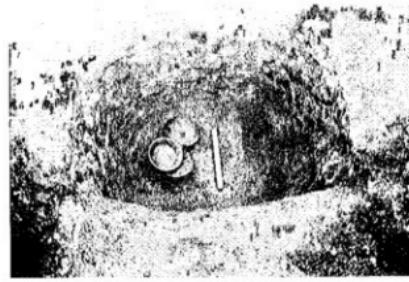
5. 31号住居土层堆积状况



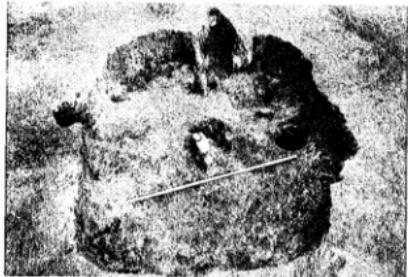
6. 31号住居窟部道物出土状况



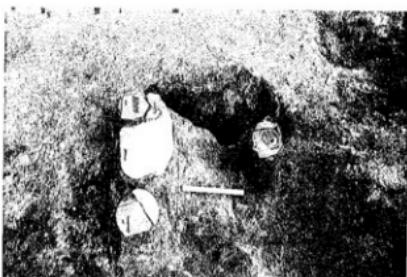
7. 31号住居道物(18)出土状况



8. 31号住居贮藏穴内道物出土状况



1. 19号住居全貌



2. 19号住居遗物出土状况



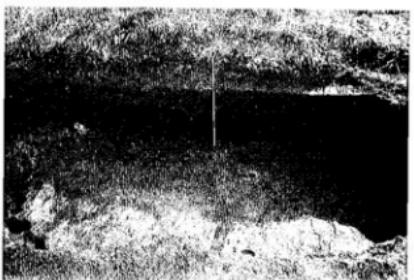
3. 26号住居全貌



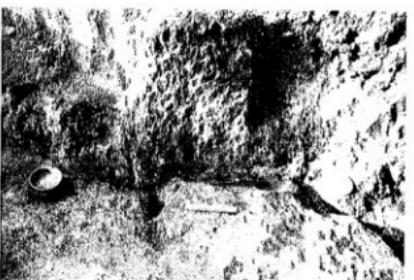
4. 26号住居遗物出土状况



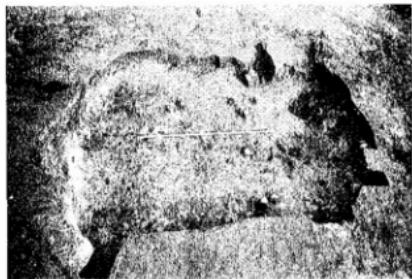
5. 24号住居遗物出土状况



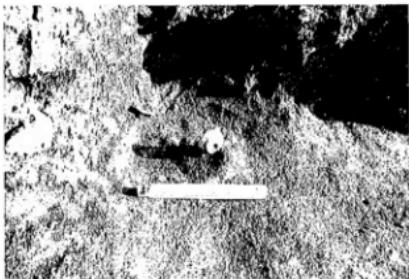
6. 24号住居土屑堆积状况



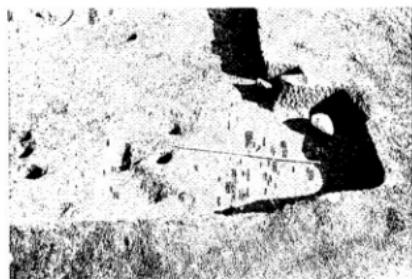
7. 24号住居遗物出土状况



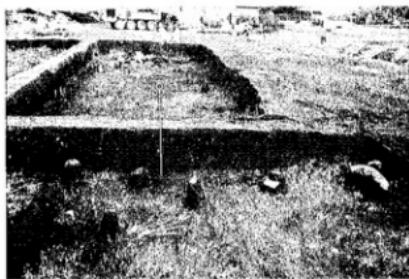
1. 12号住居全景



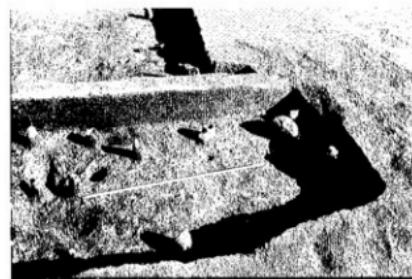
2. 12号住居遺物(石製輪轍車)出土状況



3. 14号住居全景



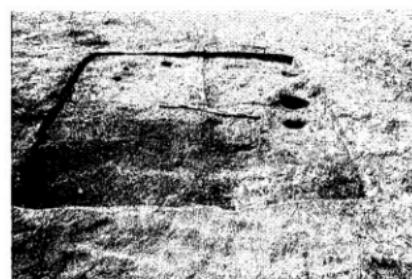
4. 14号住居土烟堆堆积状况



5. 14号住居遺物出土状況



6. 17号住居全景



7. 6号住居全景



8. 15号住居全景



1. 中央大溝全貌（東より）



2. 中央大溝土解堆積状況



3. 中央大溝西コーナー部



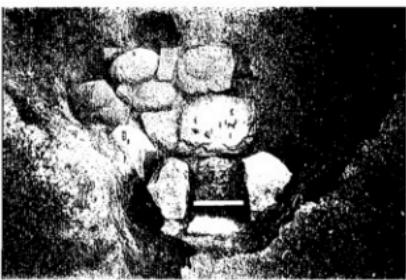
4. 近世炭窯全景



5. 炭窯喉口部



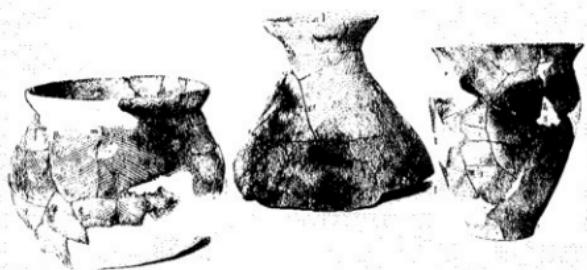
6. 炭窯喉口部近景



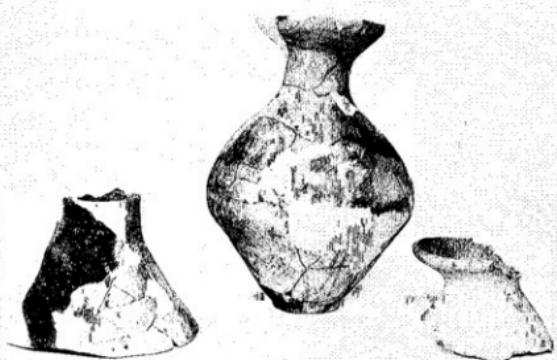
7. 炭窯煙道部



1. 7号住居出土遺物



2. 9号住居出土遺物



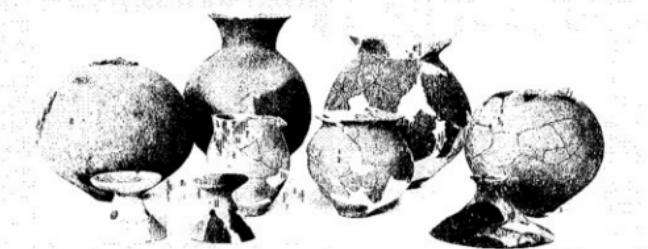
3. 22号住居出土遺物



1. 13号住居出土遺物



2. 20号住居出土遺物



3. 28号住居出土遺物



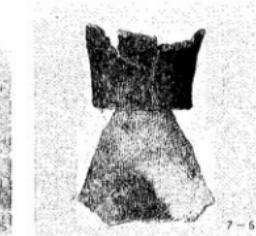
1. 5号住居出土遺物



2. 8号住居出土遺物



3. 3号住居出土遺物





10-1



10-2



11-9



11-18



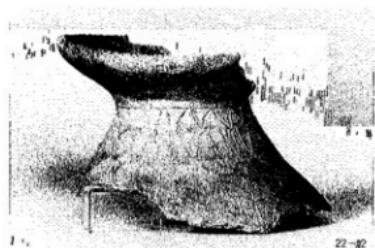
11-79



22-42



22-18



22-22



22-27



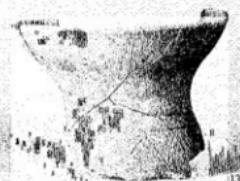
22-6



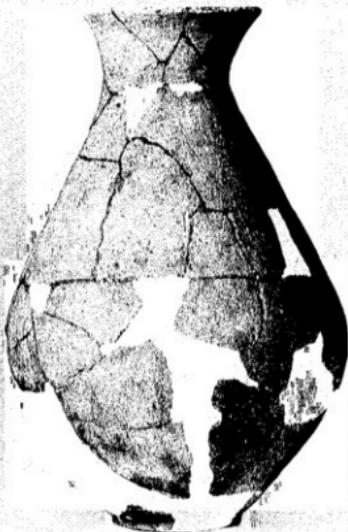
13-232



13-9



13-208



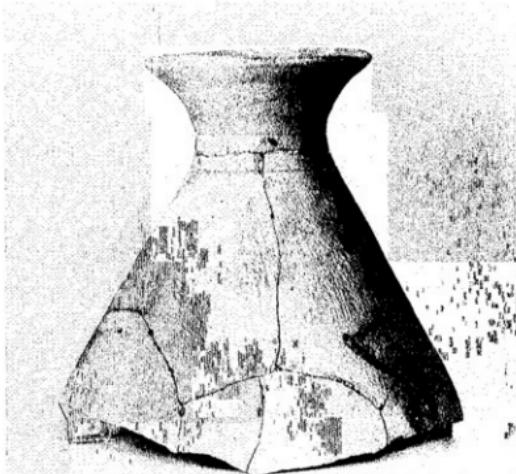
13-298



13-206



13-63



13-48



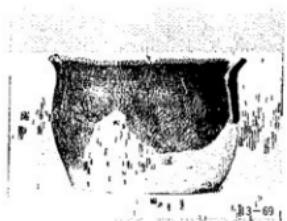
13-459



13-94



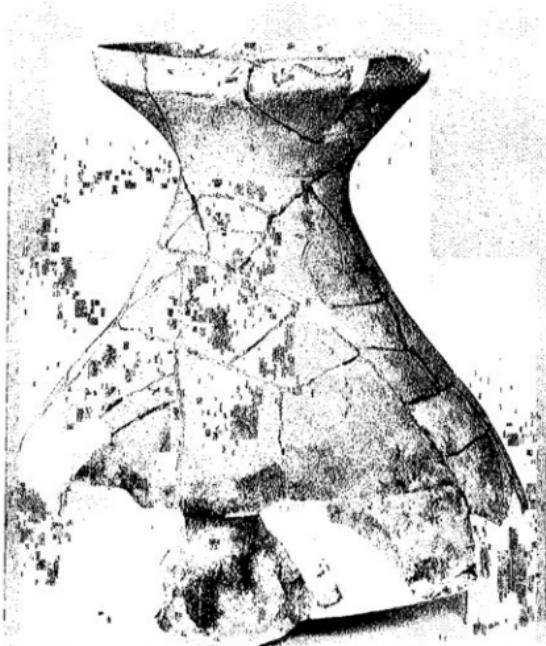
13-185



13-251



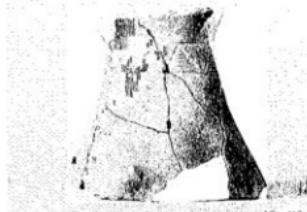
13-251



13-360



13-204



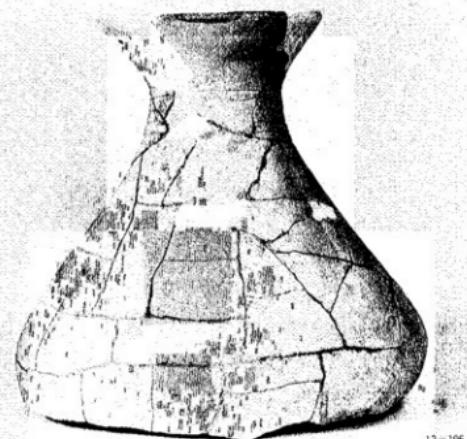
13-418



13-257



13-259



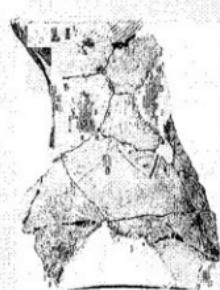
13-196

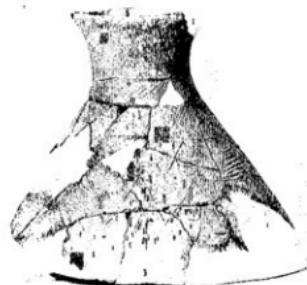


13-221



13-488





20-4



20-326



20-326



20-348



20-100



20-134



20-183



23-19



29-81



23-19



29-23



29-13



29-12



30-88



30-13



30-73



30-47



30-4



28-51



28-3



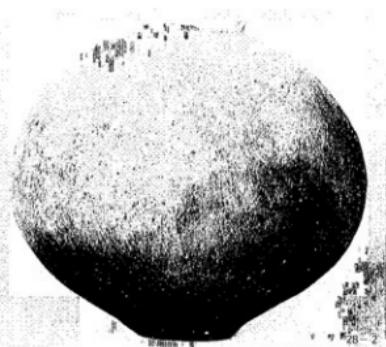
28-43



28-1



28-19



28-2



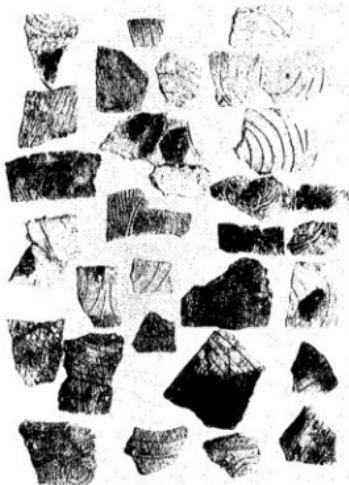
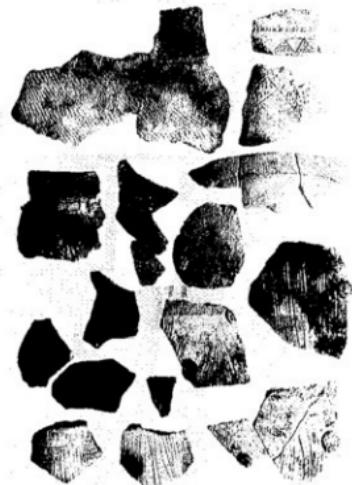
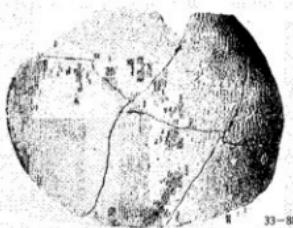
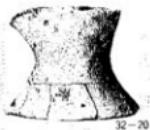
28-15

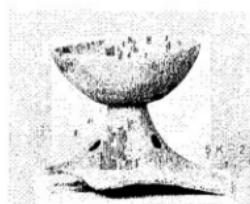


28-4



28-4







5-6



5-1



5-10



5-8



5-9



5-4



5-7



5-5



5-3



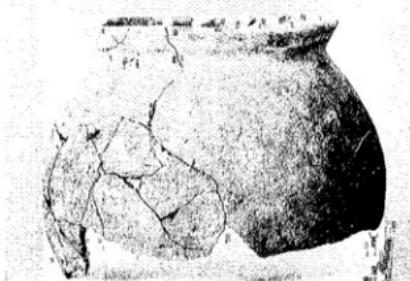
5-2



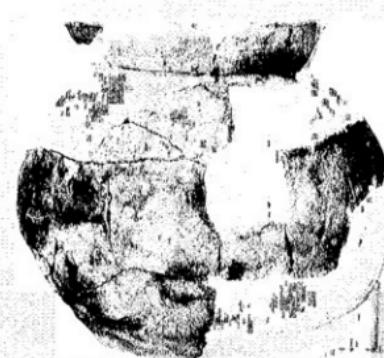
5-170



5-33



5-172



5-132



8 - 3



8 - 6



8 - 10



8 - 11



8 - 2



8 - 8



8 - 4



8 - 7



8 - 12



8 - 1



8 - 5



8 - 9



34 - 1



3 - 1



3 - 2



3 - 15.2



3 - 15.3



3 - 6



2-1



2-3



2-12



2-37



2-38



2-33



2-35

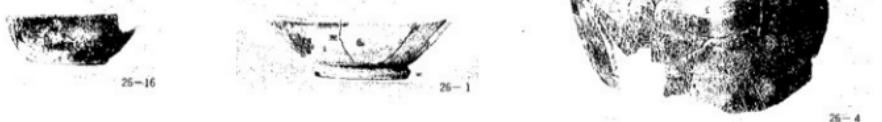
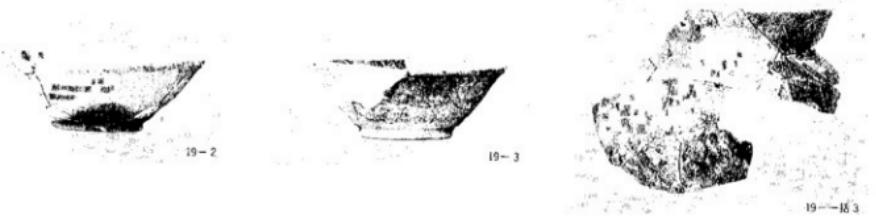


2-34





18-17





12-10



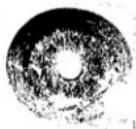
12-16



12-4



12-40



12-1



14-7



14-11



14-7



14-15



14-8



15-1





7号住居出土石器



33号住居出土石器



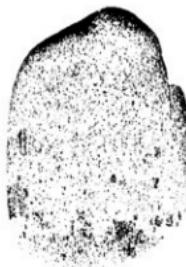
13号住居出土石器



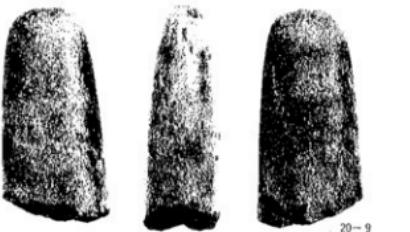
20号住居出土石器



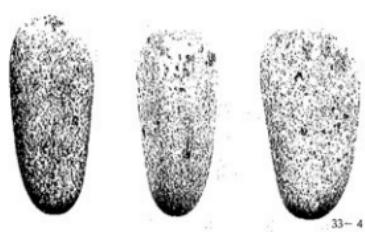
33-14



10号住居出土石器



20-9

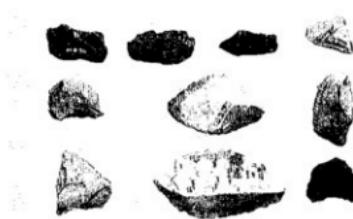


33-4

• 7 H - 18 • 9 H - 39 • 10H - 18 • 11H - 18

• 7 H - 13 • 9 H - 55 • 11H 69

• 20H - 18 • 22H - 37 • 32H - 18



33-32 a

32-40 a

33-43 a

33-32 b

32-40 b

33-43 b



23-2



32-18



7-9

柏川村文化財報告第11集 西迎遺跡

平成2年3月17日印刷
平成2年3月20日発行

編集 発行 柏川村教育委員会
群馬県勢多郡柏川村西田面194-4
〒371-02 Tel 0272-85-3311
印刷 朝日印刷工業株式会社
